

外部評価の評価手順（令和2年度）

1. 外部評価委員会の各評価委員による評価

各評価委員がそれぞれ、委員個々の評価結果報告書を作成する。

(1) 評価にあたっては、「外部評価報告（委員提出用）」を用いて、中間評価（自己点検）活動状況と評価、運営協議会によるプレゼンテーション・質疑応答に基づき評価を行う。

(2) 当該評価報告書は、本プログラム担当ががんプロ事務局へメール等で提出し、事務局で一時お預かりした後、全ての委員からの報告が揃い次第、外部評価委員会委員長へメールにて送付・提出する。

※ 各委員からの外部評価報告 がんプロ事務局へ提出 3月19日（金）17時まで

2. 外部評価委員長による外部評価委員会評価結果（案）の作成

各評価委員からの評価報告を受けて、委員長が外部評価委員会としての評価結果（案）を作成する。その後、評価結果（案）を各評価委員へ送付し、評価委員は評価結果（案）を確認する。

各評価委員は、修正意見及び質問等があれば、その旨を任意の書式により記述し、事務局へ提出する。事務局は、意見等を整理して評価委員へ送付する。

評価委員長は、必要に応じて修正意見を踏まえた評価結果（修正案）を作成し、各評価委員へ送付する。委員長は、メール等で対応できない場合、審議の必要があると認めた場合は、外部評価委員会を再度開催する。

最終的に外部評価委員会としての外部評価結果を作成し、事務局へ通知する。

※ 外部評価（総括） 最終提出締切日 3月26日（金）17時まで

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、文科省への取組調査等の報告期限もあり、上記日程にてご対応いただきたく、よろしくお願い致します。

諸事情により、ご対応が困難な場合は、お知らせください。

【問い合わせ先】金沢大学 北信がんプロ事務局 担当 今村
TEL : 076(265)2854 FAX : 076(265)2855
mail : gpro@med.kanazawa-u.ac.jp

令和2年度外部評価委員会

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

北信がんプロ活動状況報告

統括事業責任者 矢野 聖二

金沢大学附属病院がんセンター

金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍内科

WPI 金沢大学ナノ生命科学研究所

報告内容

- 1、文部科学省 中間評価の結果と対応
- 2、履修生の受け入れ状況
- 3、各事業の進捗
 - (1)教育コースの整備状況
 - (2)北信がんデータベース
- 4、予算
- 5、今後の予定

中間評価 提出資料

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェSSIONAL）」養成プラン」令和元年度 中間評価時 進捗状況

取組大学：金沢大学（連携大学：信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学）取組名称：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

○取組概要：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成では①各大学の強みを生かした相互補完的教育コース(本科10コース、インテシブ11コース)②テレビ会議を使用した多施設・多職種連携の定期演習(北信オンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会)③特徴ある症例の地域がんデータベース構築に取り組んでいます。

地域での症例や先進的がん医療の実態を把握し、戦略的がん医療人を育成するシステムを構築

◆各大学の強みを生かした相互補完的教育コース：多職種のがん医療人を数多く育成

本科10コース 68 / 45名(充足率 151.1%)

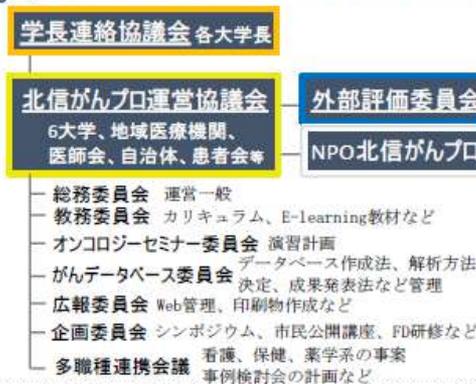
コース名	職種	受入目標人数	受入実績
金沢大 先進的個別化医療	医師	10	14
個別化薬物療法	薬剤師	3	3
高度化医学物理士	医学物理士	4	7
信州大 ゲノムがん治療医	医師	4	4
遺伝カウンセラー	遺伝カウンセラー	2	4
富山大 高齢がん患者対策	医師	8	16
個別化医療薬剤師	薬剤師	2	3
福井大 地域がん専門医	医師	4	9
金沢医大 がん専門医リーダー	医師	4	4
石川看護大 がんライフステージ	看護師	4	4
平成30年4月受入開始～令和元年10月	合計	45	68

インテシブ11コース 227 / 156名(充足率 145.5%)

コース名	職種	受入目標人数	受入実績
金沢大 がんゲノム生涯教育	医師	14	25
個別化薬物実践	薬剤師	4	7
がんゲノム多職種連携入門	多職種	20	45
信州大 がん専門医療人養成	多職種	5	6
富山大 高齢がん患者対策	医師	6	6
高齢対策薬剤師	薬剤師	5	9
在宅緩和リハ	看護師	3	9
福井大 在宅栄養管理	多職種	34	46
在宅緩和医療	多職種	48	51
金沢医大 がん薬学的治療	医師	5	5
石川看護大 がんライフケア	多職種	12	18
平成29年10月受入開始～令和元年10月	合計	156	227

◆実施体制：学長連絡協議会による進捗管理、運営協議会で意思決定、外部評価委員会による定期評価

北信がんプロ連携6大学による運営



各大学の学長による事業の進捗管理(3回)

自治体・がん拠点病院患者会との協議(3回)

外部の評価委員による定期的評価(年1回)

NPO北信がんプロ機構設立平成31年4月：事業を側面支援

NPO法人北信がんプロ認定機構

▶ 主な取組と進捗状況：テレビ会議システムによる各種セミナーがんデータベース解析結果を情報発信

特徴ある症例の地域がんデータベース構築



北信4県のがん診療連携拠点病院から平成22年～平成27年の院内がん登録データ(21施設：15.7万症例)と隣がいがん情報(10施設：医療費受給者証を有する2479症例)を収集し、データベースを構築
学会において3演題を報告

特徴：石川県では小児・AYA世代がんの割合が大

小児がん医療費負担軽減、妊孕性保存体制構築の必要性を石川県議会に政策提言

市民への啓蒙・成果の還元

合同市民公開講座3回開催 第2回(福井市)

採録記事を4県の地元新聞で掲載

多施設・多職種連携の定期演習

遠隔教育システム活用

e-learning教材 19科目作成



北信オンコロジーセミナー 計8回開催 671名参加

ライフステージ事例検討会 計21回開催 1,767名参加

海外研修者によるFD講習会(ゲノム医療、緩和ケア等) 海外研修3回実施 41名派遣

九州がんプロとの合同シンポジウム(プログラムの情報発信・普及)

北信がんプロの3病院ががんゲノム医療拠点病院に指定

▶ 北信地域のがんゲノム医療提供体制を構築

推進委員会からがんプロ全体へのコメント

- 拠点校による連携大学へのサポートや有機的な連携が十分でない
- 成果の他大学や社会への広報や情報発信が十分でない
- 多様なキャリアパスを見据えた教育プログラム・コースの構築
- 新たな教材・マニュアルの充実
- 新3分野ごとの養成人数や取り組み成果の把握
- がん患者からの声の吸い上げ
- 補助期間終了後の継続のための計画策定

北信がんプロの中間評価結果

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の
取組概要及び中間評価結果

整理番号	6
申請担当大学名	金沢大学
(連携大学名)	(信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学)
事業名	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
事業推進責任者	がん進展制御研究所腫瘍内科教授 矢野 聖二
取組概要	
<p>本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンプ9)を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) B	
おむね順調に進捗しているが、当初目的を達成するためには、留意事項を考慮し、一層の努力が必要と判断される。	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等	
<p>【優れた点】 ○北信がんプロ独自のe-learning教材の活用や、TV会議システムによる多施設・多職種連携の双方向性演習の実施など、多くの学生や医療従事者の学習に貢献している。</p>	
<p>【改善点】 ●6大学連携について、単に役割分担を行うのではなく、各大学の特徴を生かした有機的な連携について具体的な検討を行う必要がある。 ●自己点検・評価体制として、連携大学間で定期的に事業の進行状態を確認し、相互評価する体制を構築すべきである。 ●他大学との共同セミナーやシンポジウムのみならず、他大学等に本事業を普及・促進させる具体的な取り組みが必要である。</p>	

【優れた点】

○北信がんプロ独自のe-learning教材の活用や、TV会議システムによる多施設・多職種連携の双方向性演習の実施など、多くの学生や医療従事者の学習に貢献している。

【改善点】

●6大学連携について、単に役割分担を行うのではなく、各大学の特徴を生かした有機的な連携について具体的な検討を行う必要がある。

●自己点検・評価体制として、連携大学間で定期的に事業の進行状態を確認し、相互評価する体制を構築すべきである。

●他大学との共同セミナーやシンポジウムのみならず、他大学等に本事業を普及・促進させる具体的な取り組みが必要である。

反省点

- 教育プログラムなので、新しい教育システム・教材・成果が目に見えないといけない？
- 優れた点として取り上げられるべき目玉事業が目立たなかった？

中間評価への対応策－1

【中間評価における指摘事項①】

- 6大学連携について、単に役割分担を行うのではなく、各大学の特徴を生かした有機的な連携について具体的な検討を行う必要がある。

【具体的な改善計画】

- 各大学の特徴を生かした有機的な連携を強化するために、
 - ① 小児・AYAがん症例に対する妊孕性温存に対する連携が進んでいる福井県、長野県の事例を参考に、大学間連携を強化し、北信がんプロ全体での取組を進める。具体的には、医療関係者対象の勉強会をTV会議等で実施し、連携に関するパンフレットを作成し、4県のがん診療連携拠点病院に配布する。
 - ② 富山大学がリーダー校となり連携大学間で協議して緩和ケアマニュアルを作成し、妊孕性温存と同様に連携大学間での有機的な連携強化につなげる。

中間評価への対応策ー2

【中間評価における指摘事項②】

- 自己点検・評価体制として、連携大学間で定期的に事業の進行状態を確認し、相互評価する体制を構築すべきである。

【具体的な改善計画】

- チェックシートを用意し、自己点検、相互訪問による相互点検を年2回行う。その際、「がんデータベース事業」、「がんゲノム医療」など具体的な事業別の評価も行う。



コロナ禍のため相互訪問は中止

中間評価への対応策－3

【中間評価における指摘事項③】

- 他大学との共同セミナーやシンポジウムのみならず、他大学等に本事業を普及・促進させる具体的な取り組みが必要である。

【具体的な改善計画】

- 北信がんデータベースの解析で得られた成果をJSMO北信地区セミナー、市民公開講座で発表し、医療従事者や市民に成果を発信するほか、近隣の大学等へも取組事業を説明し、合同の市民公開講座を開催するなど、本事業の取組を広く認知してもらう。

また、北信がんプロのホームページにおいて、がん医療に関する各種数値情報や、セミナー、シンポジウムに関する情報を掲載するほか、専門医・専門薬剤師・専門看護師などの数、がんプロ履修生のがん診療連携拠点病院における在籍数を集計して掲載するなど、北信地域のがん診療連携病院との連携を強化する。

さらに、今後作成予定の妊孕性温存や緩和ケアについて作成するマニュアルを北陸、長野4県のがん診療連携拠点病院に配布する。

提出した改善計画書

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材 (がんプロフェッショナル)」養成プラン 中間評価後の改善計画書

申請担当大学名	金沢大学	
連携大学名	信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学	
事業名称	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成	
事務担当者 連絡先	所属・職名・氏名	金沢大学医薬保健系事務部学生課長・酒本 喜浩
	TEL	076-265-2126
	E-mail	iyakuhogakusei-kacho@adm.kanazawa-u.ac.jp

【記入要領等】

- 「がんプロフェッショナル養成推進委員会の所見」及び「中間評価結果における指摘事項(●のコメント)」を踏まえた具体的な改善計画を記入してください。(改善計画には、改善内容や実施時期を必ず含めてください。また、定量的な実績に対して指摘を受けている場合は、改善後の目標値等を明示してください。)
- 記入欄が足りない場合は、適宜、行を追加してください。

推進委員会の所見及び 中間評価における指摘事項(●)	具体的な改善計画
【推進委員会の所見】 1. 修了者の多様なキャリアパスを見据えた教育プログラム・コースを構築し、推進すること。	がんゲノム医療の実装化にともない北信地域で不足している遠伝カウンセラーの養成を促進するために、金沢大学保健学科で遠伝カウンセラー修士コースを令和2年4月に開講する。北信がんプロにおいても「遠伝カウンセラー修士コース」を令和2年10月までに開設し、教育コースのさらなる充実を図る。尚、「遠伝カウンセラー修士コース」の受け入れ目標は令和2年度と令和3年度それぞれ1名と設定する。
【推進委員会の所見】 2. 他大学への普及・促進を見据えた、新たな知見を含む教材・マニュアル等の充実を図ること。	小児・AYA世代がんへの対応として、北信地域で遅れている妊孕性保存の連携体制の構築に取り組み、連携に関するマニュアルを作成し、北信4県のすべてのがん診療連携拠点病院に配布する。また、緩和ケアに関して、富山大学がリーダー校となり北信がんプロ共通のマニュアルを作成し、北信4県のすべてのがん診療連携拠点病院に配布する。
【推進委員会の所見】 3. ゲノム医療、小児がん・希少がん、ライフステージに応じたがん対策の3つの分野ごとの養成人数や取組成果などを適切に把握するとともに、がん診療連携拠点病院等と連携するなど、社会のニーズにより応えられるよう改善していくこと。	3分野の履修者人数、専門医・専門職の人数を可視化して北信がんプロのHPに掲載する。また、がん診療連携拠点病院との連携事業として合同市民公開講座を年4回以上開催する。 がん診療連携拠点病院向けに開催している研修会参加者のうちがん拠点病院のスタッフ数を可視化するとともに、各がん拠点病院でニーズの高い研修テーマを把握し、研修会を企画する。
【推進委員会の所見】 4. 広報戦略として、全国の拠点が一体となったフォーラム等の開催や、がん患者からの声を吸い上げ、本事業の取組の成果とともに社会や地域に広く情報発信していくこと。	一般市民が北信4県におけるがん患者会およびがんサロンの所在を把握できるように、それぞれリスト化し北信がんプロのHPに掲載する。がん患者会にアンケート調査を行い、がん患者会のニーズの吸い上げを図る。 また、北信がんプロが開催した合同市民公開講座のダイジェスト動画を北信がんプロのHPで公開し、市民に情報提供する。

【推進委員会の所見】 5. 補助期間終了後の事業の継続のための具体的な実現可能性の高い計画を策定し、推進すること。	各大学の自己資金に加え、平成31年4月に設立したNPO法人北信がんプロ認定機構において、資金確保を進め、事業継続に伴う広報や教育システム維持にかかる資金の費用負担をおこなう。
【中間評価における指摘事項】 ●6大学連携について、単に役割分担を行うのではなく、各大学の特徴を生かした有機的な連携について具体的な検討を行う必要がある。	各大学の特徴を生かした有機的な連携を強化するために、①小児・AYAがん症例に対する妊孕性温存に対する連携が進んでいる福井県、長野県の事例を参考に、大学間連携を強化し、北信がんプロ全体での取組を進める。具体的には、医療関係者対象の勉強会をTV会議等で実施し、連携に関するパンフレットを作成し、4県のがん診療連携拠点病院に配布する。 さらに、富山大学がリーダー校となり連携大学間で協議して緩和ケアマニュアルを作成し、妊孕性温存と同様に連携大学間で有機的な連携強化につなげる。
【中間評価における指摘事項】 ●自己点検・評価体制として、連携大学間で定期的に事業の進行状態を確認し、相互評価する体制を構築すべきである。	チェックシートを用意し、自己点検、相互訪問による相互点検を年2回行う。その際、「がんデータベース事業」、「がんゲノム医療」など具体的な事業別の評価も行う。
【中間評価における指摘事項】 ●他大学との共同セミナーやシンポジウムのみならず、他大学等に本事業を普及・促進させる具体的な取組が必要である。	北信がんデータベースの解析で得られた成果をJSMO北信地区セミナー、市民公開講座で発表し、医療従事者や市民に成果を発信するほか、近隣の大学等へも取組事業を説明し、合同の市民公開講座を開催するなど、本事業の取組を広く認知してもらう。 また、北信がんプロのホームページにおいて、がん医療に関する各種数値情報を掲載するなどし、北信地域のがん診療連携拠点病院との連携を強化する。具体的には、セミナー、シンポジウムに関する情報を掲載するほか、専門医・専門薬剤師・専門看護師などの数、がんプロ履修生のがん診療連携拠点病院における在籍数を集計して掲載する。 さらに、今後作成予定の妊孕性温存や緩和ケアについて作成するマニュアルを北陸、長野4県のがん診療連携拠点病院に配布する。

がんプロ履修生の就職先のマップ化

がん患者会、がんサロンのリスト化

報告内容

- 1、文部科学省 中間評価の結果と対応
- 2、履修生の受け入れ状況**
- 3、各事業の進捗
 - (1)教育コースの整備状況
 - (2)北信がんデータベース
- 4、予算
- 5、今後の予定

令和2年度履修生の状況

(令和3年3月1日現在)

本科生コース (平成30年4月受入開始)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	先端的個別化医療	医師	0	5	5	5	5	20	0	9	5	5	5	19
	個別化薬物療法	薬剤師	0	1	2	2	2	7	0	1	2	2	2	5
	高度化医学物理士	医学物理士	0	2	2	2	2	8	0	3	4	1	1	8
信州大	ゲノムがん治療医	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2	3	3	7
	遺伝カウンセラー	遺伝カウンセラー	0	1	1	1	1	4	0	1	3	3	3	7
富山大	高齢がん患者対策	医師	0	4	4	4	4	16	0	6	9	9	9	25
	個別化医療薬剤師	薬剤師	0	1	1	1	1	4	0	1	2	0	0	3
福井大	地域がん専門医	医師	0	2	2	2	2	8	0	4	5	2	2	11
金沢医大	がん専門医リーダー	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2	2	2	6
石川看護大	がんライフステージ	看護師	0	2	2	2	2	8	0	1	3	2	2	6
		合計	0	22	23	23	23	91	0	30	37	29	0	97

インテンシブコース 平成29年10月受入開始 (一部30年4月受入開始)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	がんゲノム生涯教育	医師	2	6	6	6	6	26	2	12	11	8	8	33
	個別化薬物実践	薬剤師	0	1	3	4	4	12	0	4	3	2	2	9
	がんゲノム多職種連携入門	多職種	-	10	10	10	10	40	-	32	13	10	10	55
信州大	がん専門医療人養成	多職種	-	-	5	10	10	25	-	-	18	2	2	20
富山大	高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	8
	高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	2	9	2	5	2	2	2	11
	在宅緩和リハ	看護師	0	1	2	2	2	7	0	6	3	0	0	9
福井大	在宅栄養管理	多職種	0	12	22	22	22	78	0	23	23	25	25	71
	在宅緩和医療	多職種	0	24	24	24	24	96	0	27	24	33	33	84
金沢医大	がん集学的治療	医師	1	2	2	2	2	9	1	2	2	3	3	8
石川看護大	がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22	3	10	9	4	4	26
		合計	8	65	83	89	89	334	10	123	110	91	0	334

報告内容

- 1、文部科学省 中間評価の結果と対応
- 2、履修生の受け入れ状況
- 3、各事業の進捗**
 - (1)教育コースの整備状況**
 - (2)北信がんデータベース
- 4、予算
- 5、今後の予定

北信がんプロの実施事業

金沢大学・がん進展制御研究所
国立がん研究センター

① 講義

全国e-learningクラウド
がんゲノム、小児・AYA・希少がん、
ライフステージに関する
e-learning教材

④ スタッフ研修 (FD)

地域でのFD研修
がん拠点病院や
大学プログラムと連携
した研修会を実施

海外FD研修
ライフステージを
テーマとした研修

海外連携施設

② 演習 (多職種連携)

北信オンコロジーセミナー
ライフステージ事例検討会

⑤ 人材交流

国際シンポジウム
他のがんプロチームとの
合同シンポジウム

北信4県のがん拠点病院等
北信4県の医師会
北信4県の自治体

③ 地域がん医療の特徴把握

北信がんデータベース
(院内がん登録データを活用)
小児・AYA世代・高齢者等
のがんデータの把握→対策立案

⑥ 市民啓発・教育

市民公開講座
患者会
北信4県の自治体
北信4県の医師会
北信4県のがん拠点病院等



コロナ禍で影響を受けた事業

- **講義**：e-learning教材作成→実施
- **演習**：オンコロジーセミナー→実施
事例検討会→実施
- **北信がんデータベース**：障がい者→英語論文（Int J Clin Oncol, in press）
他の課題（投稿中2報、論文執筆中3報）
- **スタッフ研修**：各施設での研修→やや減も実施
海外FD研修→2年度連続中止
- **人材交流**：国際シンポジウム→実施できず
他がんプロチームとの合同シンポジウム→実施できず
- **市民公開講座**：合同市民公開講座→金沢医大担当分→実施できず
石川県立看護大担当分を合同講座と取り扱い実施

北信がんプロ作成のe-learning教材 (全国がんプロEクラウドにて科目受講可能)

科目名	受講開始時期
全職種共通科目	
(新) がんゲノム学特論	平成30年/5月～
(新) 小児・AYA・希少がん特論	平成30年/5月～
(新) 老年医療学特論 (ライフステージ)	平成30年/5月～
がん緩和医療学特論	平成25年/10月～
腫瘍薬物学特論	平成25年/10月～
腫瘍放射線医学特論	平成25年/10月～
分子腫瘍学特論	平成25年/10月～
臨床栄養学特論	平成25年/10月～
(追) 分子生物学入門	平成30年/7月～
(追) 在宅緩和医療特論	平成30年/7月～
(追) がん患者看護論	平成30年/8月～
(追) がん患者看護論II	平成30年/8月～

新3科目も北信がんプロの教材により単位取得が可能な状態になっている

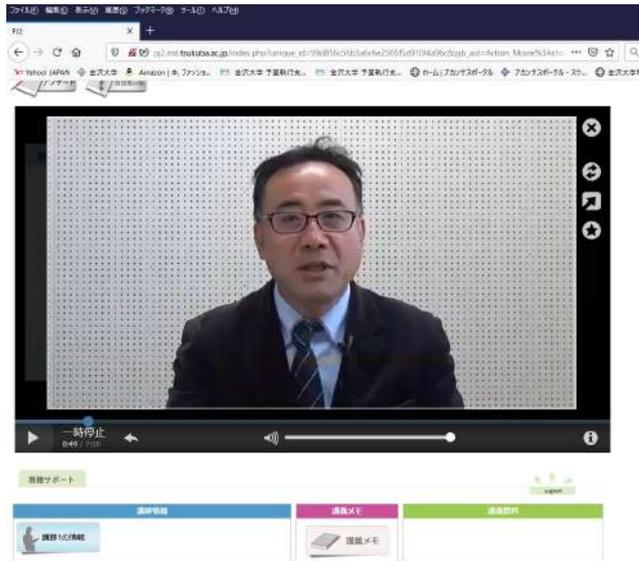
新3科目の講義テーマの種類と整備状況

がんゲノム医療			小児・AYA・希少がん			ライフステージに応じたがん医療		
1	ゲノム医学の基礎とがんゲノム	○	1	小児・AYA世代の特徴	○	1	ライフステージに応じたがん予防医学	○
2	がんゲノム医療総論	○	2	小児・AYA世代のがん治療総論	○	2	ライフステージにおける壮年期がん医療	○
3	がんゲノム医療の実際：1 体細胞変異がん (1)	○	3	小児・AYA世代腫瘍各論1 (この時期特有の腫瘍)	○	3	ライフステージにおける高齢者がん医療－機能・合併症の特徴と評価	○
4	がんゲノム医療の実際：2 体細胞変異がん (2)	○	4	小児・AYA世代腫瘍各論2 (この時期に起きる成人腫瘍)	○	4	ライフステージにおける高齢者がん医療－治療の特徴	○
5	がんゲノム医療の実際：3 家族性腫瘍・遺伝性腫瘍 (胚細胞変異がん)	○	5	希少がん(小児・AYA世代以外)	○	5	ライフステージに応じた包括的支援	○
6	ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題	○	6	晩期合併症と長期フォローアップの問題点 (1)	○	6	ライフステージにおける終末期のがん医療	○
7	がんゲノム医療に必要な体制と人材	○	7	晩期合併症と長期フォローアップの問題点 (2)	○	7	社会とがん医療	○
8	がんゲノム医療の応用と将来		8	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (1)		8	ライフステージに応じたがん医療の臨床試験	○
			9	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (2)	○			

○ 教材作成完了

3科目とも6教材以上整備され
単位取得が可能

北信がんプロが作成したe-learning教材(実例)



令和2年4月からがんゲノム医療に
「ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題」
「がんゲノム医療の応用と将来」の2講義が追加

教材の英語化への新たな取り組み

- 海外からの留学生から英語での受講希望が多い
- 収録済み・受講回数が多いe-learning教材を英語テキスト化
- 講師の承諾→講師の日本語講義を英語化→英語テキスト化

対象講義

分子腫瘍学特論: 分子腫瘍学概説、がん遺伝子、がん抑制遺伝子、
がんの転移・浸潤

がんゲノム医療: ゲノム医学の基礎とがんゲノム、がんゲノム医療総論、
がんゲノム医療の実際: 体細胞変異がん(1)、(2)

対象講義の英語テキストを完了した

(希望者に対象講義の英語テキストを配布する予定)



教育の国際化を進める

報告内容

- 1、文部科学省 中間評価の結果と対応
- 2、履修生の受け入れ状況
- 3、各事業の進捗**
 - (1)教育コースの整備状況
 - (2)北信がんデータベース**
- 4、予算
- 5、今後の予定

北信がんデータベース (計画全体像)

目的：北信地域のがん患者さん
がん医療の特徴を明らかにする



将来のがん対策立案に活用する

協力施設(22)

長野県：信州大、佐久総合、諏訪赤十字、相澤、
長野赤十字、長野市民、長野県立こども

富山県：富山大、富山市民、黒部市民、富山労災、
厚生連高岡、高岡市民、砺波総合、富山県中

石川県：金沢大、金沢医大院、石川県中、金沢医療セ

福井県：福井大、福井県立、敦賀医療セ

データ収集と発表のスケジュール

中間評価



2017 2018 2019 2020 2021 2022

(データセット 1)

(データセット 2)

院内がん登録データ

2010～2015年症例

2016～2017年症例

レセプト情報

+
障がい者情報
(可能な施設のみ)

+
障がい者情報
(可能な施設のみ)

20/22施設から受領

DPC調査ファイル

学会発表

● 北信がんDB事業

がん対策立案

- 障がい者がん (6年分)
- 高齢者がん (6年分)
- 小児・AYAがん (6年分)
- 肉腫 (6年分)
- 障がい者がんなど4種 (8年分)
- 甲状腺がん (2年分)
- 免疫CP阻害薬使用5がん種 (2年分)

日本内科学会講演会 '18 事業概要 '19 妊孕性温存 '20 障がい者

英語論文発表

障がい者 (Int J Clin Oncol, in press)

データセット1の収集、利用状況

北信4県のがん診療連携拠点病院等より2010年～2015年の院内がん登録データ(22施設)と障がい者医療費受給者証の有無に関するデータ(10施設)を収集し、データベースを構築する

がんデータベース委員会において承認済みの5課題

「高齢者のがん種別治療率の比較」

研究責任者: 林 龍二 富山大

(英語論文: 執筆中)

「小児・AYA世代のがん罹患の実態把握」

研究責任者: 中沢 洋三 信州大

(英語論文: 執筆中)

「胸膜中皮腫の診療実態」(英語論文: 投稿中) 研究責任者: 浦本 秀隆 金沢医大

「胸腺癌の診療実態」(英語論文: 投稿中) 研究責任者: 浦本 秀隆 金沢医大

「北信地域における障がい者のがん医療の実態を明らかにする後方視的検討」

研究責任者: 谷本 梓 金沢大

(英語論文: Int J Clin Oncol, in press)

北信がんデータベース全体像のデータも英語論文執筆中

(研究責任者: 矢野 聖二 金沢大)

北信がんデータベースの全体像

(全国がん拠点病院院内がん登録データとの比較)

	北信4県 (2010-2015年)						日本全体 (2010-2015年、北信4県を除く)					
	合計		男		女		合計		男		女	
	登録数	割合(%)	登録数	割合(%)	登録数	割合(%)	登録数	割合(%)	登録数	割合(%)	登録数	割合(%)
全がん	152,921	100	86,473	100	66,448	100	3,448,039	100	1,936,592	100	1,511,447	100
(希少がん)	32,997	21.6	13,845	16.0	19,152	28.8						
大腸	21,337	14.0	12,626	14.6	8,711	13.1	482,226	14.0	289,284	14.9	192,942	12.8
胃	20,078	13.1	13,947	16.1	6,131	9.2	394,824	11.5	277,603	14.3	117,221	7.8
肺	17,405	11.4	11,846	13.7	5,559	8.4	388,240	11.3	266,463	13.8	121,777	8.1
乳房	13,815	9.0	78	0.1	13,737	20.7	346,360	10.0	1,936	0.1	344,424	22.8
前立腺	11,891	7.8	11,891	13.8			268,500	7.8	268,500	13.9		
肝臓	5,599	3.7	3,831	4.4	1,768	2.7	132,749	3.8	92,462	4.8	40,287	2.7
その他	62,796	41.1	32,254	37.3	30,542	45.9	1,435,140	41.7	740,344	38.2	694,796	45.8

- 1, 全国データと比較し、胃がんと希少がんが多い傾向にあった
- 2, 4県の間には、登録割合に差のあるがん種（大腸、胃、肺、乳腺）があった
- 3, 年代別解析で、希少がんの割合が小児・AYA世代で大きく、子宮がん、乳がんの登録数が働き盛り世代で最も多かった
- 4, 希少がんのなかでは、子宮がん、頭頸部がん、造血器腫瘍、皮膚がんなどが多かった

行政への提言

- ・胃がんに対する対応強化（減塩食の指導、検診による早期発見体制の強化など）
- ・希少がんの中でも子宮、頭頸部、造血器、皮膚の検診/診断/治療体制の整備・充実

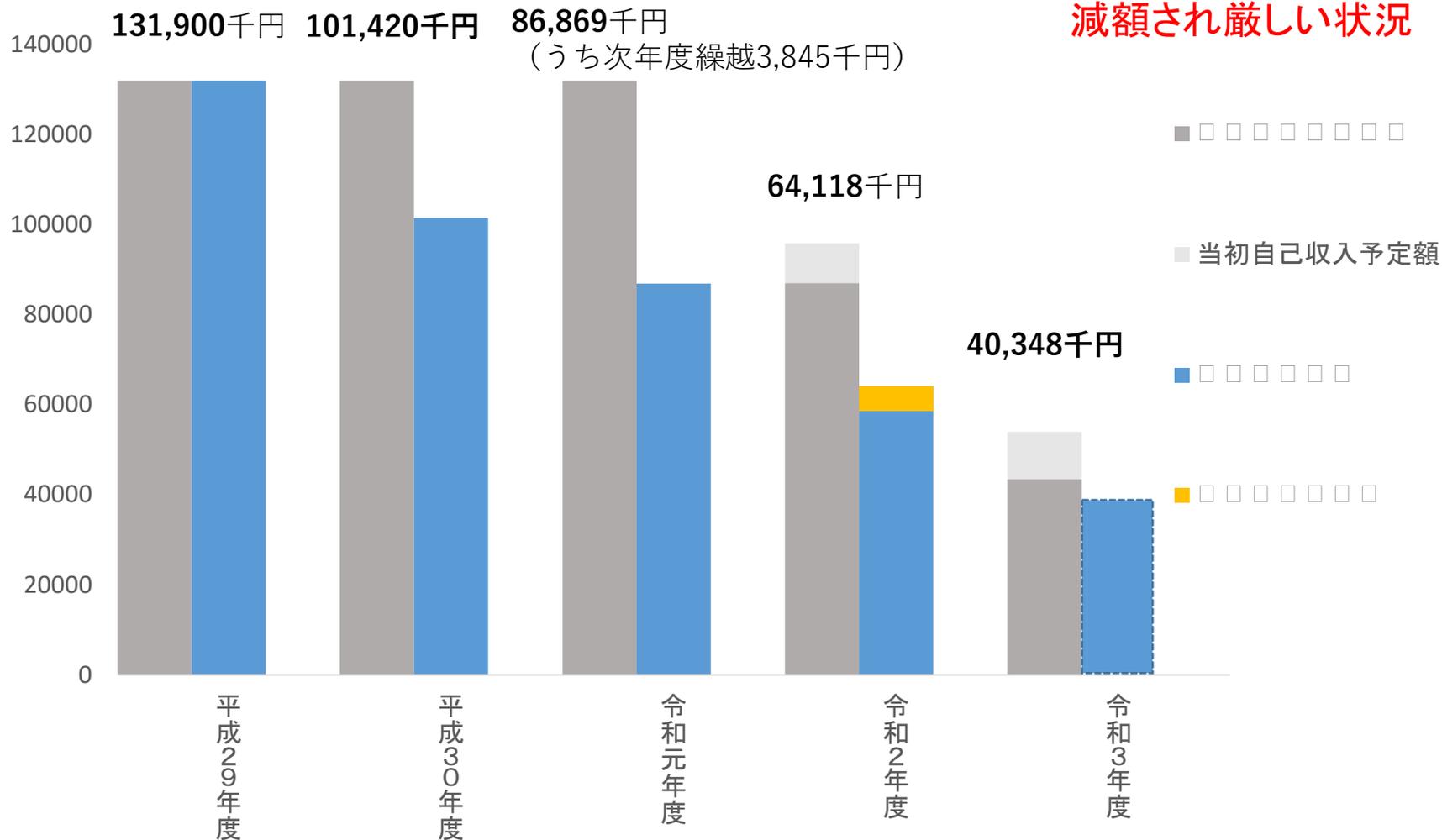
報告内容

- 1、文部科学省 中間評価の結果と対応
- 2、履修生の受け入れ状況
- 3、各事業の進捗
 - (1)教育コースの整備状況
 - (2)北信がんデータベース
- 4、予算**
- 5、今後の予定

北信がんプロ予算年次推移

北信がんプロ 補助金予定額と実際の補助金額

令和3年度はさらに
減額され厳しい状況



北信がんプロ令和2年度予算概要

(単位：千円)

	共通	金沢大学	信州大学	富山大学	福井大学	金沢医科大学	石川看護大学	合計
直接経費	11,698	7,600	10,600	5,800	8,600	5,800	4,600	54,698
間接経費	2,000	2,000	—	—	—	—	—	4,000
自己収入	0	0	1,000	0	4,000	0	420	5,420
事業合計	13,698	9,600	11,600	5,800	12,600	5,800	5,020	64,118
前年度分繰越事業	0	0	0	3,519 (海外FD研修)	0	0	325 (公開講座)	3,845

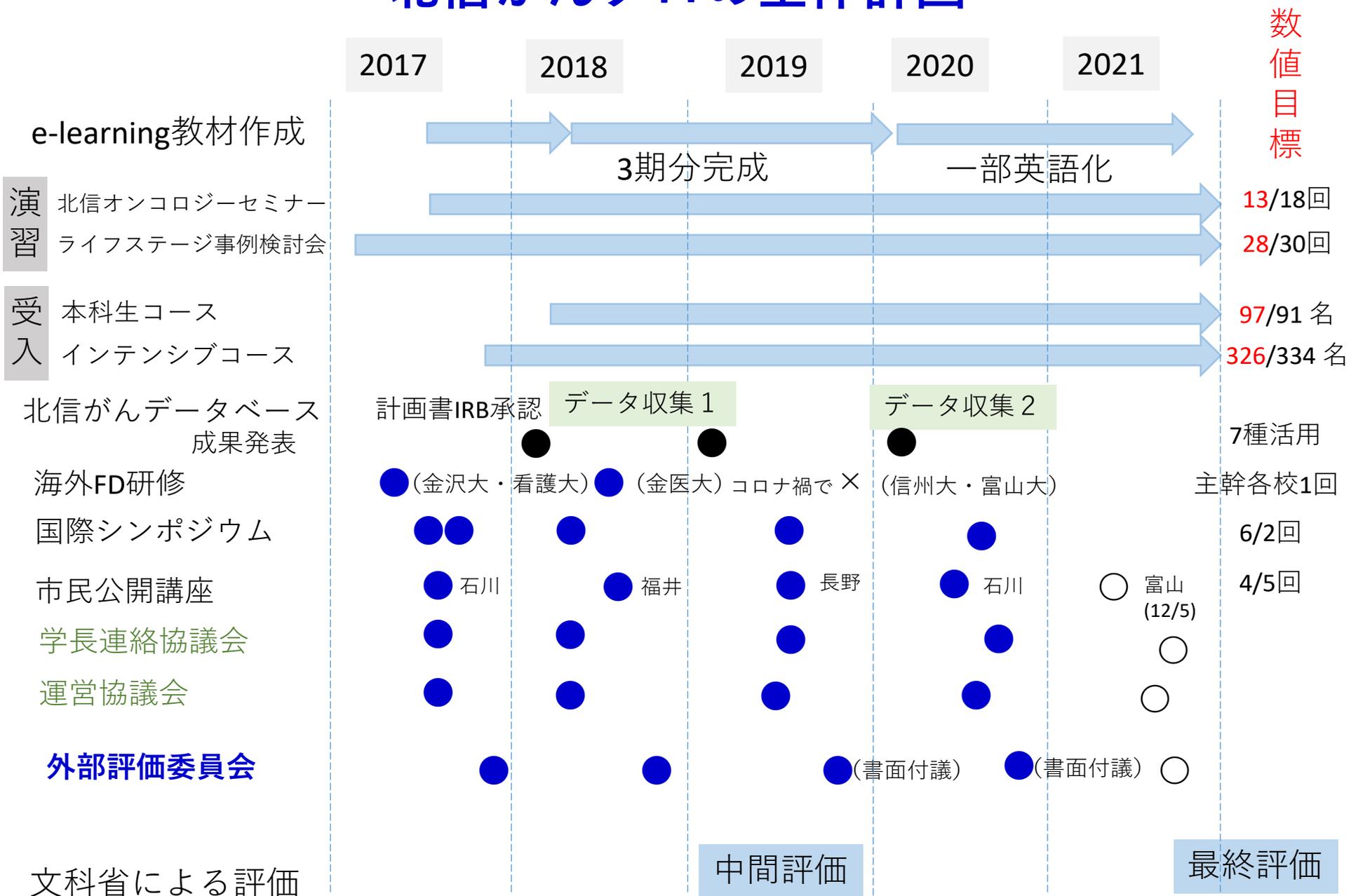


今年度も実施できず返却

報告内容

- 1、文部科学省 中間評価の結果と対応
- 2、履修生の受け入れ状況
- 3、各事業の進捗
 - (1)教育コースの整備状況
 - (2)北信がんデータベース
- 4、予算
- 5、今後の予定**

北信がんプロの全体計画



まとめ

- 1, 中間評価への対応策を策定し実行に移した
各大学の有機的連携強化のため、妊孕性温存や緩和ケアマニュアル作成に着手した
チェックシートを用意し、自己点検を行った
がんプロ履修生の就職先のマップ化、がん患者会・がんサロンのリスト化に着手した
- 2, 目標数を上回る履修生を確保した
(充足率: 本科生コース126%、インテンシブコース102%)
- 3, コロナ禍で海外FD研修と他のがんプロチームとの合同シンポジウムは実施できなかったが、その他の事業は概ね実施できた
- 4, 北信がんデータベース事業により、地域がん医療の特徴把握を進め、論文化作業を進めた(英語論文: 1報受理、2報投稿、3報執筆中)
- 5, 新たな試みとして、e-learning教材の英語化を進めた
(8講義の英語テキスト化を完了した。外国人大学院生など希望者に配布予定。)
- 6, 令和3年度は、中間評価への対応策の完了、北信がんデータベース事業や教材の英語化をさらに推進する

信州大学



令和2年度外部評価

第三期北信がんプロ 信州大学医学部医学研究科の取組状況



信州大学におけるがんプロ教育コースの紹介と受け入れ状況



- 博士課程(ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース)2名枠/年
現在研究活動を開始また大学院講義を履修中
がんプロセミナーや学内カンサーボードに参加 等
- 修士課程(認定遺伝カウンセラーコース)1名枠/年
がんプロセミナー、ライフステージ事例検討会、学内カンサーボード
がんサロンおよびクリニカルシーケンスに参加 等
- 次世代スーパードクターコース で遺伝医学教室での短期研修受け入れ
3年間で計28名：一年間の長期～週単位の短期研修を含む
がんゲノム医療の研修
- インテンシブコース(2019年より新規に開設) 10名枠/年(初年度のみ5名/年)
E-learning受講やがんプロセミナーやライフステージ事例検討会に参加

がんプロ教育コースの受け入れ状況

	2018年	2019年	2020年	充足率
博士課程 (2名/年)	2	2	3	117 %
修士課程 (1名/年)	1	3	3	233 %
インテンシブ (10名/年) * 初年度のみ5名/年		18	2	133 %

次世代スーパードクターコース

3年間で計35名:

その他見学・研修を行った医師の31名の受け入れ

北信がんプロの企画に参加・協力

- 希少がんデータベースの研究
長野県内の拠点病院に参加を促し、院内がん登録データを提出
小児・AYAのデータをがんプロ本科生が論文作成中
- 海外FD
2018年度 金沢大学企画 2名、石川看護大学企画 2名参加
2019年度 金沢医科大学企画 2名参加
- オンコロジーセミナーで第5回、10回を主催。
他同セミナーで症例提示にも協力
- 第3回北信がんプロ合同市民公開を長野市で主催

- がんゲノム外来の見学・研鑽
- エキスパートパネル会議に参加
- 院内全体で行うカンサーボード(月1回)に参加
2020年6-10月まで休会。11月から再開

附属病院で行う診療業務に参加させながら
ゲノム医療の実践および幅広いがん診療に接する

信州大学独自のがんプロ企画の医療者研修会 (都道府県がん診療拠点病院との共同開催)

都道府県がん診療連携拠点病院 医療者研修会

小児・AYA世代の がんへの対応



日時 2020年3月1日(日) 13:00~15:00

参加
無料

申込
不要

場所 信州大学医学部附属病院 外来棟4階 大会議室

対象 どなたでもご参加いただけます
*医療者研修会ですが、今回は一般の方もご参加いただけます

プログラム

講演: 「小児・AYA世代がんの現状」
大倉 絵梨 医師 信州大学医学部附属病院 小児科



講演: 「がん治療後の晩期合併症
～長期フォローアップの重要性～」
盛田 大介 医師 信州大学医学部附属病院 小児科

講演: 「妊よう性温存の実際」
岡 賢二 医師 信州大学医学部附属病院 産科婦人科

*車でお越しの際は病院駐車場をご利用ください。駐車場利用料200円をご負担いただきます。
*信州大学北信がんブロインセンティブコース対象セミナーになります。
(本研修の参加証を希望される方は受付で出席票をお受け下さい。)

- ◆主催◆ 信州大学医学部附属病院 信州がんセンター
- ◆共催◆ 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン(北信がんプロ)

◆問い合わせ先◆
〒390-8621 松本市旭3-1-1
信州大学医学部附属病院 医療支援課医療連携係
TEL: 0263-37-3391 FAX: 0263-37-2854
E-mail: sca@shinshu-u.ac.jp



昨年度はコロナ禍の関係で中止

今年度、2021年2月14日に 同じ内容でWebで開催予定

その他の渉外活動

- 子宮頸がん予防啓発プロジェクト共同開催
(年1回開催で今年11回目)

このような活動もがんプロ関連として共催で開催し、がんプロ所属院生や若手医療者の参加を促し教育活動に利用している



富山大学

北信がんプロ

富山大学での実績
2020年度

2020年度の実績

1. 演習・セミナー
2. 地域がん医療の特徴把握
3. スタッフ研修（FD）
4. 市民教育・啓発
5. 合同市民公開講座（2021年度予定）
6. 教育コース受入状況
7. 地域単位の取り組みについて
8. まとめ

1-1. 演習・セミナー 〈オンコロジーセミナー〉

北信がんプロ第12回オンコロジーセミナー
9月24日開催 参加人数：130名



北信がんプロ 第12回オンコロジーセミナー

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、
薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時	会場
2020年9月24日(木) 18:00~20:00	富山大学附属病院 2階 カンファレンスルーム 2

プログラム
症例検討

3密を避けるため、大学院生・北信がんプロ本科・
インテンシブコース受講生の方は、別途ご案内する
YouTubeライブ配信の受講をお願いいたします。

【症例1】 肺癌の二次治療

富山大学学術研究部医学系 消化器・腫瘍・総合外科
助教 平野 勝久 先生

【症例2】 遺伝子パネル検査でBRAF K601E変異が検出され 分子標的治療を行った非小細胞肺がんの一症例

金沢大学附属病院がんセンター
助教 西山明宏 先生

特別講演

肺癌の後方治療の考え方

富山大学附属病院 臨床腫瘍部
副部長・診療講師 梶浦 新也 先生



受講に関して

- ・北信がんプロ本科生コース・インテンシブコースの受講科目の単位認定の一部となります。
- ・医学系博士課程の医学特論の単位認定の一部となります。

問い合わせ先

- ・ご不明な点は富山大学学務担当係または北信がんプロ事務局にお問い合わせください。

※北信がんプロ e-learning 講義対象の演習です※

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
北信がんプロ事務局 [富山大学医薬系学務課]

〒930-0194 富山市杉谷2630番地
TEL: 076(434)7127 FAX: 076(434)4545



E-mail mpin@adm.u-toyama.ac.jp <https://www.gan-pro.net/>

ご参加お待ちしております！

1-2. 講演会・セミナー

<2020年度 看護講演会>

12月14日(月) 15:00~
(会場・Zoom同時配信)

子どもが受け身になりがちな医療現場において、子ども自身が主体的な存在であり続け、医療体験を上手に乗り越えていけるにはどのようにサポートするのか・・・

子どもへの説明やプレパレーションなど、医療チームの一員として活躍されているチャイルド・ライフ・スペシャリストの大橋先生にご講演いただきます。

がん治療を受ける 子どもの力を引き出す支援

-チャイルド・ライフ・スペシャリストの活動と実践より-

講師 大橋 未来 先生
富山大学附属病院小児科 チャイルド・ライフ・スペシャリスト

日時 2020年12月14日(月)
15:00~16:15 (14:45~受付)

会場 富山大学附属病院2階
カンファレンスルーム2
★ZOOMライブ配信(ZOOM定員100人)

会場定員 25人(先着順・参加無料)

対象 医療従事者、大学院生、学部学生

チャイルド・ライフ・スペシャリスト(Child Life Specialist: CLS)は、医療環境にある子どもや家族に、プレパレーション等を通して心理社会的支援を提供する専門職です。子どもや家族が抱える精神的負担を軽減して、主体的に医療体験に臨めるように支援し、「子どもと家族中心の医療」を目指します。
(チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会ホームページより引用)

子どもへの病名告知時のフォローって?

骨髄・腰椎穿刺などの検査時の子どもへの説明とは?



申込み方法 下記内容をご記入の上、下記事務局までE-mail (mpin@adm.u-toyama.ac.jp)にてお申し込み下さい(事務局からのメールが受信できるように設定をお願い致します)。

1. 氏名、所属先名、職種
2. ご希望の聴講方法：会場 あるいは ZOOM配信

※ZOOM配信を希望される方には、事務局から誓約書の入力URLをメール返信しますので、入力をお願い致します。

誓約書の入力がない場合、ZOOMでの聴講はできませんのでご了承下さい。

切：11月30日



北信がんプロ事務局 [富山大学医薬系学務課]

〒930-0194 富山市杉谷2630 TEL:076-434-7127 E-mail:mpin@adm.u-toyama.ac.jp

http://www.hosp.u-toyama.ac.jp/oncology/ganpro/index.html

2. 地域がん医療の特徴把握

[学内研究者用]

西暦 2018 年 5 月 10 日

倫理審査申請書

富山大学附属病院長 殿 ¹

研究責任者 ²

所属：臨床腫瘍部

職名：教授

氏名：林 龍二



TEL (内線)：7807

E-mail:hsayaka@med.u-toyama.ac.jp

下記の研究について申請いたします。

記

整理番号	臨30-21 <small>(申請時は空欄のまま提出する。)</small>	
研究の名称	北信地域におけるがん医療の実態を把握するデータベース構築	
ヒトゲノム・遺伝子解析	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (研究計画書に遺伝情報の開示を含む取り扱いを記載) <small>(がん等の疾病において病変部位にのみ後天的に出現し次世代には受け継がれないゲノム又は遺伝子の変異を対象とする研究は除く。該当する場合は研究計画書に遺伝情報の開示に係る方針を記載)</small>	
	<input checked="" type="checkbox"/> 研究計画書 (版数: 8)	27年8月 日付
	<input type="checkbox"/> 説明・同意文書 (版数:)	年 月 日付

[学内研究者用]

西暦 2019 年 5 月 20 日

倫理審査申請書

富山大学附属病院長 殿 ¹

研究責任者 ²

所属：附属病院臨床腫瘍部

職名：教授

氏名：林 龍二 印

TEL (内線)：

E-mail:hsayaka@med.u-toyama.ac.jp

下記の研究について申請いたします。

記

整理番号	(申請時は空欄のまま提出する。)	
研究の名称	北信地域における高齢者の癌種別治療率の比較	
ヒトゲノム・遺伝子解析	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (研究計画書に遺伝情報の開示を含む取り扱いを記載) <small>(がん等の疾病において病変部位にのみ後天的に出現し次世代には受け継がれないゲノム又は遺伝子の変異を対象とする研究は除く。該当する場合は研究計画書に遺伝情報の開示に係る方針を記載)</small>	
添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 研究計画書 (版数: 1)	2019年5月16日付
	<input type="checkbox"/> 説明・同意文書 (版数:)	年 月 日付
	<input checked="" type="checkbox"/> 研究対象者等への情報公開文書 (版数: 1)	2019年5月16日付
	<input type="checkbox"/> 臨床研究保険契約書写し又は見積書 <input type="checkbox"/> 提出予定	年 月 日付
	<input type="checkbox"/> 主機関の承認文書写し	年 月 日付
	<input type="checkbox"/> モニタリング計画書 (版数:)	年 月 日付
	<input type="checkbox"/> 監査計画書 (版数:)	年 月 日付

第117回日本内科学会講演会
医学医・研修医の日本内科学会ことはじめ

優秀演題賞受賞者

4. 林 佑樹	10. 井崎 真理	15. 横井 美咲	21. 中村はるか
29. 菅野 直大	35. 福岡なつみ	44. 近藤 聡美	50. 近藤弘太郎
61. 瀧井 未来	68. 畑崎 祐志	76. 天野 千尋	78. オルグン ドルック
91. 村田 直矢	97. 猪股 奈々	115. 加藤 雅隆	123. 宮原 友輝
132. 野中 翔太	142. 山口 和摩	149. 根岸 美帆	157. 中村 大
165. 三崎 誠	171. 橘 秀徳	180. 三角 昂之	189. 伊利 孝宣
192. 伊藤 綾香	198. 森 忠輝	205. 織部峻太郎	215. 佐伯 翼
234. 丸以 健	239. 小池みなみ	244. 松田 一樹	248. 小田 康弘
259. 都築 美輝	264. 村上 諒典	274. 板坂 卓穂	282. 田村 有
287. 伊藤 康彦	288. 小林 千晴	296. 金 夏倫	308. 萩原 剛志
320. 南学 正仁	332. 岸岡 歩	339. 畑田 達哉	342. 忽滑谷智紀
352. 河田 彩音	357. 下濱 祥	371. 堀江 和史	373. 谷村 純
385. 小滝 智美	389. 原 万怜	402. 道祖田直紀	404. 原 万怜
414. 渡邊 佑衣	418. 西田 知也	423. 林 優作	428. 布施 智博
436. 山本 優里	447. 久野 祐樹	453. 中村 孝志	460. 岩出 良介
464. 井田 千晶	469. 三宅 広晃	481. 佐藤 元輝	486. 木村 恵理
501. 松本麻里奈			

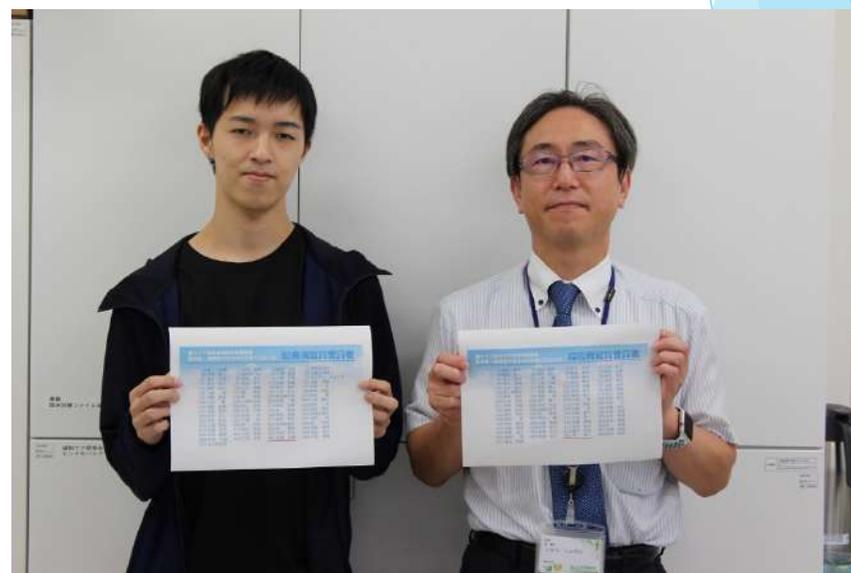
第117回日本内科学会講演会
医学医・研修医の日本内科学会ことはじめ

指導教官賞受賞者

4. 勝見 智大	10. 見坂 恒明	15. 見坂 恒明	21. 小池 祐司
29. 櫻庭 彰人	35. 吉野 雄大	44. 都築 義和	50. 楠原 光謹
61. 忍 哲也	68. 小寺 聡	76. 飯野 貴子	78. 桃井 瑞生
91. 猪子 森明	97. 三浦 正暢	115. 菊池 華子	123. 矢野 俊之
132. 大谷 速人	142. 萩原 義人	149. 宗形 昌儒	157. 土肥 由裕
165. 駒ヶ嶺順平	171. 浦風 雅春	180. 津村 和大	189. 尾原 晴雄
192. 藤本 真徳	198. 神崎 剛	205. 豊原 敬文	215. 宮川 太郎
234. 山本 伸也	239. 金子 恵一	244. 大高 望	248. 乳原 善文
259. 荒井 大輔	264. 中村 守男	274. 片桐 祐司	282. 笠井 大
287. 鋪野 紀好	288. 高橋左枝子	296. 加藤 淳	308. 荒幡 昌久
320. 塚本 祥吉	332. 荒 隆英	339. 岩城 憲子	342. 手塚 俊樹
352. 福武 滋	357. 滝沢 翼	371. 大木 宏一	373. 山本 智清
385. 坂田 康明	389. 古賀 智裕	402. 長縄 達明	404. 岩本 直樹
414. 岩崎 博道	418. 中野 和久	423. 瓜田 純久	428. 林 俊誠
436. 齊藤 裕之	447. 齊藤 裕之	453. 藤川 裕恭	460. 加藤 幹朗
464. 高桑 修	469. 船越 信介	481. 林 龍二	486. 鈴木 修平
501. 熊谷 知博			

北信地域における非小細胞肺癌の年齢別治療状況
佐藤元輝他、北信がんプロ・地域がんデータベース研究

本科生コース佐藤君が日本内科学会ことはじめで優秀演題賞を受賞しました。



3. スタッフ研修 (FD)

〈海外FD研修〉

台北医学大学、台北医学大学雙和病院へ
訪問視察を行います。

〈テーマ〉

- ・「がんゲノム医療」
- ・「がん免疫」
- ・「台湾におけるがん診療」

日程：

2020年2月17日(月)～21日(金)

新型コロナウイルス感染拡大のため中止

4-1. 市民教育・啓発

9月6日（日）に、富山大学附属病院市民公開講座「総合がんセンター創設」命をまもるがん治療～北陸富山から世界へ～を開催し、140名の皆様にご参加いただきました。



富山大学附属病院市民公開講座 総合がんセンター創設

命をまもるがん治療
～北陸富山から世界へ～

入場無料

日時
2020年(令和2年)
9月6日(日) ■12:15 開場・受付
13:00 ▶ 15:35

会場
富山国際会議場大手町フォーラム
3F メインホール
〒930-0084 富山市大手町1番2号
☎076-424-5931

※ご来場にあたってのお願い

- 必ずマスクを着用してご来場ください。(マスクがないと入場できません)
- 当日体調がすぐれない場合は、ご来場をお控えください。
- ご来場の方の確認、検温を受付で行いますので、少し早めにお越しください。
- 当日発熱のある方は入場できませんので、ご了承ください。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、本市民公開講座を延期又は中止する場合があります。
最新情報は、富山大学附属病院HPの最新情報に掲載いたしますのでご確認ください。
<http://www.hosp.u-loyama.ac.jp/guide/index.html>

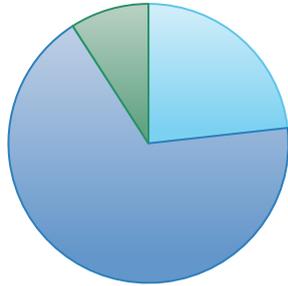
■主催：富山大学附属病院
■共催：北信がんプロ 文部科学省「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」
■後援：富山県・富山市・富山県医師会・富山市医師会・富山県薬剤師会・富山市薬剤師会・富山県看護協会・富山県がん診療連携協議会
■お問い合わせ：総合がんセンター市民公開講座事務局・株式会社ジェック経営コンサルタント
TEL.076-444-0035
FAX.076-444-1135
E-mail:center@jeckc.com

市民公開講座アンケート

「総合がんセンター創設」2020年9月6日開催
命をまもるがん治療～北陸富山から世界へ～

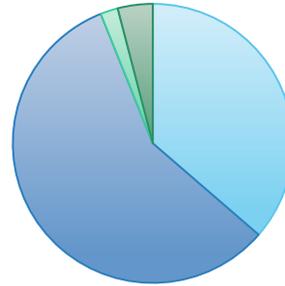
全体の印象

- 期待以上
- 期待どおり
- 期待はずれ
- 無回答



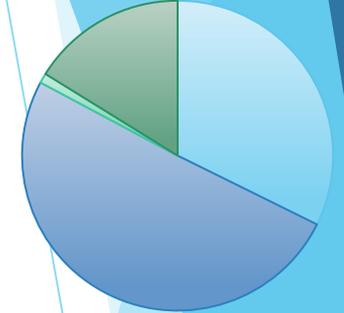
第1部「講演」の内容

- 期待以上
- 期待どおり
- 期待はずれ
- 無回答



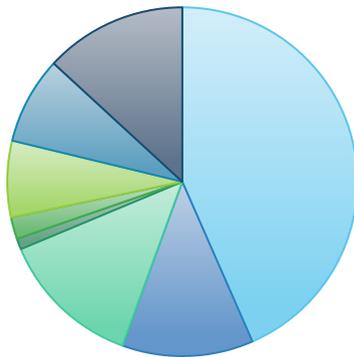
パネルディスカッションの内容

- 期待以上
- 期待どおり
- 期待はずれ
- 無回答



どこでお知りになったか

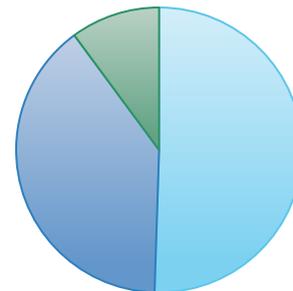
- 郵送のチラシ
- シ
ン
病院・医院
- 友人・知人
等
- Webサイ
ト



次回の市民公開講座に参加

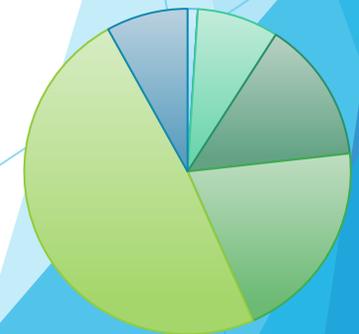
したいか

- 参加したい
- 都合がつけば参
加したい
- そう思わない



参加者年代

- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代以上



市民公開講座アンケート (ご意見)

「総合がんセンター創設」2020年9月6日開催
命をまもるがん治療～北陸富山から世界へ～

講演「各センターの特徴」へのご意見・ご感想

- ・各センターの取り組みがわかりやすく認識ができ、良かった。
- ・身近で最先端の治療が受けられて安心です。
- ・難しい事を分かりやすく説明してもらえて、非常にありがたいです。
- ・実際におこなっている現場の映像を見る事ができ勉強になりました。

パネルディスカッションについて

- ・現場の先生方の本音の話が聞いて非常に良かった。これからもこの市民公開講座に来たい。
- ・デメリット等のお話も聞いてとてもためになりました。

今後、受講を希望するテーマ

- ・富山大学附属病院チーム医療での他職種の方のお話を聞いてみたいです。
- ・化学療法部門、緩和ケア部門 ⇒ 在宅との連携
- ・薬学分野の最新技術・情報について（富山県は製薬先進県なので）

4-2. 市民教育・啓発

2021年2月14日（日）に、緩和ケア市民公開講座を行います。

プログラム

第一部 keiko&kouji コンサート
「癒しのコンサート
いのちの和音 ところに響け」

第二部
「緩和ケアとは」

第三部
パネルディスカッション

今、あなたの心は元気ですか？
一日一度、笑顔になれていますか？
毎日、目に見えない不安に怯えていますか？
同じ悲しみや、苦しみを抱いている人が隣にいると思うだけで…
心が震くかもしれません。心が助けられます。
そして、ちょっとだけがんばればちやうどです
あなたの…あんなこと、こんなこと…
治癒、闘病記体験記、etc…皆とお話しませんか？

プログラム

第一部

Keiko & Kouji コンサート

「癒しのコンサート
いのちの和音 ところに響け」

第二部

「緩和ケアとは」

富山大学附属病院 緩和ケアセンター長 梶浦 新也 先生

パネルディスカッション

ゲスト Keiko & Kouji

座長 富山大学附属病院 総合がんセンター長 林 龍二 先生

パネリスト
富山大学附属病院 緩和ケアセンター長 梶浦 新也 先生
富山大学附属病院 神経精神科 診療准教授 古市 厚志 先生
富山大学附属病院 薬剤部 薬剤師 近岡 伸悟 先生
富山大学附属病院 看護師 副看護師長 松下 孝子 先生

歌とギターであなただの心のマッサージ。

参加無料

定員 400名

※先着順 定員までご参加いただけます

ゲスト: Keiko & Kouji

シンガー Keiko
童謡から演歌、洋楽など、
どんなジャンルも曲心、楽曲仕立の
巧みさによってドラマティックな
ステージを作り上げ、
聴衆を魅了し続ける。
自らも歌手と聞かぬが、
病室や老人施設などで Kouji と共に
癒しの音楽をのびる、
ヴォイス・ヒーラーでもある。

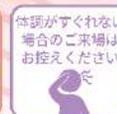
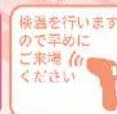


ギタリスト 岩田光司
東海7都府県で活躍される
「NHKのど自衛隊」のギタリスト。
彼の演奏の素晴らしさと個性との
相乗効果により、Keikoの歌と
パフォーマンスは絶妙な変化を奏する。
作詞・作曲・編曲家、
STUDIO TRYBENT を設立。

2020年度 富山大学附属病院 緩和ケア市民公開講座

日時 2021年 2月14日(日) 会場 富山国際会議場 3階メインホール
13:30～(開場12:45) 富山市大手町1番2号

ご来場にあたってのお願い



・当日マスクの着用をされていない方、発熱のある方は入場できませんのでご了承ください。
・新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、本市民公開講座を延期または中止する場合がございます。
・新型コロナウイルス感染症対策として参加者様の住所その他連絡先を予め把握するために、事前申込制といたします。お申込は、11月下旬より配布予定のチラシをご確認ください。



主催：富山大学附属病院 共催：北信がんプロ（公益財団法人「がん専門医療人材」養成プラン）
後援：富山県、富山市、富山県医師会、富山市医師会、富山県薬剤師会、富山県看護協会、富山県がん診療連携協議会



5. 合同市民公開講座（2021年度）

来年度は富山大学の担当です。

日 時 令和3年12月5日（日） 13:00～（予定）

場 所 富山国際会議場大手町フォーラム
3Fメインホール

テーマ 未定

ゲスト 未定



6 教育コース受入状況

北信がんプロの教育コース（受入目標と実績）

本科生コース(平成30年4月受入開始)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	先端的個別化医療	医師	0	5	5	5	5	20	0	9	5			14
	個別化薬物療法	薬剤師	0	1	2	2	2	7	0	1	2			3
	高度化医学物理士	医学物理士	0	2	2	2	2	8	0	3	4			7
信州大	ゲノムがん治療医	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2			4
	遺伝カウンセラー	遺伝カウンセラー	0	1	1	1	1	4	0	1	3			4
富山大	高齢がん患者対策	医師	0	4	4	4	4	16	0	6	10	9		25
	個別化医療薬剤師	薬剤師	0	1	1	1	1	4	0	1	2	0		3 ※1
福井大	地域がん専門医	医師	0	2	2	2	2	8	0	4	5			9
金沢医大	がん専門医リーダー	医師	0	2	2	2	2	8	0	2	2			4
石川看護大	がんライフステージ	看護師	0	2	2	2	2	8	0	1	3			4
		合計	0	22	23	23	23	91	0	30	38	9	0	77

※1 当該コースへの応募資格を持つ令和2年4月入学者(大学院生)がないため

インテンシブコース 平成29年10月受入開始(一部30年4月受入開始)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	がんゲノム生涯教育	医師	2	6	6	6	6	26	2	12	11			25
	個別化薬物実践	薬剤師	0	1	3	4	4	12	0	4	3			7
	がんゲノム多職種連携入門	多職種	-	10	10	10	10	40	-	32	13			45
信州大	がん専門医療人養成	多職種	-	-	5	10	10	25	-	-	6			6
富山大	高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2		8
	高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	2	9	2	5	2	2		11
	在宅緩和リハ	看護師	0	1	2	2	2	7	0	6	3	0		9
福井大	在宅栄養管理	多職種	0	12	22	22	22	78	0	23	23			46
	在宅緩和医療	多職種	0	24	24	24	24	96	0	27	24			51
金沢医大	がん集学的治療	医師	1	2	2	2	2	9	1	2	2			5
石川看護大	がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22	3	10	5			18
		合計	8	65	83	89	89	334	10	123	94	4	0	231

7-1. 地域単位の取り組みについて ～がんゲノム医療への取り組み～

2018年度4回のがんゲノム医療研修会

2018,19,20年市民公開講座

**第1回 富山県
がんゲノム医療研修会**
日 第2018年5月18日(金曜日) 午後6時～
会 場 富山大学附属病院 2階 臨床講義室2
対 象 富山県内の医師、歯科医師、看護士、薬剤師、
その他がん診療に関わるすべての人

**ゲノムバイオマーカー
に基づくがん最適化医療**

講師 富山大学医学部がんゲノム医療センター
1階10号ホール(富山県立総合医療センター 3階) 池田 眞勝 先生

**第2回 富山県
がんゲノム医療研修会**
日 第2018年6月9日(土曜日) 10:30～
会 場 富山大学附属病院 総合研修センター2階 多目的研修室
対 象 富山県内の医師、歯科医師、看護士、薬剤師、
その他がん診療に関わるすべての人

**がんゲノム医療
の臨床実践について**

講師 富山大学大学院 医学研究科
臨床遺伝学講座 教授 武藤 学 先生

**第3回 富山県
がんゲノム医療研修会**
日 第2018年9月14日(金曜日) 午後6時～
会 場 富山大学附属病院 2階 大会議室
対 象 富山県内の医師、歯科医師、看護士、薬剤師、
その他がん診療に関わるすべての人

**がんゲノム医療
リキッドバイオプシーとは**

講師 富山大学医学部がんゲノム医療センター 1階10号ホール
池田 眞勝 先生

**第4回 富山県
がんゲノム医療研修会**
日 第2018年11月22日(木曜日) 午後6時～
会 場 富山大学附属病院 総合研修センター2階 多目的研修室
対 象 富山県内の医師、歯科医師、看護士、薬剤師、
その他がん診療に関わるすべての人

**ゲノム医療時代の
がん診療**

講師 札幌医科大学大学院 医学部 教授 櫻井 晃洋 先生

**富山大学附属病院
がんゲノム医療
市民公開講座**
～がん治療の新たな可能性～

日時 2018年
9月22日(土) 10:30～12:30

場所 富山国際会議場大手町フォーラム
3F メインホール
〒930-0064 富山県富山市1番2号
TEL:076-424-5901

**富山大学附属病院 市民公開講座
総合がんセンター創設
命をまもるがん治療
～北陸富山から世界へ～**

日時 2020年(令和2年)
9月6日(日) 13:00～15:35

会場 富山国際会議場大手町フォーラム
3F メインホール
〒930-0064 富山県富山市1番2号
TEL:076-424-5901

入場無料

**富山大学附属病院
がんゲノム医療
市民公開講座**
がんゲノム医療の到来～

特別講演
「がんゲノム医療の
実際とこれから」
富山大学大学院医学研究科 教授 武藤 学 先生

講師 武藤 学 先生



Press Release

令和元年9月19日
照会先 健康局がん・疾病対策課
課長 緒佐 空原(内線2975)
課長 緒佐 成田(内線2987)
(代表番号)03-5253-1111

34 医療機関を「がんゲノム医療拠点病院」として初めて指定します

厚生労働省は、本日付で以下の34 医療機関を「がんゲノム医療拠点病院(※)」として、初めて指定しますので、お知らせいたします。
指定される医療機関は、令和元年9月5日「第2 回がんゲノム医療中核拠点病院等の指定に関する検討会(座長：中釜青 国立研究開発法人国立がん研究センター理事長)」で、指定することが適当とされた医療機関です。
厚生労働省としては、引き続き、がんゲノム医療を推進していきます。

(※) がんゲノム医療を提供する機能を有する医療機関として、がんゲノム医療の拠点となる病院です。

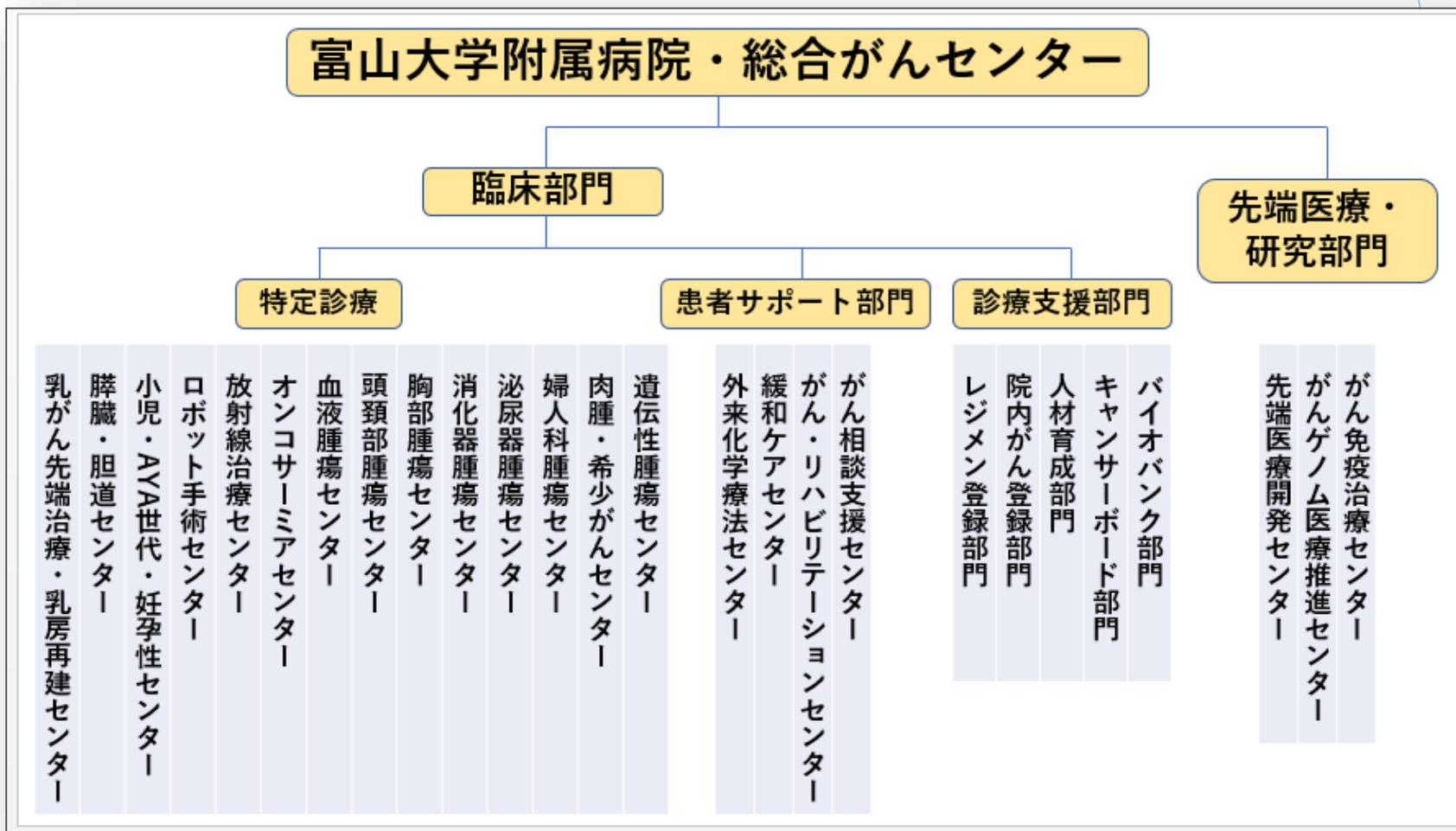
- 北海道がんセンター
- 弘前大学医学部附属病院
- 山形大学医学部附属病院
- 筑波大学附属病院
- 埼玉県立がんセンター
- 埼玉医科大学国際医療センター
- 千葉県がんセンター
- がん研究会有明病院
- 東京都立駒込病院
- 東京医科歯科大学医学部附属病院
- 国立成育医療研究センター
- 神奈川県立がんセンター
- 東海大学医学部付属病院
- 聖マリアンナ医科大学病院
- 新潟大学医学部総合病院
- 富山大学附属病院
- 金沢大学附属病院
- 信州大学医学部附属病院
- 静岡県立静岡がんセンター
- 愛知県がんセンター
- 三重大学医学部附属病院
- 大阪国際がんセンター
- 近畿大学病院
- 大阪市立総合医療センター
- 兵庫県立がんセンター
- 神戸大学医学部附属病院
- 兵庫医科大学病院
- 広島大学病院
- 香川大学医学部附属病院
- 四国がんセンター
- 久留米大学病院
- 九州がんセンター
- 長崎大学病院
- 鹿児島大学病院

※ 指定期間：令和元年9月19日から令和4年3月31日まで

7-2. 地域単位の取り組みについて

2020年6月、富山県内初となる

「総合がんセンター」を開設しました。



8. まとめ <2020年 課題>

1. コロナ禍のため、少なからず制限のある1年だった。それでも本科生の受講生数が予定を上回った。
2. インテンシブコース受講生の募集強化が必要。
3. データベース研究も軌道に乗り、学会発表を果たすことができた。来年度は論文投稿を行う予定である。
4. FDに関しては富山大学・信州大学主催による海外FDを昨年からの延期で企画をするも、コロナ禍のため断念せざるを得なかった。
5. コロナ禍にもかかわらず市民教育・啓発活動は持続性をもって行えた。がんゲノム医療の啓発も継続できている。
6. 修了者のチェック、評価も確実に行っていく。

福井大学



令和2年度外部評価

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

北信がんプロ 福井大学の活動状況報告

廣野 靖夫

福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター
福井大学医学部 腫瘍病態治療学



北信がんプロ 各教育コースの 受講状況

北信がんプロの教育コース(受入目標と実績)

(令和3年3月5日現在)

本科生コース(平成30年4月受入開始)

		職種	人数	H29	H30	R1	R2	R3	合計
福井大学	地域がん専門医	医師	目標	0	2	2	2	2	8
			実績	0	4	5	2		11

インテンシブコース(平成30年4月受入開始)

		職種	人数	H29	H30	R1	R2	R3	合計
福井大学	在宅栄養管理	多職種	目標	0	12	22	22	22	78
			実績	0	23	23	26		72
	在宅緩和医療	多職種	目標	0	12	24	24	24	96
			実績	0	27	24	33		84

全てのコースで目標達成

今年度のコース受講者に関する話題

県医師会長がインテンシブ
コース(在宅緩和)を受講



インテンシブコース第1号修了者
誕生



北信がんプロ 公開講座・セミナーの 開催状況

第14回を企画担当
2021年3月25日開催予定

北信がんプロ 第14回オンコロジーセミナー

◇北信がんプロ各e-Learning科目の受講対象です◇

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、 薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま	
日時 2021年 3月 25日 (木) 18:00~20:00	会場 各大学・施設 テレビ会議室※
プログラム	
症例検討	
1 SIADHを契機に発見されたStage1小細胞肺癌の症例 信州大学医学部 包括的がん治療学 助教 小林 孝至 先生	
2 腹腔内化学療法を施行し、長期無再発生存を得ている 腹膜播種陽性胃癌の1例 福井大学医学部附属病院 消化器外科 特命助教 成瀬 貴之 先生	
特別講演	
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div> <p>腹膜播種に対する腹腔内温熱化学療法 (HIPEC)の現状</p> <p>福井大学医学部附属病院 消化器・乳腺内分泌外科 教授 五井 孝憲 先生</p> </div> </div>	
受講手続き (大学院生) ・受講を希望する学生は履修届を所属大学の学務係に提出してください。 ・詳細は所属大学の学務係にお問い合わせください。	問い合わせ先 ・ご不明な点は所属大学の学務担当係または北信がんプロ事務局にお問い合わせください。
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 北信がんプロ事務局 〒920-8640 金沢市宝町13-1 [金沢大学医学部8棟1階] TEL 076(234)4205/(265)2854 FAX 076(265)2855	
E-mail gpro@med.kansazawa-u.ac.jp http://www.gan-pro.net/	

福井大学担当
希少がんである腹膜偽粘液腫などの
治療法の紹介

福井大学から1症例発表、特別講演
信州大学から1症例発表

また2020年11月の第13回オン
コロジーセミナーでの症
例発表も担当



日時: 令和2年10月30日(金) 17:00~18:30

参加費無料

開催方法: Web 開催 (Vimeo を利用してのライブ配信となります)

対象: 看護職、医療・福祉関係者、一般市民



講師 日本赤十字九州国際看護大学 学長
日本がん看護学会 理事長 小松 浩子
座長 福井大学医学部看護学科
基礎看護学分野 教授 上野 栄一
(敬称略)

主催: 超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成 (北信がんプロ)
(金沢大学、創成大学、富山大学、金沢医科大学、
石川県立看護大学、福井大学共同開催事業)

共催: 福井大学大学院医学系研究科
後援: 福井県看護協会

お申込み・お問い合わせ:
〒910-1193
福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
福井大学医学部腫瘍病態治療学分野
E-mail
gpro-fukui@ml.u-fukui.ac.jp
TEL 0776-61-8857
FAX 0776-61-8656
申込締め切り: 令和2年10月23日(金)

参加方法: オンラインでの参加

申込方法: ①QRコード・②メール・③Fax

【必要事項】
お名前(フリガナ)、参加人数、メールアドレス、
質問内容

お申し込みはこちら



小松浩子日本がん看護協会理事長
に講演していただいた

Vimeoによるライブ配信30組と会場
参加72名を含めて102名参加

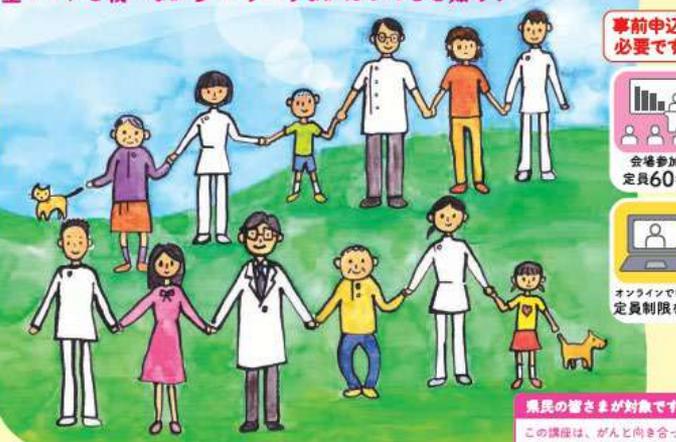
講演映像はがんプロHPから今年度
視聴できるようにアップロード
しました

北信がんプロ 県民公開シンポジウム

がん診療最前線

新型コロナと戦いながらいろいろながんのことを知ろう

納得できる医療を求めて。



事前申込が必要です。

会場参加 定員60名

オンラインで参加 定員制限なし

県民の皆さまが対象です。
この講座は、がんと向き合っている患者さんやご家族の方はもちろん、一般の方にもご参加いただける公開講座です。

令和2年11月21日(土) 13:00~15:20(予定) 開場=12:30

①会場参加：福井大学文京キャンパス 総合研究棟13階会議室/定員60名
(定員に足り次第締め切らせていただきます)

②オンライン参加：Webでの視聴(動画共有サイトVimeoを利用したライブ配信)/視聴数の制限なし
オンライン(Web)参加の場合：参加申込確認→受付完了案内→後日専用URLを交付。

参加費無料

司会進行・開会挨拶 福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター センター長 廣野 靖夫

講演1.「がん患者さんのための新型コロナウイルス感染対策」 福井大学医学部附属病院 感染制御部 教授 岩崎 博道 先生	講演4.「乳がんと遺伝について」 福井大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科 診療教授 前田 浩幸 先生
講演2.「肺がんの個別化薬選治療」 福井大学医学部附属病院 呼吸器内科 教授 石塚 全 先生	講演5.「もしもの時について大切な人と話し合う ～人生会議であなたらしい人生を～」 福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 幹事助教 児玉 麻衣子 先生
講演3.「腫瘍ってどんな病気?」 福井大学医学部附属病院 消化器外科 講師 村上 真 先生	

◎参加ご希望の方◎
詳しくは、裏面のお申込方法をご覧ください。
申込方法：①QRコード ②メール ③Fax
申込締め切り：令和2年11月15日(日)

お問い合わせ
福井大学医学部腫瘍病態治療学分野
「県民公開シンポジウム」係 Tel.0776-61-8857

QRコード
お申込はこちらから

※会場で参加される方へのおお願い
●必ずマスク着用にご来場ください。●当日体調がすぐれない場合は、ご来場をお控えください。●受付にてご来場の確認と検温を行いますので、早めにお越しください。当日を含め2週間以内に発熱のある方はご入場いただけませんので、何卒ご了承ください。
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、延期又は中止する場合があります。

主権
超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成
(北信がんプロ)

創造力・実践力。
福井大学法人
福井大学

共催：福井新聞社 後援：福井県医師会、福井県薬剤師会、福井県看護協会、福井県病院薬剤師会、福井県がん診療連携協議会

新型コロナ対策・肺がん・膵がん・遺伝性乳がん・ACPを取り上げました

会場参加60名（人数制限のため）
Web参加120名

講演映像はがんプロHPから今年度視聴できるようにアップロードしました



北信がんプロ県民公開シンポジウムの ダイジェスト版を地元紙に掲載

北信がんプロ 県民公開シンポジウム

がん診療最前線

新型コロナと戦いながら いろいろながんのことを知ろう

第14回北信がんプロ県民公開シンポジウムは2020年11月21日、福井大学文芸キャンパスで開催されました。シンポジウムでは両大学医学部の専門家が「新型コロナと戦いながらいろいろながんのことを知ろう」をテーマに講演し、それでの立場から最新情報を紹介しました。医療の急速な進展により、がん治療の在り方も新たな展開を迎えています。今回は新たな取り組みとしてインターネットでの同時配信も行い、会場を離れた約50人、ネットで見学した約120人ががん治療の発展を新たにしました。



福井大学
福井県立総合医療センター
福井県立病院
福井県立がんセンター
福井県立がんセンター
福井県立がんセンター

シンポジウムの動画は、福井大学北信がんプロのホームページから視聴可能ですので、ぜひご覧ください。
【期間限定：令和3年3月31日まで】
http://www.med.u-fukui.ac.jp/ganpro/



がん患者さんのための 新型コロナウィルス感染対策

岩間 博志

北信がんプロのシンポジウムは、福井大学北信がんプロのホームページから視聴可能ですので、ぜひご覧ください。
【期間限定：令和3年3月31日まで】
http://www.med.u-fukui.ac.jp/ganpro/



岩間 博志

がん患者さんへの感染対策について、岩間先生は「がん患者さんは免疫力が低下しているため、新型コロナウィルスに感染しやすい状態にあります。感染を防ぐためには、マスクの着用や手洗いの徹底が重要です。また、がん治療を受ける際には、医療機関での感染対策についても確認してください。」と話されました。



肺がんと 闘ってどんな病気か？

石田 全

肺がんは、呼吸器系に発生するがんの一種です。近年、肺がんの罹患率が増加傾向にあり、がん死の主要原因の一つとなっています。早期発見・早期治療が重要です。喫煙の禁煙や受動喫煙の回避が予防につながります。



石田 全

肺がんは、呼吸器系に発生するがんの一種です。近年、肺がんの罹患率が増加傾向にあり、がん死の主要原因の一つとなっています。早期発見・早期治療が重要です。喫煙の禁煙や受動喫煙の回避が予防につながります。



ももはいつ子育ちの女性に多い？ 乳がんは身近な病気

前田 浩幸

乳がんは、女性に多いがんの一つです。近年、乳がんの罹患率が増加傾向にあり、がん死の主要原因の一つとなっています。早期発見・早期治療が重要です。定期的な乳房検診が重要です。



前田 浩幸

乳がんは、女性に多いがんの一つです。近年、乳がんの罹患率が増加傾向にあり、がん死の主要原因の一つとなっています。早期発見・早期治療が重要です。定期的な乳房検診が重要です。

がんに関する最新情報や、がん患者さんへのサポートについて、岩間先生は「がん患者さんは免疫力が低下しているため、新型コロナウィルスに感染しやすい状態にあります。感染を防ぐためには、マスクの着用や手洗いの徹底が重要です。また、がん治療を受ける際には、医療機関での感染対策についても確認してください。」と話されました。

本シンポジウムの動画は、福井大学北信がんプロのホームページから視聴可能ですので、ぜひご覧ください。
【期間限定：令和3年3月31日まで】
がんプロ福井大学 <https://www.med.u-fukui.ac.jp/ganpro/>

本年度分の内容は2020年12月19日に福井新聞掲載し一般市民へ紹介しました。

同時に動画サイトも掲示しました。

okushin がんプロ
福井大学
地域創生推進本部
福井ライフ・アカデミー連携

あなたの大切にしたいこと、なんですか？
もしバナゲームを通して
考えてみよう！

視聴無料
人数制限なし
年齢制限なし
(事前予約制)



＜もしバナゲーム＞

【日時】▶▶ 令和3年2月13日(土) 9:30 ~ 2月14日(日) 23:59
期間中はくり返し視聴することができます

【会場】▶▶ オンデマンド開催 (YouTube上での動画による講義)
(いつでも自由にご覧になれます)

【環境】▶▶ インターネットがにつながるPC、タブレット、スマートフォンをご用意ください
(通信料は受講者負担です wi-fi環境をおすすめします)

- いつ訪れるかわからない「もしもの時(=命に関わる病気に直面した時)」
- 自分が何を大切にしたいか、改めて考えたり人と話したりしたことはありますか？
- 「もしバナゲーム」というカードゲームを通して、自分の大切にしたいことについて考えてみましょう

【申込期間】1/13(水)~2/7(日)
【申込方法】
公開講座もしバナ専用ページより
お申込みください。→ → →
<http://chiiki.iad.u-fukui.ac.jp/course/lecture/entry-843.html>



【開催者】
廣野 篤夫 (福井大学医学部附属病院がん診療推進センター長)
児玉 麻衣子 (同センター 特命助教)
浦井 真友美 (同センター 看護師長)
小林 美貴 (同センター 副看護師長)
椿 真佳 (福井大学医学部腫瘍病態治療学講座特命助教)

共催: 越前・高岡・福井地域の先進的がん医療人養成
(北信がんプロ)

お問い合わせ ▶▶ 福井大学地域創生推進本部
TEL 0776-27-8060 (直通) MAIL rcp@ad.u-fukui.ac.jp
住所 〒910-8507 福井市又京3-0-1 URL <http://chiiki.ad.u-fukui.ac.jp>

A C P の啓蒙動画

高校生以上の一般の方を
対象としたオンデマンド
配信を2021年2月に行った。
申込 44名

その後3月よりがんプロHP
にて再度公開中。

AYA世代のがん経験者の支援に関する北信がんプロ公開講座

2020年度事業 北信がんプロ 市民公開講座

AYA WEEK 2021

この講座は、医療従事者だけでなく、
一般の方々もご参加いただける 公開講座です。

AYA世代のがん体験談から その支援を考える

会場での定員 40名
オンラインでの定員
制限なし

AYA世代とは？
Adolescent & Young Adult (思春期・若年成人)の若者世代のことです。中学生から社会人、子育て世代とライフステージが大きく変化する年代であり、この年代でがんを発症した患者さんは進学や就労、結婚、妊娠などの社会的課題に直面します。実際にAYA世代のがん経験者の話やがん医療従事者の講演を聞き、がん体験によって受けた生活への影響や直面する悩みや、がんになって見えてくる新しい世界、新しい生殖医療を知り、AYA世代でがんになることの意味やその支援のあり方について共に考えてみませんか？
日本人の2人に1人ががんになる時代、今はがんに接点のない方々もがんと共に生きることについて家族や大切な人と考えるきっかけになれば幸いです。

参加費 無料

プログラム

10:00 開会の挨拶 牧野 智恵 (石川県立看護大学 教授)

第1部 講演
10:05~

10:05 『がんになっても妊娠・出産できますか？』
福井大学医学部附属病院 産科婦人科：折坂 誠 先生

10:30 『AYA世代のがん体験者へ支援のあり方
(研究報告・看護の視点から)』
富山大学附属病院 看護部 がん看護専門看護師
樋口 麻衣子 さん

11:05 『25歳でがんになって』
NPO法人がんノート 代表理事：岸田 徹 さん

第2部 シンポジウム
12:05~

12:30 閉会の挨拶 廣野 靖夫 (福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター長)

終了証を発行します(医療従事者のみ)

2021年 3月7日(日) 10:00~12:30 (受付 9:30)

【申込締切】2021年 3月1日(月) ※会場は、定員になり次第、締め切らせて頂きます。

ホテル金沢(2Fダイヤモンド) 〒920-0849 石川県金沢市御川1番1号
TEL 076-223-1111

お申し込み・お問い合わせ
石川県公立大学法人 〒928-1210 石川県かほく市学道1丁目1番地(旭が丘山)
石川県立看護大学 TEL 076-281-8300 (F) FAX 076-281-8319

主催：越前子高齢化地域での先進的がん医療人養成
(石川県立看護大学、福井大学)、北信新聞社
共催：北陸CNSの会
後援：石川県、金沢市、かほく市、石川県看護協会、テレビ金沢

申し込み受付期間：2021年2月15日(月)～2月28日(日)

石川県立看護大学が発案したAYA世代のがん経験者の支援に関する公開講座を協同して2021年3月7日に開催し、福井県の妊孕性温存に関する整備体制を紹介するとともにAYA世代のがん経験者の支援のあり方を討論した。

北信がんプロ福井大学

地域がん医療研修会

がん医療 スキルアップセミナー

新しい流れをがん医療の現場に活かそう

日時 **2021年3月26日(金)**
17:45 >>> 18:45

会場 **臨床大講義室**
※ ZOOMライブ配信も行います

対象 **医療従事者**

事前申込不要です
直接会場へお越しください
受付にて検温・体調確認を
おこないます

オンライン参加ご希望の方は
3/24(水)までに
メールでお申し込みください

司会進行：福井大学医学部附属病院がん診療推進センター
センター長 廣野 靖夫 先生

講演1 テーマ

「AYAの妊孕性温存」

福井大学医学部附属病院
産科婦人科
講師 折坂 誠 先生

講演2 テーマ

「ACPの理解」

福井大学医学部附属病院
がん診療推進センター
特命助教
児玉 麻衣子 先生

講演3 テーマ

「骨転移治療と がんロコモ」

福井大学医学部附属病院
整形外科
講師 田中 太晶 先生

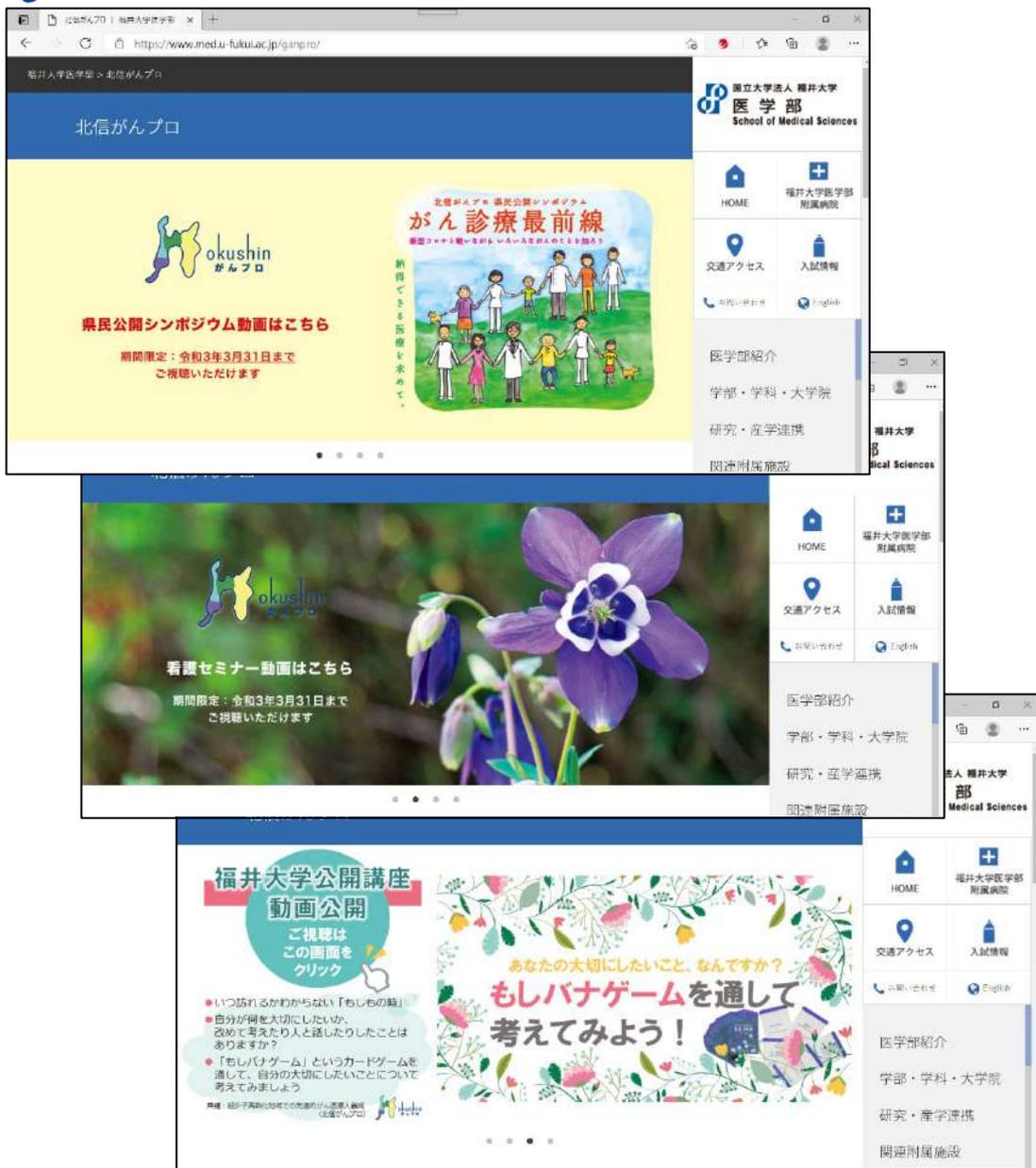
オンライン参加ご希望の方は
3月24日(水)までにメールでお申し込みください

【オンライン参加申込先】

福井大学 北信がんプロ事務
腫瘍病態治療学分野
gpro-fukui@ml.u-fukui.ac.jp

福井県で整備が進んできた妊孕性温存の体制についてやACPの啓蒙、がんロコモに関する医療人へのセミナーをハイブリッド形式で2021年3月26日に開催予定

ホームページによる情報発信



北信がんプロ（福井大学）

■直近1年間更新回数 31回

■県民公開シンポジウム
動画再生回数：311回

■看護セミナー
動画再生回数：72回

■ACP啓発動画（先日公開したばかり）
動画再生回数：23回

定期的な情報更新を行っている

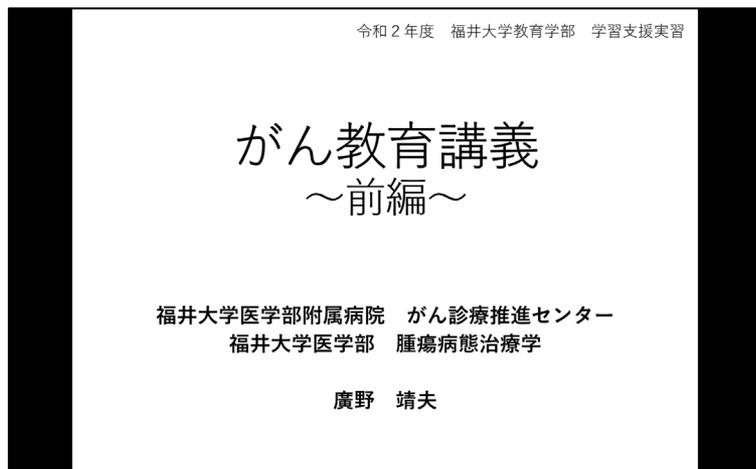
がんプロ寄附講座 “腫瘍病態治療学講座” の活動

福井大学における
最新がん診療とケアの情報を
伝える冊子を作成
県内の医療機関に配布

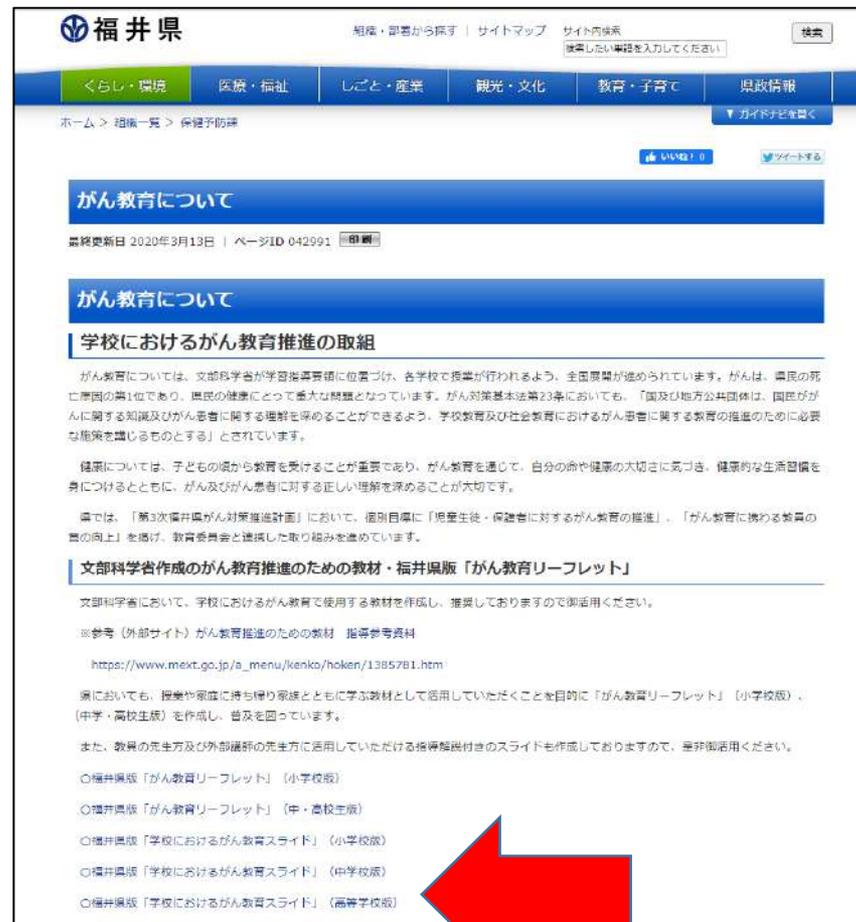
第3版を本年3月に発行



福井大学教育学部生へのがん教育の講義



2018度からは福井大学教育学部ではがん教育の講習は**必修**に
年2コマ施行
2020年度はオンラインでの授業となった



福井県

組織・部署から探す | サイトマップ | サイト内検索

検索

検索したい単語を入力してください

くらし・環境 医療・福祉 しごと・産業 観光・文化 教育・子育て 県政情報

ホーム > 組織一覧 > 保健予防課

いいね! ツイートする

がん教育について

最終更新日 2020年3月13日 | ページID 042991

がん教育について

学校におけるがん教育推進の取組

がん教育については、文部科学省が学習指導要領に位置づけ、各学校で授業が行われるよう、全国展開が進められています。がんは、国民の死亡原因の第1位であり、国民の健康にとって最大の懸念となつていきます。がん対策基本法第23条においても、「国及び地方公共団体は、国民ががんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがん患者に関する教育の推進のために必要な施策を講じるものとする」とされています。

健康については、子どもの頃から教育を受けることが重要であり、がん教育を通じて、自分の命や健康の大切さに気づき、健康的な生活習慣を身につけるとともに、がん及びがん患者に対する正しい理解を深めることが大切です。

県では、「第3次福井県がん対策推進計画」において、個別目標に「児童生徒・保護者に対するがん教育の推進」、「がん教育に係る教員の資力の向上」を掲げ、教育委員会と連携した取り組みを進めています。

文部科学省作成のがん教育推進のための教材・福井県版「がん教育リーフレット」

文部科学省において、学校におけるがん教育で使用する教材を作成し、推奨しておりますので御活用ください。

※参考（外部サイト）がん教育推進のための教材 指導参考資料
https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm

県においても、授業や家庭に持ち帰り教材とともに学ぶ教材として活用していただくことを目的に「がん教育リーフレット」（小学校版）、（中学・高校生版）を作成し、普及を図っています。

また、教員の先生方及び外部講師の先生方に活用していただける指導要領付きのスライドも作成しておりますので、是非御活用ください。

- 福井県版「がん教育リーフレット」（小学校版）
- 福井県版「がん教育リーフレット」（中・高校生版）
- 福井県版「学校におけるがん教育スライド」（小学校版）
- 福井県版「学校におけるがん教育スライド」（中学校版）
- 福井県版「学校におけるがん教育スライド」（高等学校版）

県内統一の授業スライドを作成し、県のHPに掲載して医療関係者や教職員に自由にダウンロードをして使ってもらえるようにした。

令和2年度福井大学の活動のまとめ

- 新型コロナによる活動制限があったが、オンラインなどの新しい試みを行った。
- すべてのコースで、目標を上回る数の履修生を確保できた。
- オンコロジーセミナーでの発表を2回担当した。
- 医師、看護師などの医療スタッフ、患者さん等、すべての方に対して、最新治療、ACP, AYAなどバランスの取れた内容で教育、啓蒙活動を行った。
- 福井県で体制が整った妊孕性温存に関し、公開講座や研修会で情報共有を行った。
- 北信がんプロの他大学と公開講座の共同開催を行った。
- ホームページを定期的に更新し情報を発信した。HPから講演会の動画を見てもらえるようにして、がんプロHPへのアクセスが増えるようにした。

金沢医科大学



令和2年度外部評価
「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

金沢医科大学の活動状況報告

元雄良治

金沢医科大学腫瘍内科学教授

金沢医科大学病院集学的がん治療センター長

【教育コース学生受け入れ状況】

本科生

目標2名 受入れ2名 (100%)

(病理病態学1名、精神神経科学1名)

延べ受け入れ人数6名

インテンシブコース生

目標2名 受入れ3名 (150%)

(一般・消化器外科学3名)

延べ受け入れ人数8名

■ 本科生の履修状況 (e-learning13科目+セミナー13回+論文)

1年次生2名 カリキュラム履修中 (e-learning 30%未満)

病理病態学・神経科精神科

2年次生1名 **カリキュラム単位認定済**・学位論文**投稿中**

病態診断医学

3年次生3名 **カリキュラム単位認定済**・学位論文のための**研究中1名**

病態診断医学

カリキュラム履修中・学位論文の**研究中2名**

呼吸機能治療学、感覚機能病態学

■ インテンシブコース生の履修状況

(e-learning 3科目+セミナー3回)

延べ受け入れ人数8名

令和元年度迄の修了生は3名

⇒令和2年度のインテンシブコース修了生は2名

■ 2018.11.12

第13回オンコロジーセミナー

参加者131名

症例検討1: 金沢医科大学 一般・消化器外科学

症例検討2: 福井大学産科婦人科学

特別講演: 「コンパニオン診断に伴う家族性腫瘍症候群の
遺伝カウンセリングの変容」

北信がんプロ
第13回オンコロジーセミナー

大学後生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療連携拠点等の医師、
薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日	会場
2020年11月12日(木) 18:00~20:00	基礎研究棟3階 大学院セミナー室*

プログラム

症例検討

- 1 主膵管拡張と膵静脈腫瘍栓を伴う膵内分泌腫瘍の一例
金沢医科大学 一般・消化器外科学 助教 金子口 貴生
- 2 トラスツズマブが著効したHER2陽性再発子宮頸癌の一例
福井大学産科婦人科学診療センター 命病部長 山田 しのぶ 先生

特別講演

コンパニオン診断に伴う
家族性腫瘍症候群の
遺伝カウンセリングの変容

金沢医科大学総合医学研究所 遺伝学研究室 主任
がん医療研究センター 部長
金沢医科大学病院がん診療センター 部長
新井田 要 先生

新井田 要 先生 (プロフィール)
2011年、金沢医科大学大学院医学研究科 がん遺伝学専攻 博士課程修了。2012年、金沢医科大学 一般・消化器外科学 助教。2015年、金沢医科大学 一般・消化器外科学 助教授。2018年、金沢医科大学 一般・消化器外科学 教授。2019年、金沢医科大学 一般・消化器外科学 部長。2020年、金沢医科大学 一般・消化器外科学 教授。2021年、金沢医科大学 一般・消化器外科学 教授。2022年、金沢医科大学 一般・消化器外科学 教授。

金沢医科大学総合医学研究所 がん医療研究センター
〒920-8601 石川県金沢市 1-18-12 1F (12) 号室 電話 076-234-1234
〒920-8601 石川県金沢市 1-18-12 1F (12) 号室 電話 076-234-1234
E-mail: gpc@med.niz.ac.jp http://www.gpc.niz.ac.jp/

に い だ よ う
新井田 要 先生
金沢医科大学総合医学研究所 教授



2021.1.20

第3回がん医療に携わる医療従事者に対する 教育セミナー・北信がんプロFD講演会 参加者70名

「腫瘍循環器(Onco-Cardiology/ Cardio-Oncology)

～あゆみとこれから～

しがたろう
志賀太郎先生

公益財団法人がん研究会有明病院
腫瘍循環器・循環器内科 部長

⇒WebEXにより、所属先からのご講演。
連携大学にも配信し、個人参加も可としたことで
多数の参加者を得た。
多岐にわたる内容が好評であった。



第3回がん医療に携わる医療従事者に対する教育セミナー・
北信がんプロFD講演会

2021年1月20日(水) 18:30 -
医学教育棟4階 E 4-1 講義室 (WebEX使用)

腫瘍循環器 (Onco-Cardiology/ Cardio-Oncology)

～あゆみとこれから～

志賀太郎先生
公益財団法人がん研究会有明病院
腫瘍循環器・循環器内科 部長

ご経歴
1999年 金沢大学医学部医学科卒業
2000年 金沢大学大学院医学系研究科修士(学位取得)
東京大学医学部腫瘍内科医学科 専攻
2010年 東京大学医学部腫瘍内科医学科 専攻
2013年 がん研有明病院総合内科循環器内科 副部長
2014年 部長
2016年 副部長
2017年 部長
業務執行理事・循環器内科 部長 (現職)

2020年10月より新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、
志賀先生には、がん研有明病院からWebEXを使用し、ご講演
いただきました。
ご講演はE4-1 講義室でお聴いただけます。
ご講演の後は、Web上で質疑も可能となっております。
＝北信がんプロe-learning科目の演習対象の講演です＝
＝新型コロナウイルス感染防止のため、マスク着用の上ご参加ください＝

担当 金沢医科大学腫瘍内科 堀波 康二 教授
お問い合わせ 金沢医科大学 教学課大学院医学研究科担当
076-218-8051 e-qakutin@kanazawa-med.ac.jp
文部科学省教育委員会承認(2019年) がん研有明病院「がん研プロFD」(連携大学) 連携大学
長子志賀太郎地区での医師的がん医療入職 (北信がんFD)

■ 2021.01.19

2020年度 第7回事例検討会

金沢医科大学病院 がん看護専門看護師

うえのちはる
上埜千春氏

事例提示・ミニレクチャー 担当

⇒本年度開催分(第1～8回)について
毎回コース履修生(医師)が参加し、
多職種と意見を共有した。

2020年度 石川県立看護大学
産子高齢化地域での先進的がん看護人養成 (北信がんプロ)

第8回
ライフステージ事例検討会

日時:2月2日(月)17時45分～18時45分
がん看護専門看護師とともに実践を振り返り
ケアを一緒に見直しませんか?

1. 事例検討
「血液がんと心不全を合併し、疼痛緩和に難渋した事例」
開催施設:富山赤十字病院
事例発表者:看護師 村上 真由美さん

2. ミニレクチャー
「がん性疼痛を再考するー私たちにできることー」
講師:がん看護専門看護師 村上 真由美さん

新型コロナウイルス感染症対策として、「各施設での参加」と「オンラインでの参加」を併用します。

「オンラインでの参加」を希望する方は、参加の際の注意事項をお知らせしますので1/31(日)までに石川県立看護大学 岡山 gancase@shkshkayn-m.ac.jp まで「所属、氏名、職種」のご連絡をお願いします。(スマートフォンからお申し込みの場合、IPからのメール配信が出来る設定にしてください) 大学版の各コースを受講の方は大学院担当書籍にもご連絡をお願いします。

◇北信がんプロe-learning受講対象の授業です◇

◇場所:各開催施設・テレビ会議室(計20施設)
富山大学、福井大学、石川県立看護大学、福井大学、
金沢赤十字病院、公立金沢総合病院、富山赤十字病院、金沢市立病院、小松市民病院、
滝川総合病院、富山県立中央病院、富山市立病院、市立金沢総合病院、
金沢医科大学看護専門学校、富山赤十字病院、富井市民病院、
富山県立病院、福井赤十字病院、北陸赤十字病院、福井県立病院

◇お問い合わせ先: がんケアの広げの担当までご連絡ください。
◇お問い合わせ先: 石川県立看護大学 岡山 TEL:076181-8000 FAX:0761281-9414

■ 2021.2.12公開

北信がんプロ金沢医科大学Web市民公開講座：

基調講演

- ・「がん遺伝子パネル検査について」 安本和生先生
- ・「家族性腫瘍症候群への対応について」 新井田要先生
- ・ディスカッション：がんゲノム医療の今後について

特別講演

- ・「日本のがん医療の近未来」 宮田俊男先生
- ・ディスカッション：がん医療の今後について

⇒コロナ禍のため、集合形式を取りやめ

Webで収録動画を公開した。

動画再生回数 延べ326回(2月28日現在)



■ 北信がんデータベース事業

2016～2017年のがん情報の収集とデータベースの構築を実施

2010～2015年の北信地域におけるがん診療連携拠点病院等の情報をもとに研究

- ・ 「胸腺癌の診療実態に関する研究」 ⇒ 投稿中
- ・ 「胸膜中皮腫の診療実態に関する研究」 ⇒ 投稿中

担当：浦本秀隆 金沢医科大学医学部呼吸器外科学教授

2016～2017年の北信地域におけるがん診療連携拠点病院等の情報をもとに研究

- ・ 「がんの診断から治療開始までの期間の格差と規定因子」
⇒ 委員会承認申請中

担当：西野善一 金沢医科大学医学部公衆衛生学教授

【共催事業】

■ 2020.12.15

がん診療連携拠点病院研修会 参加者約40名

第32回緩和ケアオープンセミナー 共催

「オピオイド鎮痛薬の不適切使用の背景と対応：

疑いの目を持ちつつ、患者に寄りそう気持ち」

やまぐちしげき

山口重樹 先生

獨協医科大学 麻酔科 教授

⇒コロナ禍のため、Zoomを利用し実施。
貴重な講演会となった。



■ まとめ:コロナ禍であるが、影響を最小限に抑え、事業を推進

- ・ 講演会などに影響が出た。

コミュニケーション技術研修会⇒中止

FD講演会4件のうち2件⇒中止

市民公開講座、FD講演会

⇒形式を集合形式から動画配信、Web参加等に変更し実施

- ・ 本科、インテンシブコース生ともに、目標数を受け入れできた。
- ・ オンコロジーセミナーを1回担当した。
- ・ 北信がんプロデータベースを活用し、英語論文を投稿した。
- ・ ホームページを定期的に更新し情報を発信した。

石川県立看護大学



令和2年度外部評価

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

北信がんプロ
石川県立看護大学の活動状況報告



牧野 智恵

石川県立看護大学 成人・老年看護学講座 教授
石川県立看護大学附属 地域ケア総合センター長

看護系 各コースの紹介

1. がんライフステージコース (本科生)

2. がんライフケアコース (インテンシブ)

コース名	職種	受入目標人数					受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	計	H29	H30	R01	R02	R03	計
がんライフステージ	看護師	0	2	2	2	2	8	0	1	3	2		6
がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22	3	10	5	6		24

北陸で活躍しているOCNS

石川県立看護大学大学院看護学研究科 博士前期課程
(成人看護学分野；がん看護専門看護師コース)を修了し、
「がん看護専門看護師(OCNS)」の資格を取得し、活躍している方

			
坂井桂子 平成22年度OCNS取得 富山県立中央病院	長 光代 平成23年度OCNS取得 厚生連滑川病院	高地弥里 平成23年度OCNS取得 石川県済生会病院	村上真由美 平成23年度OCNS取得 富山赤十字病院
			
内村恵理子 平成24年度OCNS取得 石川県立中央病院	平 優子 平成25年度OCNS取得 砺波総合病院	山瀬勝巳 平成25年度OCNS取得 IKKR北陸病院	佐伯千尋 平成26年度OCNS取得 金沢大学附属病院
			
松本友梨子 平成27年度OCNS取得 福井県済生会病院	上笠千春 平成27年度OCNS取得 金沢医科大学病院	今方 裕子 平成27年度OCNS取得 石川県立看護大学	久保博子 平成28年度OCNS取得 福井大学附属病院
			
高野智早 平成28年度OCNS取得 福井大学附属病院	時山麻美 平成28年度OCNS取得 富山県立中央病院	藤下 佳子 令和元年度OCNS取得 金沢医科大学病院	樋口 麻衣子 令和元年度OCNS取得 富山大学附属病院

テレビ会議システムを利用した ライフステージ事例検討会

多職種とともに日頃のがん患者への関わりをふり返りましょう！

◆開催日程（9回予定）

2020年 7月7日(火) 8月4日(火) 9月1日(火)
10月6日(火) 11月10日(火) 12月1日(火)
2021年 1月19日(火) 2月2日(火) 3月 2日(火)

◆開催時間 17時45分～19時15分
(事例検討：60分、ミニレクチャー：30分)

◆対象 看護師、医療従事者、医療関係の学生、
がん看護専門看護師申請予定者

◆会場 北信がんプロのテレビ会議システムが
設置されている施設

◆参加費 無料

◆内容 1) 事例検討：外来化学療法、在宅の患者支援
倫理調整、家族看護、緩和ケアなど
2) ミニレクチャー：OCNSの他、医師や薬剤師等がミニレクチャーを担当します

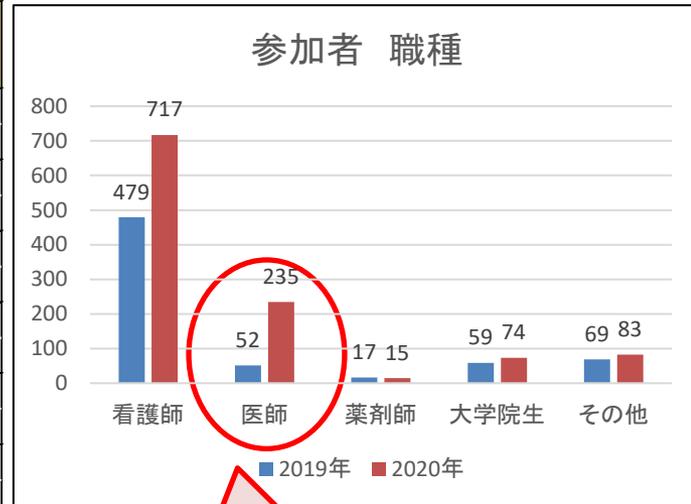


6月からの開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大にともない、6月分を1月に延長し、予定の回数を終了した。

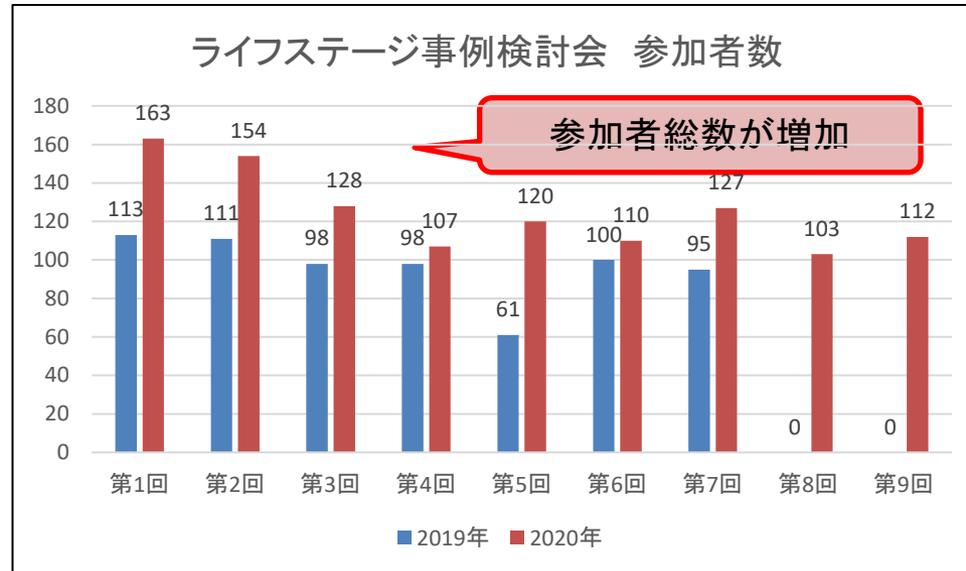
各施設でのディスカッションは中止する等の開催方法の変更をし、またYouTubeを利用し、各自宅からの参加も可能としたことによって参加数が増えた。

ライフステージ事例検討会

	事例	ミニレクチャー
第1回 金沢大学附属病院	終末期がん患者の「したい」を家族と「叶える」を支える看護	終末期がん患者と家族の意向を支える
第2回 福井大学医学部附属病院	急性期病棟に入院する認知症がん患者の疼痛看護	認知症がん患者の疼痛マネジメント
第3回 福井県立病院	緩和的放射線照射を受ける患者の安心・安全なケア～放射線治療を安楽に完遂するための多職種連携～	放射線治療部門と緩和ケアチームとの協力について
第4回 福井県済生会病院	終末期がん患者の子どもの生活支援体制を整える上での人や関係機関との調整	専門職間の連携・協働を目指すチーム医療
第5回 富山大学附属病院	予後不良な思春期の子どもに病状を伝えることを望まない家族との関わり	子どもが自分自身のがんについて知ることについて
第6回 富山県立中央病院	浮腫の悪化により在宅療養が困難となった高齢患者との関り～浮腫ケアを通してその人らしさをつなぐ～	浮腫の原因を見極め悪化を防ぐケアのコツ
第7回 金沢医科大学病院	怒りを表出する患者の対応に苦慮した事例	怒りを表出する患者への対応
第8回 富山赤十字病院	血液がんと心不全を合併し、疼痛緩和に難渋した事例	がん性疼痛を再考する ～私たちにできること～
第8回 K K R 北陸病院	がん終末時の場の希望を叶えるために	コロナ禍のがん終末期ケアを考える



看護師以外の職種が増加



	2020年度			2019年度
	会場	オンライン	合計	
第1回	117	46	163	113
第2回	94	60	154	111
第3回	81	47	128	98
第4回	48	59	107	98
第5回	53	67	120	61
第6回	67	43	110	100
第7回	68	59	127	95
第8回	53	50	103	0
第9回	74	38	112	0

CNS関係者によるがん看護事例検討会

参加数 22名 ハイブリット方式にて開催
(会場8名、オンライン14名)

石川県立看護大学
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

2020年度 修了証を
発行します

CNS関係者による がん看護事例検討会

CNS関係者を対象としたがん看護事例検討会を
スーパーバイザーに参加いただき、下記の日程で開催致します。

日時・場所 2020年9月13日(日)
16:00~17:30 ホテル金沢2F 兩
スーパーバイザー:北里大学病院
がん看護専門看護師 近藤まゆみ先生

内容 16:00~17:00 事例検討
17:00~17:30 北陸CNS会からの
検討事項・連絡事項等

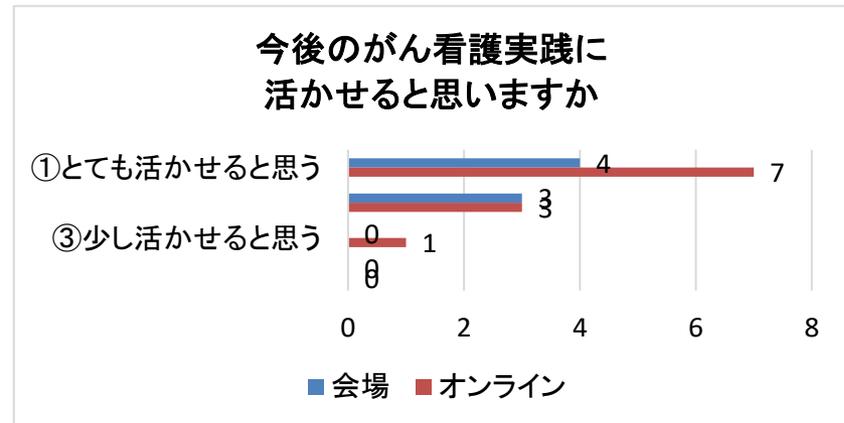
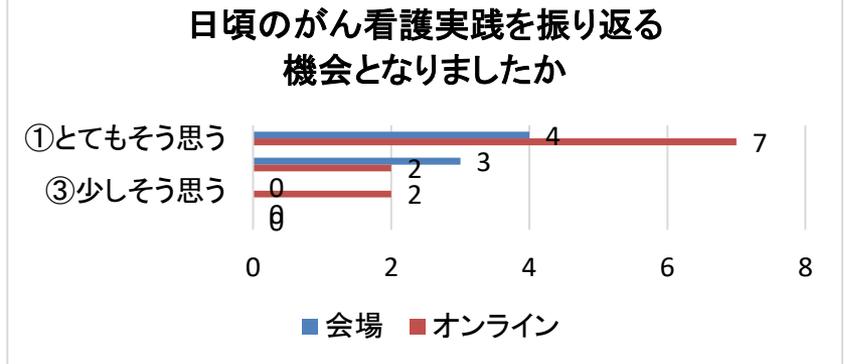
参加方法 **会場参加** もしくは **オンライン参加**
※オンラインでの参加は、Web会議サービス
「ZOOM」を利用して、ご自宅のPCやスマートフォン
からご参加いただけます。

参加資格 **お問い合わせ**

- ・CNSの方(どの領域の方でも)
- ・今後CNS受験予定の方
- ・CNSコースの大学院生

〒929-1210
石川県かほく市学園台1丁目1番地
石川県立看護大学 がんプロ担当(岡山)
Tel:076-281-8300(代表)
E-mail: ganpro-j@shikawa-nu.ac.jp

共催:北陸CNSの会



コロナ禍のため会場とWEBからのハイブリット方式にて開催した。そのため、北里大学病院のがん看護専門看護師に参加いただき、ディスカッションがすすんだ。また、参加者数が増えた。

臨床で行うリンパ浮腫のケア 基礎編

参加78名（会場16名、オンライン62名）

石川県立看護大学
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北西がんプロ)

2020年度 看護実践セミナー

臨床で行なう リンパ浮腫のケア ～基礎編～

参加費 無料

2020年 9月5日(土) 本研修は修了証を発行します
9:30～16:00(受付 9:00～) 午前講義 | リンパ浮腫の基礎知識
午後演習 | リンパ浮腫ケアの実際

定員 会場での参加 30名
オンラインでの参加 80名(※)
定員になり次第締切とさせていただきます。

持ち物 昼食・内履き
半袖・半ズボン
(午後の演習で使います)

講師 石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師 高地 弥里 先生
福山県立中央病院 がん看護専門看護師 時山 麻美 先生

会場 石川県立大学法人 石川県立看護大学
教育研究棟 2階 成人・老年看護学実習室

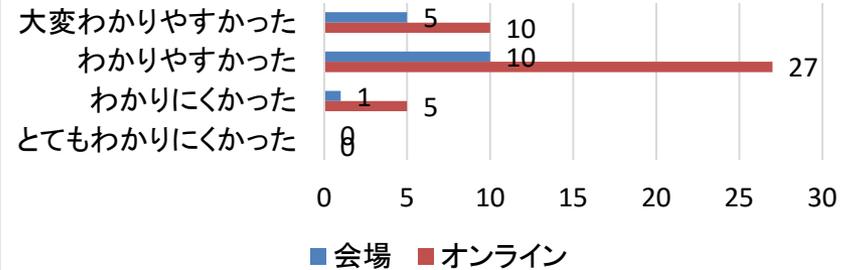
新型コロナウイルス感染症対策として、3度まで消毒するべく「会場での参加」と「オンラインでの参加」を募ります。
会場では消毒・換気の実施、一人ひとりの距離を2m以上取り、少しでも安全な会場環境を求めてまいります。

※「オンラインでの参加」はWeb会議サービス（ZOOM）も利用して、ご自身のPCやスマートフォンからご参加いただけます。

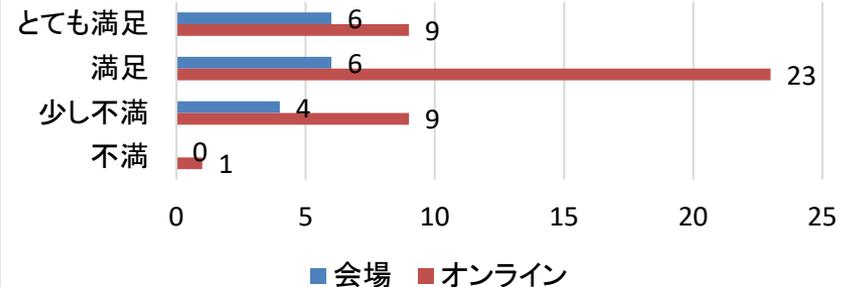
申し込み締め切り 2020年 8月21日(金) 申込QRコード  お申込み方法については添付書をご覧ください。

主催 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北西がんプロ)
(石川県立看護大学・金沢大学・富山医科大学・福井大学・富山大学・信州大学・共同実施事業)

セミナーの内容



セミナーの満足度



コロナ禍のため会場とWEBからの参加とした。
初めての試みのため、スムーズに進行できなかったところがあったが、次年度の実施の課題が見えたので次年度は改善していく予定。

臨床で行うリンパ浮腫のケア アドバンス編

石川県立看護大学 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

2020年度 看護実践セミナー

参加費 無料

臨床で行なうリンパ浮腫のケア

～アドバンス編～ 本セミナーは修了証を発行します

演習内容

- ・患者指導場面のロールプレイ
- ・マッサージの体験等(フェイスシールド着用)

講師

石川県済生会病院 がん看護専門看護師 高地 弥里 先生
 日本看護リンパドレナージ中級セラピスト
 石川県済生会病院 日本看護リンパドレナージ上級セラピスト 山岸 愛 先生

対象 医療職者 10名 2017年度以降本学で開校されたリンパ浮腫セミナーに参加経験のある方

2020年 10月3日(土) 9:00~13:00(受付8:45~)

申込締切: 2020年9月25日(金)

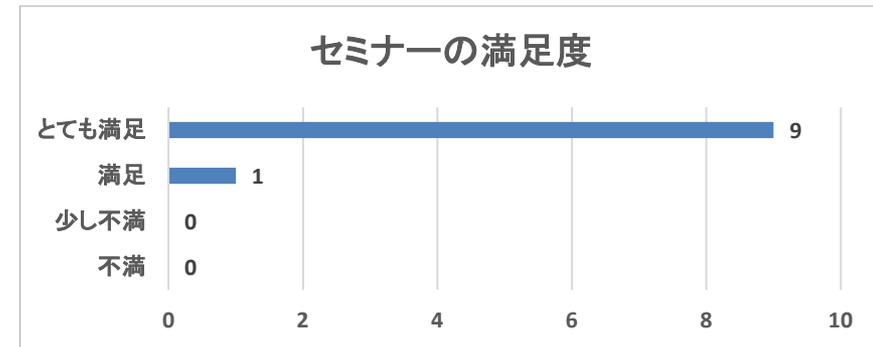
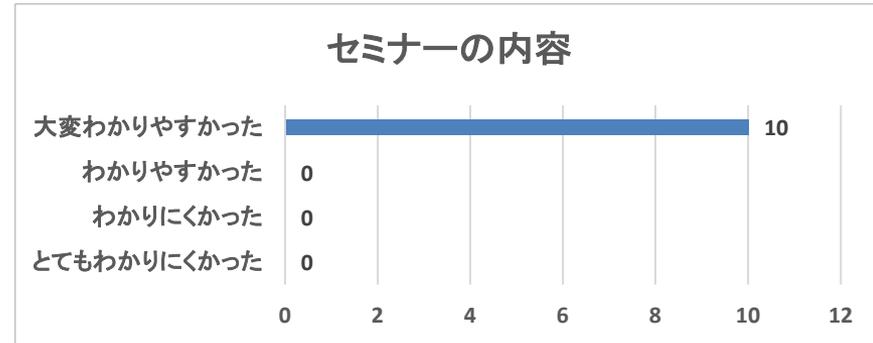
WEBにてお申し込み下さい。
右側のQRコードからアクセスできます。詳しくはチラシをご覧ください。

会場 石川県立看護大学 教育研究棟2階 成人・老年看護学実習室

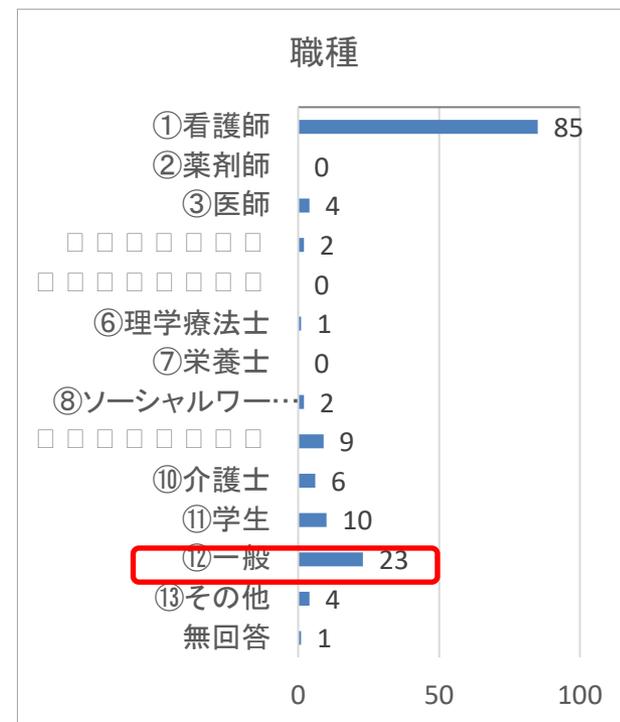
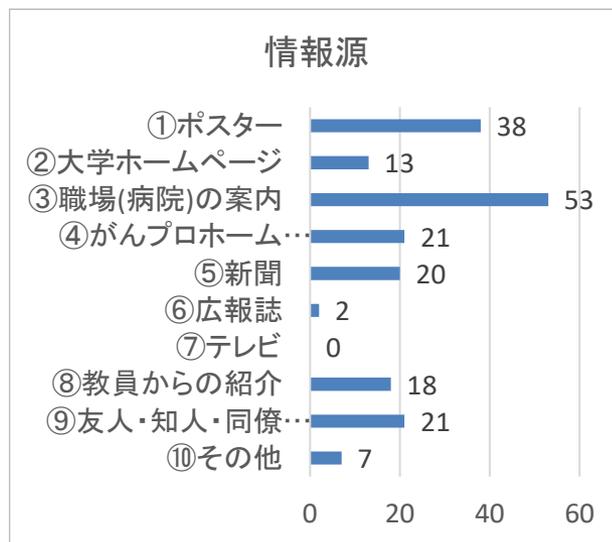
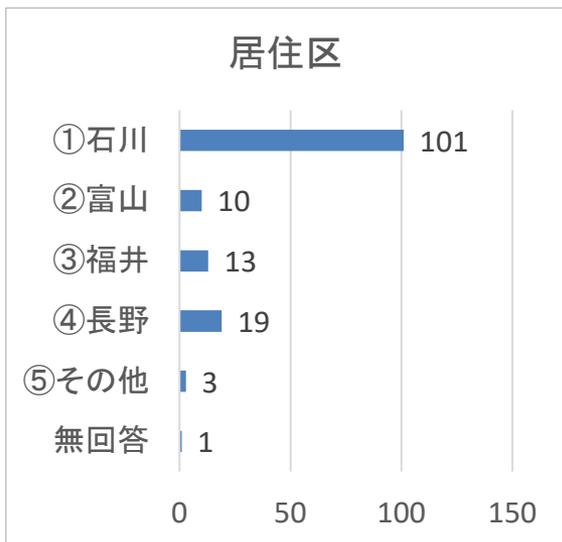
主催 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
 (石川県立看護大学・徳川大学・富山大学・福井大学・福井大学 共同主催)

【お問い合わせ先】 石川県立看護大学 石川県立看護大学
 〒929-1210 石川県小松市学道台1丁目1番地
 TEL: 076-281-4300 (PC) E-mail: gcanpro@ishikawa-nu.ac.jp | 問合せ

参加10名
(全て会場参加)



コロナ禍のため、参加者数を制限し、全員対面にて実施した。コロナ禍で感染予防を徹底し実施、参加者から、いい評価をいただけた。対面実施してよかった。



講演に関するご意見、ご感想について

- ・とても興味深く、分かりやすかった (8名)
- ・ACPを多くの人に知ってもらいたいと思った、広く知られてほしいと思った (3名)
- ・ACPの必要性、大切さが分かった (10名)
- ・オンラインで参加することができて良かった (11名)
- ・他施設の取り組みや実際の状況を知ることができて勉強になった (3名)
- ・第1部の疾患を抱え生きる体験談や、第2部の法律からみたACPの見解など、多角的にACPについて考えることができた。第3部のパネルディスカッションでは、各施設での取り組みの現状やその難しさや工夫を聞いて参考になった。
- ・ガイドライン作成までの背景やその目的を理解することができた。少しでも当事者やケアスタッフが後悔の無いように、まずはしっかりコミュニケーションをとりながら利用者さんの想いに耳を傾けていくことから始めていきたい。
- ・意思決定支援に対しハードルの高さや苦手意識があったが、本日の講演を聞き、どのように生きてきたか、これからどのように過ごしていきたいかを自然な場面で語り合えたらと思った。

AYA世代のがん体験談からその支援を考える

2020年度事業 北信がんプロ 市民公開講座

AYA WEEK 2021

この講座は、医療従事者だけでなく、
一般の方々もご参加いただける 公開講座です。

AYA世代のがん体験談から その支援を考える

会場での定員 40名
オンラインでの定員
制限なし

AYA世代
とは？

Adolescent & Young Adult (思春期・若年成人)の若者世代のことです。中学生から社会人、子育て世代とライフステージが大きく変化する年代であり、この年代でがんを発症した患者さんは進学や就労、結婚、妊娠などの社会的課題に直面します。

参加費
無料

実際にAYA世代のがん経験者の話やがん医療従事者の講演を聞き、がん体験によって受けた生活への影響や直面する悩みや、がんになって見えてくる新しい世界、新しい生殖医療を知り、AYA世代でがんになることの意味やその支援のあり方について共に考えてみませんか？
日本人の2人に1人ががんになる時代、今はがんに検点のない方々もがんと共に生きることについて家族や大切な人と考えるきっかけになれば幸いです。

プログラム

- 10:00 開会の挨拶 牧野 智恵 (石川県立看護大学 教授)
- 第1部 講演 10:05~
- 10:05 『がんになっても妊娠・出産できますか？』
福井大学医学部附属病院 産科婦人科：折坂 誠 先生
- 10:30 『AYA世代のがん体験者へ支援のあり方』
(研究報告・看護の視点から)
富山大学附属病院 看護部 がん看護専門看護師
樋口 麻衣子 さん
- 11:05 『25歳でがんになって』
NPO法人がんノート 代表理事：岸田 徹 さん
- 第2部 シンポジウム 12:05~
- 『AYA世代のがん患者の課題と支援のあり方』
- 12:30 閉会の挨拶 廣野 靖夫 (福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター長)



申し込みは必ずこのQRコードまたは画面のお申し込み方法を確認ください。

券紙を発行します (医療従事者のみ)



2021年 10:00~12:30 (受付 9:30)
3月7日(日)

【申込締切】2021年 3月1日(月) ※会場は、定員になり次第、締め切らせて頂きます。

ホテル金沢 (2FダイヤモンドA) 〒920-0849 石川県金沢市堀川新町1番1号
TEL 076-223-1111

お申し込み・お問い合わせ
石川県立看護大学 〒929-1210 石川県かほく市学舎台1丁目1番地 (担当: 南山)
石川県立看護大学 TEL 076-281-8300 (代) FAX 076-281-8319

主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 (石川県立看護大学、福井大学)、北國新聞社
共催：北陸CNSの会
後援：石川県、金沢市、かほく市、石川県看護協会、テレビ金沢



◆福井大学との共同開催

主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
(石川県立看護大学、福井大学)、北國新聞社

共催：北陸CNSの会

後援：石川県、金沢市、かほく市、石川県看護協会、
テレビ金沢

◆ 2021年3月7日(日) 10:00~12:30

◆ 対象：一般の方々、医療従事者

◆ 会場：ホテル金沢

申込者 **計158名** (3月5日現在)

会場20名、オンライン138名

(一般者の申込： 41名)

令和2年度 石川県立看護大学の活動のまとめ

- コロナ禍で1会場での集会は制限されたが、開催方法を変更することで、いち早く予定の事業を行うことができた。
- 北信がんプロの合同市民公開講座を、本学が主体となり実施し、ACPIについて、医師、看護師、法律家で意見交換を行い、北信地区への発信が行えた。
- 本科生・インテンシブコースに予定通りあるいは、予定以上の履修生を確保した。
- 予定回数の事例検討会を実施（9回）した。
- 金沢大学、金沢医科大学の協力を得て、遺伝子パネル検査説明、結果説明等の場に同行し、ゲノム医療における看護についてがん看護専門看護師を希望する院生と共に考える機会となった。
- AYA世代のがん体験者を呼び、医師、看護師と共に検討する機会を持ち、県内の医療従事者、市民に情報共有発信を行った。
- ホームページを定期的に更新し情報を発信した。

金沢大学

令和2年度外部評価

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

北信がんプロ 金沢大学の活動状況報告

矢野 聖二

金沢大学附属病院がんセンター
金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍内科
WPI 金沢大学ナノ生命科学研究所

令和2年度履修生の状況

(令和3年3月1日現在)

本科生コース(平成30年4月受入開始)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	先端的個別化医療	医師	0	5	5	5	5	20	0	9	5	5		19
	個別化薬物療法	薬剤師	0	1	2	2	2	7	0	1	2	2		5
	高度化医学物理士	医学物理士	0	2	2	2	2	8	0	3	4	1		8

インテンシブコース 平成29年10月受入開始(一部30年4月受入開始)

コース名	職種	受入目標人数						受入実績						
		H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計	
金沢大	がんゲノム生涯教育	医師	2	6	6	6	6	26	2	12	11	8		33
	個別化薬物実践	薬剤師	0	1	3	4	4	12	0	4	3	2		9
	がんゲノム多職種連携入門	多職種	-	10	10	10	10	40	-	32	13	10		55

北信がんプロオンコロジーセミナー

第11回を企画担当した。

2020年6月25日開催 参加人数：180名

**北信がんプロ
第11回オンコロジーセミナー**

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、
薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時	会場
2020年6月25日(木) 18:00~20:00	各大学・施設 テレビ会議室

プログラム

症例検討

【症例1】遺伝子パネル検査を行い、
免疫チェックポイント阻害薬が奏功した多型癌の1例
富山大学附属病院第一内科 医師
徳井 宏太郎 先生

【症例2】がん遺伝医療・ゲノム医療における看護職の関わり
金沢大学附属病院 看護部 副看護師長
越田 美晴 さん

特別講演

【特別講演】みんなで考えよう！
がん診療における遺伝医療・ゲノム医療
金沢大学附属病院 遺伝診療部
特任教授 渡邊 淳 先生



受講手続き（大学院生）

- ・受講を希望する学生は履修書を所属大学の学籍係に提出してください。
- ・詳細は所属大学の学籍係にお問い合わせください。

問い合わせ先

- ・ご不明な点は所属大学の学籍担当係または北信がんプロ事務局にお問い合わせください。

※北信がんプロ e-learning 講義対象の演習です※

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
金沢大学 北信がんプロ事務局
〒920-8640 金沢市宝町13-1 [金沢大学医学部8棟1南]
TEL : 076(234)4205 FAX : 076(265)2855

E-mail gpro@med.kanazawa-u.ac.jp <https://www.gan-pro.net/>

ご参加お待ちしております！

金沢大学担当

金沢大学から2症例発表、特別講演

金沢大学参加人数：41名



第12回の症例発表を担当した。

2020年9月24日開催 参加人数：130名

富山大学担当

金沢大学から1症例発表

金沢大学参加人数：33名



北信がんプロ
第12回オンコロジーセミナー

okushin
がんプロ

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、
薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時：2020年9月24日（木）18：00～20：00

開催場所：金沢大学医学類 B棟 1F 小会議室
Web開催：YouTube ライブ配信

プログラム ※北信がんプロ e-learning 講義対象の演習※

症例検討

【症例1】「肺癌の二次治療」
富山大学学術研究部医学系 消化器・腫瘍・総合外科
助教 平野 謙二 先生

【症例2】「遺伝子パネル検査でBRAF K601E変異が検出された
分子標的治療を行った非小細胞肺癌の一症例」
金沢大学附属病院がんセンター
助教 西山 明宏 先生

特別講演
「肺癌の後方治療の考え方」
富山大学附属病院 臨床腫瘍部
副部長・診療講師 梶浦 新也 先生

問い合わせ先
新型コロナウイルス感染症対策として、
「小会議室での参加」と「Web参加（YouTubeライブ配信）」を募ります。
「Web参加（YouTubeライブ配信）」希望者は、参加の注意事項等をお知らせします。
9月18(金)までに gpro@med.kanazawa-u.ac.jp 北信がんプロ事務局 まで
件名：「第12回 オンコロジー配信希望」
本文：名前・学籍番号 を記入の上ご連絡ください。

※ Web参加の注意事項は、
9/23(水) 午前中にお知らせします。

E-mail : gpro@med.kanazawa-u.ac.jp
Homepage : <https://www.gan-pro.net/>

若手・高齢化地域での先進的がん医療人養成
金沢大学 北信がんプロ事務局
〒920-8640 金沢市宝町13-1 [金沢大学医学類B棟1階]
TEL : 076(234)4205 FAX : 076(265)2855

ご参加お待ちしております！

金沢大学附属病院がんゲノム医療センターで遺伝子パネル検査を実施

(～2021年1月)

実績

	遺伝子パネル検査 実施数	Druggable遺伝子 異常陽性数	推奨治療ありの数
金沢大学	69	32	14 (20.3%)

2019年10月～2021年1月に69名に保険診療として実施し、14例(20.3%)に推奨治療が提案された。
うち6例(8.7%)が推奨治療を受けることができた。



推奨治療を受けることができる症例割合を増やすことが課題と考えられた。

大学院教育への貢献

石川県立看護大学の大学院生が立案した研究「がん遺伝子パネル検査を受ける者の意思決定の様相」において、大学院生をがんゲノム外来に同席させ、協力した。



石川県立看護大学の大学院生は修士課程を修了することができた。

がんゲノム：治験情報の共有化（金沢大⇔富山大）

がんゲノム関連治験一覧

金沢大学附属病院 2020.10.22 現在

2020年10月22日現在の情報の一部

試験名 (JapicCTI-No.)	対象	治験薬	診療科	責任医師	依頼者 (CRO)	
TAK-788-1003 (JapicCTI-194584)	非小細胞肺癌 (EGFR exon 20 挿入変異)	TAK-788 (EGFR/HER2 阻害薬)	がんセンター	竹内 伸司 先生	武田薬品工業株式会社 (PRA 開発センター株式会社)	1918
LIBRETTO-431 (JapicCTI-205264)	非小細胞肺癌 (RET 融合遺伝子 陽性)	selpercatinib (RET 阻害剤)	がんセンター	竹内 伸司 先生	日本イーライリリー株式会社 (IQVIA サービスーズ ジャパン株式会社)	1926
CodeBreak 200 (JapicCTI-205362)	非小細胞肺癌 (KRAS p.G12C 変異陽性)	AMG 510 (KRAS 阻害薬)	がんセンター	竹内 伸司 先生	アムジェン株式会社 (IQVIA サービスーズ ジャパン株式会社)	1923
CheckMate 8HW (JapicCTI-194925)	結腸直腸癌 (MSI- H 又は dMMR)	ニボルマブ (抗 PD-1 抗体) イピリムマブ (抗 CTLA-4 抗体)	がんセンター	大坪 公士郎 先生	小野薬品工業株式会社 (IQVIA サービスーズ ジャパン株式会社)	1907
BEACON CRC 拡大治験 (JapicCTI-205146)	結腸直腸癌 (BRAF 遺伝子変 異陽性)	エンコラフェニブ (BRAF 阻害薬) ビニメチニブ (MEK 阻害薬)	がんセンター	竹内 伸司 先生	小野薬品工業株式会社 (バレクセル・インターナショナル株式会社)	1933
LIBRETTO-001 (-)	固形癌 (RET 融合遺伝子 陽性)	selpercatinib (RET 阻害剤)	がんセンター	竹内 伸司 先生	Loxo Oncology, Inc. (EPS インターナショナル株式会社)	1879
LIBRETTO-201 selpercatinib 拡大治験 (JapicCTI-205322)	固形癌 (RET 融合遺伝子 陽性) 甲状腺髄様癌 (RET 変異陽性)	selpercatinib (RET 阻害剤)	がんセンター	竹内 伸司 先生	Loxo Oncology, Inc. (シミック株式会社)	1921
Check Mate 8HW		ニボルマブ (抗 PD-1 抗体)			バレクセル・インターナショナル株式会社	

治験情報の共有化により迅速な患者紹介を可能とし、
遺伝子パネル検査を受け対象となる患者の治験エントリーを促進する

今後、福井大学、信州大学、金沢医科大学にも共有の輪を広げる方針 6

妊孕性温存の支援体制の整備

石川県内で、妊孕性温存の研修会を実施し、その必要性を共有した。
厚労科研三善班作成のパンフレットを印刷し、石川県内のがん拠点病院15施設に配布した。



**石川県がん診療連携協議会
(妊孕性温存)研修会**

**日時:令和2年12月4日(金)
18:00~19:00**

開催方法:WEB講演会(Webex)
ご視聴には事前登録が必要となります。裏面をご参照ください。

開会挨拶:矢野 聖二 先生(金沢大学附属病院 教授 がんセンター長)
【特別講演】18:00~19:00
座長:矢野 聖二 先生(金沢大学附属病院 教授 がんセンター長)
演題:がん診療連携拠点病院等における妊孕性温存に関する患者サポート体制
~がん・生殖医療ナビゲーターと患者支援体制の均てん化~
演者:小野 政徳 先生
(金沢大学附属病院 周産母子センター 講師 副センター長)

対象者:がん診療に携わる医療従事者
定員:100名

問合せ先:金沢大学附属病院 拠点病院事務担当 医療支援課
TEL:076-265-2033
E-mail: hpkyotenjim@adm.kanazawa-u.ac.jp



女性向け

がん治療を開始するにあたって<抗がん剤編>
将来の妊娠を希望される女性患者さんへ



男性向け

がん治療を開始するにあたって
将来お子さんを希望される男性患者さんへ



がんと妊娠の相談窓口
がん専門相談員向け手引き (第2版)

石川県がん拠点病院、協力病院、連携病院、石川県医師会、石川県健康福祉部、金沢市保健局など60名が参加

石川県が妊孕性温存支援の現状を問うアンケートを実施(集計中)

石川県内の相談フローを示すパンフレットを作成する予定

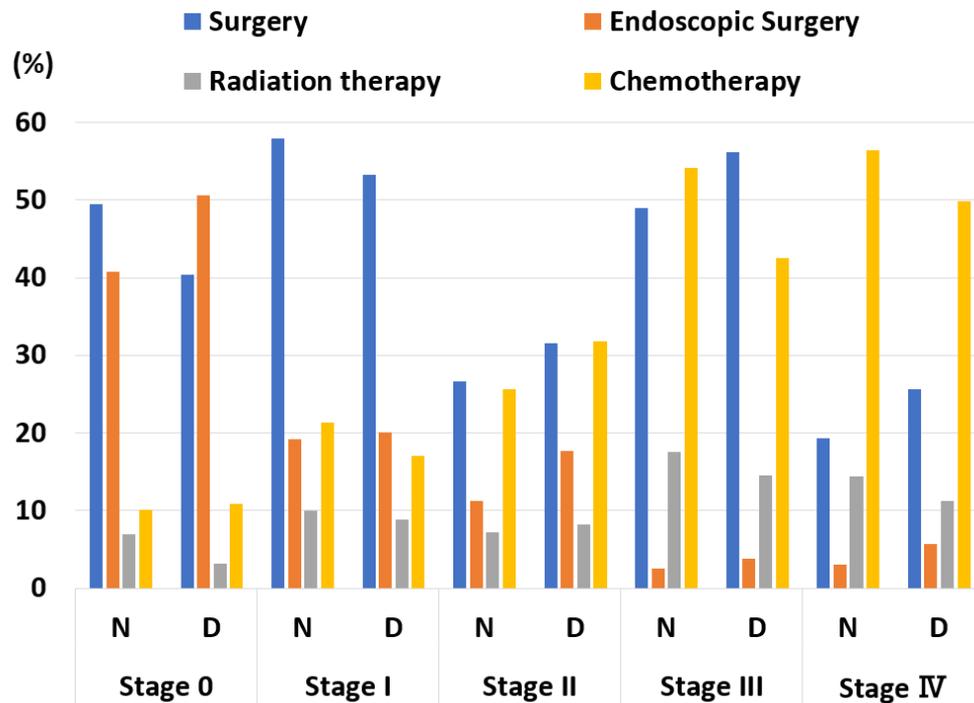
がんデータベース事業

「北信地域における障がい者のがん医療の実態を明らかにする後方視的検討」

研究責任者：谷本 梓 金沢大がんセンター

Multi-institutional survey of cancer disparities in disabled patients in the region of northwestern Japan. Sato S, Tanimoto A, et al.

英語論文として発表 (Int J Clin Oncol, in press)



10施設の2010～2015年データ

全がん患者：9万5545人

障がい者のがん患者：2983人 (3.2%)

主な結果

健常者 (N)と障がい者 (D)において病期別治療割合に大差なし

提案できる内容

障がい者ががん検診・治療を受けられる環境を整備



令和3年度に石川県に提案する方針

がん拠点病院と連携したスタッフ研修会

第45回 石川県がん診療連携拠点病院研修会

日時 2020年9月3日(木) 18:15~20:15

場所 金沢大学附属病院 対面者 がん診療に携わる医療従事者
宝ホール (15名診療棟4階) **定員** 40名

特別講演 I 18:15~19:15
 座長: 高松 繁行先生 (金沢大学附属病院 放射線治療科)
「消化器癌に対する放射線治療の役割と治療開発の状況」
 演者: 昭和大学医学部 放射線医学講座 放射線治療学部門 教授 伊藤 芳紀先生

特別講演 II 19:15~20:15
 座長: 溝上 敦先生 (金沢大学附属病院 泌尿器科)
「腎細胞がんにおけるがん免疫療法の新展開」
 演者: 慶應義塾大学医学部 泌尿器科学教室 教授 大家 基嗣先生

共催: 金沢大学附属病院、石川県がんセンター、小野薬品工業株式会社/フリストル、マイケルエスエフ株式会社
 後援: 石川県がん協会
 本研修会は、石川県がん診療連携拠点病院研修会1単位に該当します

問合せ先 金沢大学附属病院 医療支援課
 TEL: 076-265-2033
 E-mail: hpkotyentjim@adm.kanazawa-u.ac.jp

第46回 石川県がん診療連携拠点病院研修会
 (合同開催: 第23回クリニカルバス大会)

日時 2020年11月19日(木) 18時~20時

形式 web 配信研修会 (ZOOM) 対面者 がん診療に携わる医療従事者

特別講演 I 18:00~19:00
 座長: 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院 がんセンター)
「続・クリニカルバスの基礎」
「患者用パスと看護記録」
 演者: 名古屋大学医学部附属病院 メディカル IT センター 助教 船田 千秋先生

特別講演 II 19:00~20:00
 座長: 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院 がんセンター)
「進展型小細胞肺癌に対する新たな治療戦略」
 演者: 獨協医科大学 呼吸器・アレルギー内科 主任教授 仁保 誠治先生

共催: 金沢大学附属病院、北信かんぽ、アストラーゼ日本株式会社 後援: 石川県がん協会
 石川県がん診療連携拠点病院研修会1単位に該当します
 web 配信の予備講座に、参加費無料で参加します。
 (15時以降の参加費2000円(税込)については、申込書でご確認ください)

問合せ先 金沢大学附属病院 医療支援課
 TEL: 076-265-2033 E-mail: hpkotyentjim@adm.kanazawa-u.ac.jp

第47回 石川県がん診療連携拠点病院研修会

日時 2020年12月3日(木) 18時~20時

形式 web 配信研修会 (ZOOM) 対面者 がん診療に携わる医療従事者

特別講演 I 18:00~19:00
 座長: 大坪 公士郎先生 (金沢大学附属病院 外来化学療法センター長)
「肺癌化学療法の治療戦略」
 演者: 神奈川県立がんセンター-消化器内科部長 上野 誠先生
 新規治療開発センター長

特別講演 II 19:00~20:00
 座長: 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院 副院長)
「がん遺伝子パネル検査の現状と今後」
 演者: 近畿大学医学部 ケムム生物学教室 教授 西尾 和人先生

共催: 金沢大学附属病院、生研かんぽ、株式会社ケムム、日本セルフィエ株式会社
 後援: 石川県がん協会
 本研修会は石川県がん診療連携拠点病院研修会1単位に該当します
 web 配信の予備講座に、参加費無料で参加します。
 (15時以降の参加費2000円(税込)については、申込書でご確認ください)

問合せ先 金沢大学附属病院 医療支援課
 TEL: 076-265-2033 E-mail: hpkotyentjim@adm.kanazawa-u.ac.jp

第48回 石川県がん診療連携拠点病院研修会

日時 2021年3月11日(木) 18時~20時

形式 WEB ライブセミナー (参加方法は概要をご参照ください)
 対面者 がん診療に携わる医療従事者

特別講演 I 18:00~19:00
 座長: 高松 繁行先生 (金沢大学附属病院 放射線治療科)
「コロナ禍でのがん対策と放射線治療」
 演者: 東京大学大学院医学系研究科 放射線医学講座 准教授 中川 恵一先生

特別講演 II 19:00~20:00
 座長: 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院 がんセンター)
「非小細胞肺癌に対する複合免疫療法」
 ~備えあっても憂いあり? 新たな選択肢は福音か?~
 演者: 新潟県立がんセンター 新潟病院 内科部長 三浦 理先生

共催: 金沢大学附属病院、生研かんぽ、小野薬品工業株式会社/フリストル、マイケルエスエフ株式会社
 後援: 石川県がん協会
 本研修会は石川県がん診療連携拠点病院研修会1単位に該当します
 web 配信の予備講座に、参加費無料で参加します。
 (15時以降の参加費2000円(税込)については、申込書でご確認ください)

問合せ先 金沢大学附属病院 医療支援課
 TEL: 076-265-2033 E-mail: hpkotyentjim@adm.kanazawa-u.ac.jp

第45回 73名

第46回 66名

第47回 52名

3月11日開催予定

- コロナ禍のためWEB開催している。
- 昨年度実施できなかった第45回分も今年度実施できた。
- 多職種が参加した (医師35%、薬剤師31%、看護師12%、その他22%)。

ホームページによる情報発信



北信がんプロ (金沢大学)

■直近1年間更新回数 50回

■直近1年間
トップページ訪問数
10,212回

■COVID-19に関し
医療従事者向けに情報発信
288回閲覧

■市民公開講座の収録動画を
ホームページ上に公開
動画再生回数: 73回

■各種SNSにより情報発信



定期的な情報更新を行っている

令和2年度金沢大学の活動のまとめ

- コロナ禍で集会などの活動が制限されたが、それ以外は計画に近い活動を行うことができた。
- 本科生の1コース以外は、目標を上回る数の履修生を確保できた。
- 担当のオンコロジーセミナーを2回実施した。
- 遺伝子パネル検査を実施し、他大学の大学院生の研究実施に協力した。
- 石川県で整備が遅れている妊孕性温存に関し、研修会とパンフレット配布により情報共有を行った。
- 北信がんプロデータベースを活用し、障がい者ががんの実態を明らかにし英語論文として発表した。
- スタッフ研修会を4回開催した。
- ホームページを定期的に更新し情報を発信した。

信州大学

大項目	小項目	自己評価	その他のコメント
			低い→高い
施設別 履修者数	本科生	全てのコース 達成度	1 2 3 4 5 N/A
	インテンシブ	全てのコース 達成度	1 2 3 4 5 N/A
講義	e-learning作成	全ての新科目 達成度	1 2 3 4 5 N/A
演習	オンコロジーセミナー 事例検討会	達成度	1 2 3 4 5 N/A
		達成度	1 2 3 4 5 N/A
地域がんデータベース	データ収集	達成度	1 2 3 4 5 N/A
	委員会承認	達成度	1 2 3 4 5 N/A
	学会発表	達成度	1 2 3 4 5 N/A
	論文発表	達成度	1 2 3 4 5 N/A
スタッフ研修	地域でのFD研修	達成度	1 2 3 4 5 N/A
	海外FD研修	達成度	1 2 3 4 5 N/A
人材交流	国際シンポジウム	達成度	1 2 3 4 5 N/A
	他のがんプロ等とのシンポジウム	達成度	1 2 3 4 5 N/A
市民啓発	合同市民公開講座	達成度	1 2 3 4 5 N/A
	市民公開講座	達成度	1 2 3 4 5 N/A
	アンケート	達成度	1 2 3 4 5 N/A
	北信データの発表	達成度	1 2 3 4 5 N/A
北信がんプロ全体			
評価	学長連絡協議会	達成度	1 2 3 4 5 N/A
	運営協議会	達成度	1 2 3 4 5 N/A
	外部評価委員会	達成度	1 2 3 4 5 N/A
妊孕性温存	マニュアル作成	達成度	1 2 3 4 5 N/A
緩和ケア	マニュアル作成	達成度	1 2 3 4 5 N/A
専門医等情報	HPIに掲載	達成度	1 2 3 4 5 N/A
がん患者会リスト	HPIに掲載	達成度	1 2 3 4 5 N/A
がんサロンリスト	HPIに掲載	達成度	1 2 3 4 5 N/A

N/A: 該当なし

富山大学

大項目	小項目	自己評価	その他のコメント
施設別		低い→高い	
履修者数	本科生	全てのコース 達成度 1 2 3 4 5 N/A	看護師向けコースで2名申請予定
	インテンシブ	全てのコース 達成度 1 2 3 4 5 N/A	
講義	e-learning作成	全ての新科目 達成度 1 2 3 4 5 N/A	
演習	オンコロジーセミナー 事例検討会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
		達成度 1 2 3 4 5 N/A	
地域がんデータベース	データ収集	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	委員会承認	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	学会発表	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	論文発表	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
スタッフ研修	地域でのFD研修	達成度 1 2 3 4 5 N/A	中止のため
	海外FD研修	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
人材交流	国際シンポジウム	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	他のがんプロ等とのシンポジウムなど	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
市民啓発	合同市民公開講座	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	市民公開講座	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	アンケート	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	北信データの発表	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
北信がんプロ全体			
評価	学長連絡協議会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	運営協議会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	外部評価委員会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
妊孕性温存	マニュアル作成	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
緩和ケア	マニュアル作成	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
専門医等情報	HPに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
がん患者会リスト	HPに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
がんサロンリスト	HPに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	

N/A: 該当なし

福井大学

大項目	小項目	自己評価	その他のコメント
施設別		低い→高い	
履修者数	本科生	全てのコース 達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	インテンシブ	全てのコース 達成度 1 2 3 4 5 N/A	
講義	e-learning作成	全ての新科目 達成度 1 2 3 4 5 N/A	
演習	オンコロジーセミナー 事例検討会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
		達成度 1 2 3 4 5 N/A	
地域がんデータベース	データ収集 委員会承認 学会発表 論文発表	達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A	現在データを提供してもらおう手続き中であり、今後発表ならびに論文化予定である
スタッフ研修	地域でのFD研修	達成度 1 2 3 4 5 N/A	外部講師を招いたFD研修を来年度は行いたい
	海外FD研修	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
人材交流	国際シンポジウム	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	他のがんプロ等とのシンポジウムなど	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
市民啓発	合同市民公開講座	達成度 1 2 3 4 5 N/A	次年度は市民公開講座などでより北信データを利用したい
	市民公開講座	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	アンケート	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	北信データの発表	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
北信がんプロ全体			
評価	学長連絡協議会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	運営協議会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	外部評価委員会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
妊孕性温存	マニュアル作成	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
緩和ケア	マニュアル作成	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
専門医等情報	HPに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
がん患者会リスト	HPに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
がんサロンリスト	HPに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	

N/A: 該当なし

金沢医科大学

大項目	小項目	自己評価	その他のコメント
施設別		低い→高い	
履修者数	本科生 インテンシブ	全てのコース 達成度 全てのコース 達成度	3 計画と同数の達成 (うち2名は学位論文を残すのみ) 4 計画+1の達成 令和元年度迄の修了者3名 令和2年度は2名が修了予定
講義	e-learning作成	全ての新科目	達成度 5 分担分は完成済(英語コンテンツについて検討中:次年度継続事項)
演習	オンコロジーセミナー 事例検討会	達成度 達成度	5 11/12担当 131名の参加者を得た 5 各回に履修生(医師)が参加した
地域がんデータベース	データ収集 委員会承認 学会発表 論文発表	達成度 達成度 達成度 達成度	3 全体の項目として:あと2件の施設で収集完了(R3.3末)。本院分は提出済 5 本学申請の3件はすべて委員会承認済(西野教授1件、浦本教授2件) 2 現在投稿中の1件は学会発表を経ず投稿。次年度継続事項 3 投稿中および作成中各1件(いずれも浦本教授分)
スタッフ研修	地域でのFD研修 海外FD研修	達成度 達成度	5 FDを毎年度開催している。次年度も開催予定 5 H29年度開催2件には各1名が、H30年度開催1件(本学主催)には8名の教員のほか本学学長が参加した。
人材交流	国際シンポジウム 他のがんプロ等とのシンポジウムな	達成度 達成度	5 共催事業としてR01年度開催。コロナ禍のため次年度は予定しない。 3 2019.10.5九州がんプロと市民公開講座、名古屋大学中心の小児血液がんセミナーに参加
市民啓発	合同市民公開講座 市民公開講座 アンケート 北信データの発表	達成度 達成度 達成度 達成度	3 毎年度コーディネーターまたは教員などが出席し、発表を行っている。 5 毎年度開催(本年度はコロナ禍のためWeb配信)。次年度もコロナ禍に配慮し開催予定 5 毎年度実施。次年度継続事項 1 がんデータベース利用の市民向けの発表は行っていない。次年度継続事項。
北信がんプロ全体 評価	学長連絡協議会 運営協議会 外部評価委員会	達成度 達成度 達成度	5 5 5
妊孕性温存	マニュアル作成	達成度	2 作業中 次年度継続
緩和ケア	マニュアル作成	達成度	2 作業中 次年度継続
専門医等情報	HPIに掲載	達成度	2 作業中 次年度継続
がん患者会リスト	HPIに掲載	達成度	4 済
がんサロンリスト	HPIに掲載	達成度	4 済

第3回総務委員会で確認済
第3回総務委員会で確認済
第3回総務委員会で確認済
矢野コーディネーターが後日評価およびコメント案作成
矢野コーディネーターが後日評価およびコメント案作成
矢野コーディネーターが後日評価およびコメント案作成
矢野コーディネーターが後日評価およびコメント案作成
矢野コーディネーターが後日評価およびコメント案作成

N/A: 該当なし

石川県立看護大学

大項目	小項目	自己評価	その他のコメント
施設別		低い→高い	
履修者数	本科生 全てのコース	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	インテンシブ 全てのコース	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
講義	e-learning作成 全ての新科目	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
演習	オンコロジーセミナー	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	事例検討会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
地域がんデータベース	データ収集	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	委員会承認	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	学会発表	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	論文発表	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
スタッフ研修	地域でのFD研修	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	海外FD研修	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
人材交流	国際シンポジウム	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	他のがんプロ等とのシンポジウムなど	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
市民啓発	合同市民公開講座	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	市民公開講座	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	アンケート	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	北信データの発表	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
北信がんプロ全体			
評価	学長連絡協議会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	運営協議会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
	外部評価委員会	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
妊孕性温存	マニュアル作成	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
緩和ケア	マニュアル作成	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
専門医等情報	HPIに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
がん患者会リスト	HPIに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
がんサロンリスト	HPIに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	

N/A: 該当なし

金沢大学

大項目	小項目	自己評価	その他のコメント
施設別		低い→高い	
履修者数	本科生 全てのコース インテンシブ 全てのコース	達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A	放射線物理士コースは1名不足だが、それ以外は100%以上充足 全てのコースで100%以上充足
講義	e-learning作成 全ての新科目	達成度 1 2 3 4 5 N/A	全ての新科目でe-learning講義を6コマ分以上作成完了 がんゲノムの4コマについては、英語テキスト化を完了
演習	オンコロジーセミナー 事例検討会	達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A	主幹1回、症例報告1回を実施した。 看護師を中心に参加した。医師の参加数が少なかった。
地域がんデータベース	データ収集 委員会承認 学会発表 論文発表	達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A	「障がい者」に関するデータを解析し、日本内科学会で発表した。 また、その内容をInt J Clin Oncol誌に投稿し、受理された。 さらに、北信がんデータベース全体データを全国がんプロ合同教育フォーラムで発表し、英語論文文化も進めている。
スタッフ研修	地域でのFD研修 海外FD研修	達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A	がん拠点病院事業と共同で4回の研修会を実施した。 海外FD研修はコロナ禍で実施できなかった。
人材交流	国際シンポジウム 他のがんプロ等とのシンポジウムなど	達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A	コロナ禍のため、国際シンポジウムや他がんプロ等とのシンポジウムを開催できなかった。
市民啓発	合同市民公開講座 市民公開講座 アンケート 北信データの発表	達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A	コロナ禍のため独自の市民公開講座を開催できず、付随するアンケート調査や北信がんデータベースの解析結果の発表ができなかった。
北信がんプロ全体			
評価	学長連絡協議会 運営協議会 外部評価委員会	達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A 達成度 1 2 3 4 5 N/A	いずれも予定通りに開催した。
妊孕性温存	マニュアル作成	達成度 1 2 3 4 5 N/A	石川県において研修会を開催し、がん拠点病院へのパンフレット配布を行い、情報共有を行った。
緩和ケア	マニュアル作成	達成度 1 2 3 4 5 N/A	富山県の共通緩和ケアマニュアルの提供を受け、北信がんプロ共通の緩和ケアマニュアル作成に着手した。
専門医等情報	HPに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
がん患者会リスト	HPに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	
がんサロンリスト	HPに掲載	達成度 1 2 3 4 5 N/A	

N/A：該当なし

**平成29年度大学教育再生戦略推進費
「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材
(がんプロフェッショナル)」養成プラン」
申請書**

【様式1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	金沢大学 (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学) 計6大学
事業名 (全角20字以内)	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

事業責任者 連絡先	職名・氏名	金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科学教授・矢野 聖二
	TEL	076-265-2780
	FAX	076-234-4524
事務担当者 連絡先	E-mail	syano@staff.kanazawa-u.ac.jp
	職名・氏名	金沢大学医薬保健系事務部学生課長・中平 泰
	TEL	076-265-2126
	FAX	076-234-4208
	E-mail	iyakuhogakusei-kacho@adm.kanazawa-u.ac.jp

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉2期の北陸がんプロ(金沢大、富山大、福井大、金沢医大、石川看護大)では、1)本科生充足率138%の達成、2)チーム医療の柱となる延べ139名の認定資格取得者輩出、3)TV会議システムを活用したがんプロキャンサーボード(109回、194症例、6,337名参加)による多施設・多職種連携の基盤構築、4)小・中学校教諭向けがんe-learning教材の作成・無料配布等、特色ある活動によって北陸地域のがん医療・がん教育向上に貢献し、地域でのがん医療人材育成システム構築の基盤が形成された。

本事業では、先駆的ゲノム医療を実施し、平成7年に全国初の遺伝子診療部を設立した信州大を加えた国公私立の6大学(北信がんプロ)で、北信地域でのがん医療人材育成に取り組む。北信地域には金沢大がん進展制御研究所の高い基礎研究力、附属病院の高い臨床研究力(医師主導治験4件立上げ/3年間)や国内・国際連携力(国立がん研究センターや復旦大等と連携協定締結)、信州大の遺伝カウンセラー養成等先進的特徴がある。また、北信地域は全国と比較し、15年以上進んだ超少子高齢化状態にあり、将来の日本を反映したモデル地域である。北信地域でも全国と同様最先端のゲノム医療による高度医療実現、小児・AYA世代・希少がん治療、ライフステージごとの対応が必要だが、進行した超少子高齢化により、社会を支える小児・AYA世代・働き盛り世代がんの最適な診療・治療・就労支援、増加した高齢者がんの最適な治療・在宅緩和ケアが喫緊のニーズである。これまでは金沢大の先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大の小児・AYA世代がん診療、金沢医大の希少がん病理診断や集学的治療、富山大の高齢者がん対策、福井大の先進的在宅緩和ケア、石川看護大の全人的ケアと認定看護師養成等、各大学が特徴ある診療やがん医療人育成を行ってきた。しかし北信地域では医療スタッフが少ない、小児・AYA世代・希少がん症例数が少ない、地域として医療実態の把握がなされていない等、がん医療人育成における地域的医療課題がある。北信地域に適合するがん医療人材育成のためには、6大学の強みを生かした相互補完的教育の実施、症例数が少ないがんでも効率よく経験できる遠隔教育・研修システムの確立、北信地域全体の症例・がん医療のデータベース化による医療実態の把握等に取り組み、**県の枠を超えた戦略的がん医療人育成システム構築が必要**である。現状の北信地域で多様なニーズに対応した患者中心のチーム医療を行う先進的がん医療人材育成モデルを構築できれば、将来の日本の超少子高齢化社会で活躍するがん医療人材を育成できると考えられる。

〈事業の概要〉

本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人材育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース（本科10、インテンシブ9）を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。

②大学・学部等の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデル確立を目指す本事業は、「高度職業人養成に資する学習事業や、付加価値が高い学習事業を開発・実施する」とする金沢大の行動計画（YAMAZAKIプラン2016:VISION VIII）と完全に合致する。また、本事業における連携校のそれぞれの強みを生かした相互補完的教育プログラム、多施設・多職種連携の演習による医療人材教育システム構築は、「大学院課程においては、高度な専門的知識・技能と学際性を兼ね備え、国際的視野を有する研究者及び専門職業人等、グローバル化する社会を積極的にリードする人材を育成する」とする金沢大第3期中期目標を実践するプロジェクトである。

③新規性・独創性

本事業（北信がんプロ）においては、北信6大学の強み（金沢大：先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大：がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成、小児・AYA世代がん診療、金沢医大：希少がん病理診断や集学的治療・就労支援、富山大：高齢者がん対策、福井大：先進的在宅緩和ケア、石川看護大：患者のライフステージに合わせた全人的ケア・認定看護師養成）を生かした相互補完的教育プログラムを19コース新設（本科10コース、インテンシブ9コース）し、大学の枠を超えて履修できる共通選択科目や単位互換の導入によって、北信地域における多様な新ニーズに対応できる知識を相互補完的に習得できる特色がある。

また、2期がんプロでの北陸5大学と共通のTV会議システムを信州大にも導入し、TV会議システムを活用した従来の北陸がんプロキャンサーボードをさらに充実・発展させた、北信地域での遠隔教育システムの構築・活用に取組む。遠隔教育システムにより6大学やがん診療連携拠点病院の専攻生や教員、医療スタッフ等の多職種が一堂に会する北信オンコロジーセミナー（病態や治療中心）やライフステージ事例検討会（患者ケア・支援中心）を定期開催する。これにより北信地域全体の多職種が、最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がんや希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学習することができる。地域医療機関との人材交流、金沢大がん進展制御研究所や国立がん研究センター、シンガポール国立大、復旦大等との連携を利用した国際シンポジウムも実施する。さらに、各大学教員を海外連携機関へFD研修に派遣（平成33年度末までに各大学1回）し、スタッフの活性化とレベルアップを図る。海外FD研修の参加者は、上記TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表（成果共有・還元）すると共に、多職種のスキルアップ指導を行う。これらの取組みによって、多施設・多職種連携を一層推進するチーム医療教育を行うところに本事業の独創性がある。

北信地域のがん症例・がん医療（先進的医療を含む）の実態を把握するため、北信地域のがん診療連携拠点病院（28施設）の院内がん登録データを活用するとともに、金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネージメント部門）が作成する電子入力システム（Ptoshを応用）を用い、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬使用症例、在宅緩和ケア実施症例、障がい者がん症例、妊孕性保存症例など特色ある症例を対象とした独自の北信地域がんデータベースを新たに構築する。それを基盤とした臨床研究（高額な薬剤の有効利用法の探索を含む）成果の国内・国際学会発表や英語論文発表を推進することで、専攻生や教育スタッフの意欲を高め、本事業の求心力を保ち、データベースの情報や論文等の成果を北信がんプロの教育コースへも還元する。研究成果を継続的に社会に発信・還元することで、将来のがん対策の一環として地域住民へ「がん教育（がんの理解）・予防・検診受診・早期発見・早期治療・早期社会復帰」に対する啓蒙を行う。

以上の県の枠を超えた戦略的がん医療人材育成システム構築活動により6大学から輩出される医師・歯科医師・薬剤師・看護師・遺伝子カウンセラー等は、現状の北信地域、ひいては将来の日本の超少子高齢化社会において、ゲノム医療や多職種による就労支援及び切れ目ない緩和ケアを実践し活躍できる先進的がん医療人材となることが期待されるが、このような育成モデル確立に挑戦する点に最大の新規性がある。

④社会との関係（がん患者及びその家族等の視点）

信州大を中心とした遺伝カウンセラー養成では、家族性腫瘍（乳がん、卵巣がん等を含む）の患者・家族のカウンセリングを行い、心のケアや検診・早期発見・早期治療を支援する。また、北信地域の患者会等と連携し、地域メディア（テレビ、新聞、雑誌等）や合同市民公開講座を通じて地域住民にがん教育を行い、がん予防、検診受診による早期発見・早期治療、早期社会復帰等の啓蒙活動を積極的に行う。これらの活動を通じて患者や家族の意見を収集し、北信がんプロ運営協議会でその対応を議論し、がん患者及び家族の視点に立った取組みを推進する。また、2期北陸がんプロでは小・中学校教諭向けがんe-learning教材を作成し、北陸3県の小・中学校に無償配布を行った。本事業ではゲノム医療、小児・AYA世代・希少がん等の内容を盛り込んだ教材の改訂を行い、北陸3県に加えて長野県や高校にも配布し、がん教育を支援する。全国的にも実態が把握されていない障がい者のがんや特にAYA世代のがん患者や家族において重大な問題となる妊孕性保存についても北信地域がんデータベースで実態を把握し、患者や家族のための対策立案に取組む。

⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画, 働きやすい職場環境, 勤務継続・復帰支援等も含む。)

北信がんプロでは教員（各大学数名ずつ）を海外連携機関へFD研修に派遣し、後日TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表させることにより、国際化と教育のキャリア形成を行う。また、多職種連携、役割分担によるチーム医療を通じて業務の効率化を試み、女性でも継続的勤務が可能な働きやすい職場環境の実現を目指す。2期北陸がんプロで看護師の復帰支援の取組を行い実績を上げたが、連携施設間で他施設の長所を取り入れ、医師、歯科医師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、放射線技師、リハビリテーション技師、栄養士等を含む多職種についても復帰支援を積極的に行う。

⑥達成目標・評価指標

- ・教育プログラム・コースの立ち上げ時期：平成29年10月（一部平成30年4月より開始）
- ・教育プログラム・コースの実施数：本科コース 10、インテンシブコース 9、計19コース

これらの教育プログラム・コースにより、本事業全体として、355名の医師、薬剤師、看護師、遺伝カウンセラー等を輩出し、北信地域における超少子高齢化社会に対応した地域医療従事者の輩出および北信地域医療へ貢献する。
（職種別数値目標は右の表を参照）

その他の指標としては、多職種連携、FD講習、人材交流などの人材育成のためのセミナーやシンポジウムの回数、地域医療レベル向上のための地域医療機関での診療回数、セミナーの実施回数、地域のがん医療の実態を把握する北信地域がんデータベースで機能するデータベース項目数等を掲げる。
（それぞれの数値目標は右の下表を参照）

教育コース	対象	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大 先進的個別化医療	医師等	5	5	5	5	20
個別化薬物療法	薬剤師	1	2	2	2	7
高度化医学物理士	物理士	2	2	2	2	8
信州大 ゲノムがん治療	医師	2	2	2	2	8
遺伝カウンセラー	多職種	1	1	1	1	4
富山大 高齢がん患者対策	医師	4	4	4	4	16
個別化医療薬剤師	薬剤師	1	1	1	1	4
福井大 地域がん専門医	医師	2	2	2	2	8
金沢医大 がん専門医リーダー	医師	2	2	2	2	8
石川看護大 ライフステージ	看護師	2	2	2	2	8
合計		22	23	23	23	91

教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大 がんゲノム生涯教育	医師等	2	6	6	6	6	26
個別化薬物実践	薬剤師	0	1	2	2	2	7
富山大 高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	2	10
高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	2	9
在宅緩和リハ	看護師	0	1	2	2	2	7
福井大 在宅栄養管理	医師等	0	12	22	22	22	78
在宅緩和医療	医師等	0	24	24	24	24	96
金沢医大 がん集学的治療	医師	1	2	2	2	2	9
石川看護大 がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22
合計		8	55	67	67	67	264

名称	参加校数	開催数	参加者数
多職種連携 北信オンコロジーセミナー	6	18	6,500
セミナー ライフステージ事例検討会	6	30	4,500
FD 海外FD研修	6	1回/校	30
FD講習会	6	3	90
人材交流 国際シンポジウム	6	2	400
市民公開講座	6	5	1,000
地域医療機関での診療	6	3,000	3,000
実態把握 北信地域がんデータベース	7種類以上の機能する疾患データ		

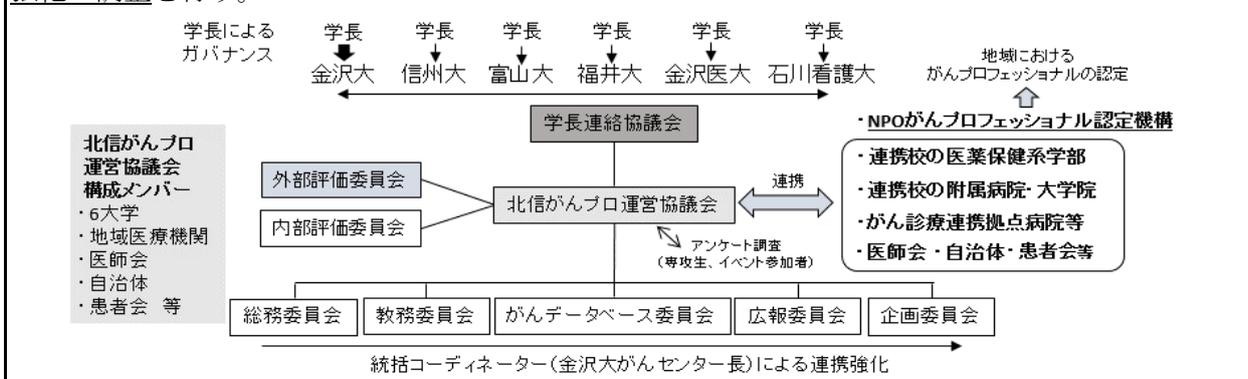
（2）教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

各大学の学長が各施設においてガバナンスを発揮して事業を推進する。全学長が集まる**学長連絡協議会**を設置し、事業の進捗を管理する。6大学・地域医療機関・医師会・自治体・患者会等による**運営協議会**（年1回開催）を設置し、実際の意思決定及び運営を行う。さらに6大学による**総務委員会**（ステアリングコミッティー）、**教務委員会**、**がんデータベース委員会**（がんデータベースの個人情報管理状況、倫理審査状況も掌握）、**広報委員会**、**企画委員会**等を設置（年数回開催）し、実務を担当する。金沢大学がんセンター長が**統括コーディネーター**として6大学の**連携強化・調整**を行う。



②事業の評価体制

内部評価委員会（研究科長等の内部有識者）及び**外部評価委員会**（地域医療機関の長や患者会代表等の外部有識者）を立上げ、事業（特に数値目標の達成状況や一般向け情報発信状態）を定期的（中間、最終）に評価する。各評価委員会が評価結果を北信がんプロ運営協議会に提出し、同協議会で評価に対するPDCAサイクルを回して**事業計画**を見直し、運営状態の改善を常に図る。また、専攻生や市民公開講座等のイベント参加者への**アンケート調査**を行い、同様に事業内容改善を図る。

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

連携6大学では学長連絡協議会・北信がんプロ運営協議会等の実施体制を整備し、各大学の強みを生かした**相互補完的教育プログラムのコース**を設置する他、北信オンコロジーセミナーやライフステージ事例検討会等を実施することで、多施設・多職種連携・チーム医療教育を行いスキルアップを図る。北信地域がんデータベースは金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネジメント部門）による電子入力システム（Ptoshを応用）構築で、**円滑なデータ管理・運用**が可能となるメリットがある。

また、本事業の実施にあたり、金沢大がん進展制御研究所、国立がん研究センター、がん拠点病院・医師会、患者会、海外連携施設、他のがんプロチーム、文科省人材養成プログラム等と連携する。金沢大がん進展制御研究所により**がんゲノム等の基礎知識教育**を実施する。国立がん研究センター（金沢大が連携協定締結）が実施中の**がん遺伝子解析事業(SCRUM-JAPAN)**と連携し、分子標的薬等による個別化医療研究・医師主導治験に関する支援を受け北信がんプロ及び**北信地域の先進的医療の推進**を図る。シンガポール国立大や復旦大等の海外連携施設では教育・医療スタッフが**海外FD研修**（各大学が1回海外外向）を受け、医療のグローバル化を見据えて教育・医療スタッフの能力向上を図るとともに、FD講習会により北信地域の医療従事者や北信がんプロの教育コース専攻生に**教育成果を還元**する。北信4県のがん拠点病院（28施設）や医師会との連携では北信地域がんデータベース作成の支援を受ける一方で、人材交流による**地域がん医療レベルの向上**に貢献する。また、合同市民公開講座開催で**予防・検診受診による早期発見・早期治療・早期社会復帰の概念を市民に啓蒙・普及**させる。4県の患者会とは運営協議会や市民公開講座を通じて患者の意見を広く取り入れ、**患者目線の医療立案**に役立てる。他のがんプロチームとは合同シンポジウムを開催（H30年2月に名古屋大等と血液がんシンポ開催予定）し、連携を深め本事業の普及を図る。他の文科省人材養成プログラム「（未来医療人材養成プログラム、課題解決型高度医療人材養成プログラム（金沢大・北陸認プロ、信州大・次世代スーパードクターの育成）」とも合同シンポジウム等で交流し相互の事業内容の改善を図る。全国規模のe-learningシステムに参画し、**新規教材作成に協力**して本事業の情報発信を行う一方で、**必須科目教材の提供**を受ける。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する構想

将来の日本の超少子高齢化社会で活躍できるがん医療人材の戦略的育成のため、本事業で設置した教育コース、連携事業等は基本的に各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる。特に、北信地域がんデータベース構築事業は、北信地域においては将来の日本の超少子高齢化社会における効率的ながん医療人材教育システム構築に向けた基盤形成事業と位置付け、改善・発展させながら継続する。そのために、自己資金の支出のみに依存せず、公的研究費獲得に向けた申請を継続的に行う。

②事業成果の普及に関する計画

本事業で構築するがん医療人材育成システムは、将来の日本の超少子高齢化社会においても機能するがん医療人材育成モデルであり、国内のがん関連学会（日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会等）や市民公開講座、ホームページ、マスメディア（TV、新聞、雑誌等）等を通じて成果を発信し、国民に「がん教育・予防・検診受診促進・早期発見・早期治療・早期社会復帰」の意識付けができるよう啓蒙に努める。

3. 年度別の計画

(1) 年度別の計画

29年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 6月 学長連絡協議会、北信がんプロ各種委員会（総務委員会、教務委員会、がんデータベース委員会、企画委員会、広報委員会）の開催、事業計画（中期、年度）等協議 ② 6月～各教育コース設置に伴う関係規定等の整備に着手 ③ 6月 ホームページの立ち上げ ④ 6月 全国規模e-learningシステムへの参加 ⑤ 7月 北信がんプロ運営協議会の開催（事業計画承認・決定） ⑥ 8月 北信地域がんデータベース構築に着手 ⑦ 9月 北信オンコロジーセミナー（TV会議方式）の開始（2回/年度） ⑧ 9月 FD講習会の開催（海外FD研修の説明） ⑨ 10月 ライフステージ事例検討会（TV会議方式）の開催（2回/年度） ⑩ 11月 教育コースの一部開始（インテンシブコースの一部） ⑪ 11月 6大学合同市民公開講座の開催 ⑫ 1-3月 海外FD研修（2大学が実施予定） ⑬ 3月 内部評価委員会の開催
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 学長連絡協議会、各種委員会の開催（事業計画等の協議） ② 5月 北信がんプロ運営協議会の開催（事業年次計画の承認・決定） ③ 5月 ライフステージ事例検討会（TV会議方式）の開始（7回/年度） ④ 6月 北信オンコロジーセミナー（TV会議方式）の開始（4回/年度） ⑤ 9月～海外FD研修（4大学が実施予定） ⑥ 11月 6大学合同市民公開講座の開催 ⑦ 1月 国際シンポジウムの開催 ⑧ 3月 外部評価委員会（中間）の開催 ⑨ 3月 FD講習会の開催
31年度	<ul style="list-style-type: none"> ①～④ 前年度事業と同じ ⑤ 11月 6大学合同市民公開講座の開催 ⑥ 3月 内部評価委員会の開催
32年度	<ul style="list-style-type: none"> ①～⑦ 前年度事業と同じ ⑧ 2月 国際シンポジウムの開催
33年度	<ul style="list-style-type: none"> ①～⑤ 前年度事業と同じ ⑥ 1月 内部評価（最終）の実施 ⑦ 2月 外部評価（最終）の実施 ⑧ 3月 事業成果報告会の開催
34年度 [補助期間 終了後]	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 学長連絡協議会、各種委員会の開催（事業計画等の協議） ② 4月～北信地域がんデータベース関連の会議の定期開催（改善・発展のための協議）

(2) 事業実施期間に係る補助事業予定額

(単位：千円)

年 度		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
事業予定額		131,900	131,900	131,900	95,800	54,000
内訳	補助金申請予定額	131,900	131,900	131,900	87,000	43,500
	自己負担予定額	0	0	0	8,800	10,500

(3) 平成29年度の補助金申請予定額の積算内訳

(単位：千円)

経費区分	金額	積算内訳
物 品 費	33,931	設備備品費 29,250千円
		TV会議システム・MCU一式 7,650千円 【⑥⑨関係】
		北信地域がんデータベースサーバ 10,000千円 【⑥関係】
		コンピューター・複合機1式(3台) 1,000千円 【③⑨関係】
		UV&RF-HPLC(液体クロマトグラフ)一式 7,000千円 【⑪関係】
		e-learning教材収録機器 3,600千円 【④関係】
		消耗品費 1,301千円
		プログラム支援・教材用消耗品 1,301千円 【⑩⑪関係】
		分担金配分予定(信州大) 100千円
		大学院コース、講座用消耗品 100千円 【⑦⑩関係】
		分担金配分予定(富山大) 1,700千円
		医療職者セミナー・講座用消耗品 1,700千円 【②⑪関係】
		分担金配分予定(福井大) 180千円
		講座・セミナー用消耗品 180千円 【②⑨関係】
		分担金配分予定(金沢医大) 1,000千円
		事業推進用、教材用消耗品 1,000千円 【②⑧関係】
		分担金配分予定(石川看護大) 400千円
事務用消耗品・図書購入費 400千円 【②⑨関係】		
人件費・謝金	36,373	人件費 10,000千円
		プログラム補助用事務補佐員 175千円×10月×2名=3,500千円 (6月～3月：930円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪⑬関係】
		プログラム担当特任教員 650千円×10月×1名=6,500千円 (6月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		分配金配分予定(信州大) 11,013千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：960円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		プログラム担当特任助教 450千円×8月×2名=7,200千円 (8月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		コーディネーター 257千円×9月×1名=2,313千円 (6月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		分配金配分予定(富山大) 1,500千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：880円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		分配金配分予定(福井大) 7,800千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：960円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		プログラム担当特任教員 630千円×10月×1名=6,300千円 (6月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		分配金配分予定(金沢医大) 1,350千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×9月×1名=1,350千円 (7月～3月：1,250円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		分配金配分予定(石川看護大) 1,600千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：880円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		謝金 3,110千円
FD講演会等講師謝金(25回) 1,200千円 【⑧⑪関係】		
市民公開講座講師謝金(計27回) 1,350千円 【⑩関係】		
ワークショップ等講師謝金(8回) 560千円 【⑦⑨関係】		

旅費	16,806	旅費 10,250千円 運営協議会等旅費(30人×1回)金沢 450千円【⑤⑩関係】 関連学会(2人×5回)国内外 2,300千円【②関係】 海外FD研修会(5人×3大学)1月 7,500千円【⑫関係】 分担金配分予定(信州大) 472千円 関連学術調査(3人×2回)神戸、東京 273千円【②関係】 会議等交通費(1人×5回)金沢 171千円【⑤関係】 講演会講師旅費 28千円【⑩関係】 分担金配分予定(富山大) 1,200千円 関連学術調査(2人×5回) 750千円【②関係】 シンポジウム等講師旅費(14回) 450千円【⑩関係】 分担金配分予定(福井大学) 60千円 シンポジウム講師旅費(2人×1回) 60千円【⑩関係】 分担金配分予定(金沢医大) 2,314千円 関連学術調査(1人×7回)国内外 1,200千円【②関係】 国際セミナー講師招聘旅費(2名×2回)中国 890千円【⑧関係】 事業推進交通費(1人×3回) 224千円【⑤関係】 分担金配分予定(石川看護大) 2,510千円 関連学術調査(1人×3回) 150千円【②関係】 セミナー・実習講師等旅費 1,160千円【⑧⑩関係】 海外研修旅費(2人×1回)オーストラリア 1,200千円【⑫関係】
その他	34,890	外注費 21,750千円 教材コンテンツ作成委託・保守 7,220千円【⑩関係】 ホームページ作成・保守(3大学分) 7,680千円【③関係】 がんデータベースサーバー保守費 5,000千円【③関係】 テレビ会議システム保守費 1,850千円【⑦⑨関係】 印刷製本費 3,620千円 受講生募集資料等 620千円【⑩関係】 活動報告書 300千円【⑩⑫関係】 シンポジウム等ポスター等(9回) 2,700千円【⑩関係】 会議費 3,500千円 シンポジウム会場借上(9回) 3,300千円【⑩関係】 会議飲料等(6大学) 200千円【①⑤関係】 通信運搬費 750千円 各種案内状等送料等(6大学分) 450千円【①⑤関係】 テレビ会議通信費 300千円【⑨関係】 その他(諸経費) 5,270千円 シンポジウム設営費等(2回) 1,800千円【⑩関係】 シンポジウム採録記事掲載(2回) 3,470千円【⑩関係】
間接経費	9,900	
合計	131,900	

4. 同一又は類似の事業(該当が無い場合は「なし」と記入)

他の補助金等の名称	なし
選定年度	
取組名称	
取組の概要(5行以内)	
今回の申請との関連性(5行以内)	

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	先端的個別化医療コース						
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端的研究を理解し、遺伝子解析に基づく最適の集学的個別化医療（手術、放射線、薬物治療等）を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目10単位を含む30単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必修科目>分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論、ほか3科目</p> <p><選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、臨床腫瘍学演習（1単位）ほか10科目</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来の個別化医療は主に遺伝子解析に基づく薬物療法であったが、本コースでは、今後のわが国で必要とされる遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て北信がんプロ科目において学習し、実践できる能力を養う点に独創性がある。演習で、金沢大学附属病院において実施されている医師主導治験や先進医療等の実際を学ぶ（先端医療開発センターや国立がんセンターと連携）。選択演習として、ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端的基础を実際に行う（がん進展制御研究所との連携）プランを設定するところにも特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学がん進展制御研究所や金沢大学の遺伝子解析、個別化医療研究のエキスパートやがんプロ卒業生が、実際に進行しているプロジェクトを通じたon-the-jobトレーニングを行う。また、e-learningやTV会議セミナー等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について教務委員会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、がんゲノム医療における世界水準の知識・技能・研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム診療のリーダーとして貢献するとともに、高額な薬剤の有効利用により医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		5	5	5	5	20
	計	0	5	5	5	5	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療生涯教育コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師及び歯科医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	遺伝子解析に基づいた分子標的治療や免疫チェックポイント阻害薬による治療の概要を理解し、多職種と連携して実地医療における個別化医療を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びキャンサーボードへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learnin教材及び本事業の講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したキャンサーボード又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来のがん治療の均てん化を目的とした講義内容にとどまらず、本事業においては、今後のわが国で必要とされるであろう遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て教育し、将来の日本のがんゲノム医療に対応できる能力を養成する点に特色がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがんゲノム医療のエキスパートであるスタッフが、遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師及び歯科医師は、多職種と連携できるがんゲノム診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師及び歯科医師	2	6	6	6	6	26
	計	2	6	6	6	6	26

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻						
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース						
対象者	医薬保健学総合研究科薬学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。</p> <p>がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。</p> <p>以上の様な業務を先駆けて実践し、広めていくことができるリーダー。</p>						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位〔必修科目2単位、選択必修科目(実習、演習)1単位を含む〕を修得すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。実習演習科目は、金沢大学医薬保健研究域薬学系又は附属病院を中心に富山大学を含めた他大学及び医療施設と共同で実施する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論（各1単位）</p> <p><選択必修科目>先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）</p> <p><選択科目>>腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）ほか3科目</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全国的にも非常に少ない6年制学士課程の本コース入学者が、将来の薬剤師の教育者、研究者・指導者となること目標とし、がん個別化薬物療法に特化した専門能力を向上させるための4年制博士課程教育の充実をはかる点に独創性がある。患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に必要な薬剤師のスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・職種の間を越えて教育し、多職種連携のリーダーとなる薬剤師を養成するところに新規性がある。						
指導体制	がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する金沢大学の薬学系教員・薬剤師が、臨床現場等でon-the-jobトレーニングにより指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格取得が可能となる。更に、がん薬物療法の個別化及び安全性向上を実践し、ん薬物療法及び地域包括ケアを推進する多職種連携のリーダーとなる薬剤師のキャリア形成につながる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース（インテンシブ）
対象者	薬剤師免許を有し、がん専門薬剤師又は緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得しようとする者。
修業年限（期間）	3月から1年（延長可）
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 がん・緩和領域における地域包括ケアを推進する人材。 次世代のリーダーになることを目指す人材。
修了要件・履修方法	北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びがんボードへの出席又は多職種連携セミナー（がんライフステージ事例検討会等）への参加。 全国e-learningクラウド等のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したがんボード、がんライフステージ事例検討会等の多職種連携セミナー等への参加による学習を行う。実習演習については富山大学との共同開催として、他大学での開講科目も履修可能とする。
履修科目等	<選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）等
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本プログラムの特色は、がん患者に対する地域包括ケアにおいて、薬剤師が患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に要求されるスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・施設間の壁を越えて、受講者の能力・ニーズに応じた教育を受けられることにある。そのために、先進的がん薬物療法個別化実習では、受講者がそれぞれの能力・ニーズに合致する実習ユニット（個別化薬物療法、在宅緩和医療、病院がん薬物療法、先進的注射薬管理、フィジカルアセスメントなど）が選択できる。また、有害事象解析演習については、TV会議システムを用いて、北信がんプロ参加大学間で協働して実施する。このユニットは、教育プログラムを発展させ、大学間多職種参加型研究プロジェクトとして、がん薬物療法の有害事象対策を多職種連携により確立することを目指すことによって、エビデンスを発信するスキルも学べる点に新規性・独創性がある
指導体制	本コースでは、がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する薬学系教員・薬剤師が、臨床現場において、on-the-jobトレーニングにより指導する。また、e-learningを活用した受講者の能動的学習を促し、実習により知識を定着化させる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者には、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。さらには、地域において、がん・緩和薬物療法の個別化および安全性を向上させ、地域包括ケアの牽引者となる。そして、それらの経験を生かし、薬剤師や薬学生に対する講義、実習を行うことで、次世代の医療者の育成者となる

受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻						
教育プログラム・コース名	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース						
対象者	医薬保健総合研究科（博士後期課程）保健学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	3年						
養成すべき人材像	がん治療において基礎的及び臨床的がん診療を理解し、より高度化した放射線治療において放射線技術および医学物理学による個別化医療を目指す臨床研究を實踐できる診療放射線技師・医学物理士を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目12単位以上を修得し、個別化医療の基礎・臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必須科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、コンサルテーション論（2単位）、分子生物学入門（1単位）、医療統計学特論（2単位）、放射線治療物理臨床技術学特講（2単位）、臨地専門マネジメント演習（2単位）</p> <p><選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	2期までのがんプロで放射線治療技術の底上げを目指した教育により、放射線治療技術の均てん化は進んできた。その為、2期がんプロのがん専門放射線技術・医療物理コースを改修し、放射線治療技術の更なる高度化や個別化医療に資する人材を育成することを目指す。本コースはその点に新規性がある。また、より高精度な放射線治療技術及び個別化放射線治療の包括的な知識を習得させ、自身で個別化要因を洗い出し、研究を計画・実施・評価できる能力を養う点に独創性がある。金沢大学附属病院におけるon-the-jobトレーニング演習と北陸オンコロジーセミナー等への参加により、より実践的な技術及びがん治療の全体像を学習する点に特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学医薬保健総合研究科保健学専攻と金沢大学附属病院の教員やがんプロ卒業生により直接on-the-jobトレーニングを行う。e-learningやTV会議等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について、連携協議会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、世界水準の研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における研究及び放射線治療の品質管理のリーダーとして貢献する。得られた知識や研究からの副作用の少ない放射線治療を医師と共同で実践し医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院医学系研究科医学系専攻						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース						
対象者	医学系研究科医学系専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	1) 遺伝性・家族性のがんを含めた幅広いがん治療に精通する医師、2) 個別化医療やゲノム医療の実際を経験し、その重要性を理解し、その推進に関わることができる医師 3) 個別化医療やゲノム医療へのリサーチマインドを有する医師						
修了要件・履修方法	＜修了要件＞必修科目6単位、選択必修科目6単位、コース選択科目は研究特論を含む18単位、計30単位を修得し、研究論文が学位審査に合格すること。 ＜履修方法＞e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。						
履修科目等	＜必修科目＞医科学研究遂行特論ほか2科目（各2単位） ＜選択必修科目＞人類遺伝学研究方法特論（2単位）ほか6科目（各2単位） ＜コース選択科目＞臨床腫瘍学研究特論（8単位）、臨床腫瘍学（4単位）、放射線治療学（4単位）、緩和医療学（4単位）、小児血液・腫瘍学（3単位）、遺伝学的病態学論（2単位）、小児科学研究特論（8単位）、産婦人科研究特論（8単位）、外科学研究特論（8単位）ほか10科目、新設する北信がんプロ科目（5科目：各1単位） 全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当研究科では 1) 先のがんプロ事業で新規講座を開設し、その担当診療科で、AYA世代から高齢者に渡り、多がん種のがん診療を行う体制を整備した。2) 小児の血液がんおよび悪性腫瘍の診療・研究・指導体制が充実している。3) 附属病院遺伝診療研究センターで、遺伝性・家族性腫瘍患者のデータベースおよび診療が整備されている。4) 附属病院ではゲノム医療推進の試みとしてクリニカルシーケンス開設の準備中である。5) このコースでは、幅広いがん診療・治療を経験させながら、個々のがんゲノム医療の重要性とリサーチマインドを持つ医療人を育成する。						
指導体制	当研究科は従来より大学院生に対して主および副担任制度を設けている。本コースに配属する大学院生に関しては必ずコーディネイターおよび事業推進委員のどちらかの担任となり指導体制をとる。事業推進委員の各教室が連携して幅広い領域の臨床研鑽を可能とし、研究指導を行う。なお、本学医学系研究科（博士課程）は、平成30年度に総合工学系研究科とともに「総合理医工学研究科」を設置すべく準備中であり、新たな研究科の中で人材養成を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	当施設は先のがんプロにおいて大学院修了者を県内の地域がん拠点病院に輩出（2名）及び学内で指導者（2名）として雇用している実績がある。また当附属病院は都道府県がん拠点病院としての責務もあり、院外からも多くの若手ががん治療医の短期研修（総勢3名）の受け入れをし、がん薬物療法専門医等の受験資格までの指導を行ってきた。この事業でも修了者は、県内7か所の地域がん診療連携拠点病院との人材ネットワークの中核として県内全体のがん研究・診療の向上に寄与させる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院医学系研究科医科学専攻
教育プログラム・コース名	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース
対象者	医学系研究科（修士課程）医科学専攻大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	認定遺伝カウンセラー資格を取得できる能力を身につけた医療人。 家族性・遺伝性がん診療における遺伝カウンセリングの重要性を理解でき、臨床の現場で実践できる医療人。 がん診療におけるクリニカルシーケンスの意義を理解し、臨床の現場で実践できる医療人。 遺伝性がんに関するリサーチマインドを有する医療人。
修了要件・履修方法	<修了要件> 遺伝カウンセリングコースの科目（修士課程必修科目26単位、修士課程選択必修科目4単位、計30単位及びコース必修科目23単位）に選択科目として臨床腫瘍学、がんサロン実習等を加え、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーとなるに相応しい能力があることを試験により確認する。 <履修方法> e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。
履修科目等	<必修科目> 医科学研究概論（1単位）、生命倫理・医学概論（3単位）、健康科学概論（1単位）、人間機能・形態学概論（1単位）、ほか8科目 <選択必修科目> 医科学研究方法論演習Ⅰ～Ⅵ（各2単位） <コース必修科目> 基礎人類遺伝学（4単位）、遺伝医学（1単位）、染色体検査実習（1単位）、遺伝カウンセリングロールプレイ（2単位）、ほか6科目 <コース選択科目> ライフサイエンス知的財産概論（2単位）、医学科臨床腫瘍学（2単位）、臨床腫瘍学研究特論（2単位）、がんサロン実習（6単位）、ほか4科目 全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	信州大学では平成15年本邦で初めて遺伝カウンセリングコースを設定し、毎年1～3名の学生を受け入れ、今までに15名の認定遺伝カウンセラーを全国（長野県以外では、長崎県、岡山県、福岡県、福島県2名、兵庫県、奈良県、新潟県、大分県）に輩出してきた。このコースでは、従来存在するコースの履修内容に追加して、がんに関する講義と実習の場を選択的に設定することで、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーを養成する。北陸5大学との連携により、広報に努め、北陸地方からの応募者を積極的に受け入れる。
指導体制	従来の修士課程遺伝カウンセリングコースでは、遺伝医学・予防医学教室及び附属病院遺伝子医療研究センターの教員が、担任として、ほぼマンツーマンの体制で指導し、認定遺伝カウンセラーを養成してきたが、今回開設する「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーコース」では、遺伝医学・予防医学教室、附属病院遺伝子医療研究センターに加えて包括的がん治療学教室及び小児医学教室の教員が副担任となり、学生の指導にあたる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、臨床の現場特に当院で始めるクリニカルシーケンスの現場に携わる医療人を目指す。また、関連施設で、遺伝子性のがん診療の現場で遺伝カウンセリングに対応し、遺伝性腫瘍の疫学、臨床研究に参加・関与・推進する。
受入開始時期	平成30年4月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	カウンセラー	0	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース						
対象者	医学研究科大学院学生、医学科研究医養成コース履修者（学部学生）						
修業年限（期間）	4年（学部2年）						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢がん者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあった診療を実現する専門医を養成する。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目26単位以上、選択科目8単位以上を履修し、高齢者がんに関する基礎又は臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>腫瘍薬物学等（12単位）、特別研究（14単位）</p> <p><選択科目>分子腫瘍学、がん基本生物学等（9単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p> <p>注：他大学の授業科目履修は10単位まで認められる</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢がん者に焦点を絞った研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢がん者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山県を含む北信地域は国内でも高齢化率が高い地域で、本プログラムを行う地盤は充実している。富山大学では大学病院でありながら地方の特性を生かし、地域密着型の診療を行っている。在宅療養を目指した地域連携を強化しており、高齢がん患者の看取りまでを踏まえた指導を実現する。富山大学では学部生に対し、研究医養成コースを設けており、このコース学生を本プログラムの対象とすることにより、専門医教育の底辺拡張を目指す。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	e-learningを含む座学による知識習得のほかに、実際の症例を検討する北信オンコロジーセミナーや高齢がん患者の診療を通して専門医としてのスキルを習得する。さらに、北信地域の高齢がんの実態を調査するデータベース研究を展開し、リサーチの実践にも取り組む。コース修了者は地域において最も重要な高齢がん患者診療のプロとして機能するほか、研究を発展させて他地域、次世代への貢献も期待される。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		2	2	2	2	8
	学部学生		2	2	2	2	8
	計	0	4	4	4	4	16

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース(インテンシブ)						
対象者	各種医療機関で実際にごん診療に携わる医師						
修業年限(期間)	1年(延長可)						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢担癌者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあつた診療を実現する専門医。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医。スピリチュアルペインに対応し、患者の人生観、死生観にも向き合える医師。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びキャンサーボードへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したキャンサーボード又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム学特論(1単位)、小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)、老年医療学特論(1単位)、がんライフステージ演習(1単位)</p>						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢担癌者に焦点を絞った研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢担癌者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山大及び連携機関に所属する高齢者の代表的がんである肺癌の医療を専門とするエキスパートであるスタッフが、老年がん患者診療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する(e-learningやシンポジウム参加、TV会議システムで受講)。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できる高齢者がん診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における地域医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース
対象者	医学薬学教育部薬学専攻大学院学生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	がん化学療法のほぼ全てがレジメンに基づき行われ、多くが外来通院で実施されるようになってきている。レジメンの作成や管理、外来化学療法室での医薬品管理や患者への化学療法の説明に加え、緩和医療チームへの参画など薬剤師のがん治療に対する貢献度が特段に増してきている。これらのことについては、日本病院薬剤師会等によって、数多くの講習や実習を含む事業がなされており、基礎的な事柄は6年制薬学部での教育内容に含まれてきている。そこで、我々は、現在の薬剤師を越える高度薬剤師の輩出を目指す。病院における、がん治療や緩和医療の個別化医療に加え、地域包括ケア制度に策定に伴う在宅での抗がん剤や緩和医療への貢献ができる人材の養成をしたい。特に富山県は、三世同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつあることから、大学院生レベルで、医療現場で演習を行うことは意義の高いことである。加えて、国立大学薬学部として、10年後の医療を担う人材の育成も想定し、次世代のゲノム医療にも深い理解を持つ人材を養成したい。
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位（必修科目4単位を含む）を修得し、研究論文が学位論文審査に合格すること。</p> <p><履修用法>授業はe-learning及び対面で行う。在宅医療に関係する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p>
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論（各1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習、地域包括医療でのがん治療演習、ライフステージ事例検討演習（各0.5単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論、がん緩和医療学特論、がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、老年医療学特論、ほか4科目（各1単位）</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	国立大学での6年制薬学教育を受け、薬剤師免許を有する博士課程薬学専攻の学生を対象とすることから、15年後の日本のがん治療を薬学的観点から担える人材の育成を意識している。現在の病院・薬局薬剤師が、すでに行っていることだけでなく、大学でしか実施できない高度な内容を含む。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、講義に加え、実習や遺伝子多型の検出、それらへの抗がん薬との治療効果などについて、深く学ぶシステムをとる。在宅でのがん治療に参画できるだけの薬剤師としての養成だけでなく、地域で他の職種との連携の要となれるよう本学独自の在宅研修ラボを使用して演習をし、加えて、医療現場での実習も行う予定である。演習、実習科目は、金沢大学附属病院での実施分も富山大学の大学院生も履修可能として単位認定できるようにし、富山大学での実施分も両大学の大学院生が履修できるようにし、大学間連携を持ち、地域で薬剤師としての医療を支えることを体験する。

指導体制	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関係する実習のために、同医療薬学研究室 藤 秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関する講義や演習については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	全国の医学部附属病院へ薬剤師として勤務し、日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師を目指し、将来的には、がん専門認定薬剤師やがん専門指導薬剤師の取得をする。6年生薬学部卒業後、4年制の薬学専攻の大学院への入学生は全国でも100名前後であり、特に国公立大学卒業生には、将来の大学病院薬剤部長としての期待がなされている。または、厚生労働省等の中央官庁に勤務し、がん治療を含む行政職につき、日本の薬学関連の医療をリードする。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学医学薬学教育部薬学専攻
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース（インテンシブ）
対象者	北陸3県及び長野県の病院及び薬局薬剤師、特に、がん専門薬剤師の資格を取得しようとする者。日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師。
修業年限（期間）	3カ月から1年（延長可）
養成すべき人材像	がん治療や緩和医療に加えて、地域包括ケア制度の策定と、高齢化に伴い、在宅での抗がん剤の使用や緩和医療への関与も求められるようになった。特に北陸や長野県は、三世帯同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつある。一方で、在宅医療に薬剤師が参画して、間もないことから、理論や技術の習得が困難なのが現状であり、経験則で医療が行われていることも否めない。そこで、薬学系大学院が地域を牽引して、要請度の高い在宅医療でのがん治療に対する薬剤師の役割、最近の抗体医薬品やゲノム医療の講義や演習を実施し、がん治療に関して、最先端医療から地域での在宅医療を担える先導的な人材の育成をする。少子高齢化が日本で最も進んでいる地域であることから、地域全体でも、がん医療を薬学的にリードする人材を育成し、チーム医療を介して、がん患者を全人的に支えることができる薬剤師を輩出する。
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位（必修科目4単位を含む）の修得。</p> <p><履修方法>授業はe-learning及び対面で行う。本プログラムから開始する高齢者における薬物治療やゲノム医療については、本学の専門家が講義をすることから、1年目は、講義を実施するが、TV会議システムを活用し、金沢大学や他の地域へも公開する。在宅医療に関係する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p>
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、ほか3科目</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、臨床疫学（2単位）、最先端医療（2単位）、AYA世代診療（2単位）、腫瘍学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、ほか3科目</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	講義科目は、e-learningにより受講。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、平成29、30年度は講義を実施し、平成31年度以降はe-learningに移行する。演習、実習科目は、金沢大学と共同で開催する。金沢大学附属病院での実施分も単位認定を行い、地域連携をする。
指導体制	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関係する実習のために、同医療薬学研究部 藤秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関係する講義については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。

<p>教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想</p>	<p>日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。受講者の所属している医療提供機関によって異なるが、急性期病院に勤務する者は、がん化学療法を含むチーム医療に貢献し、ゲノム医療を含めた先進的な化学療法の従事し、臨床研究への参画を期待している。慢性期病院や薬局に所属する者は、緩和医療や終末期医療をはじめ、がん患者へのケアを地域で牽引するようにする。実務実習指導薬剤師となり、次世代の人材養成にも貢献する。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成29年10月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H29年度</p>	<p>H30年度</p>	<p>H31年度</p>	<p>H32年度</p>	<p>H33年度</p>	<p>計</p>
	<p>病院・薬局薬剤師及び薬系大学 教員</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>9</p>
	<p>計</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>9</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学医学薬学研究部（博士前期課程）医学領域看護学専攻成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	在宅がん緩和リハビリテーションコース（インテンシブ）						
対象者	看護師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目指して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージの個人、家族、及び集団に対して、総合的な判断能力と問題解決力さらに倫理に関する解決能力を養い、全人的緩和医療が行える看護師。						
修了要件・履修方法	<修了要件>在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）及び「公開講座」又は「実技演習」（1単位）を修得すること。 <履修方法>授業は、TV会議システムにより行う。						
履修科目等	<必修科目>在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位） <選択科目>「公開講座」又は「実技演習」（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸3県におけるTV会議システムや富山がん事例検討会にて、緩和ケア・がんリハビリ、在宅療法、化学療法中患者等の困難事例について意見交換・演習を通して、在宅医療における患者・家族のQOL向上・症状コントロールを図るための知識・技術を得る点に特色がある。						
指導体制	北陸3県のがん看護専門看護師を中心に、医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどそれぞれの立場から意見交換や講義演習を実施する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者にはNPOがんプロフェッショナル認定機構より、「在宅がん緩和リハビリテーション・スペシャリスト」（仮）の認定証を授与する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師		1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻						
教育プログラム・コース名	地域がん専門医養成コース						
対象者	医学系研究科統合先進医学専攻先端応用医学コース腫瘍医学部門の大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん医療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、本学の特色を活かしたPET、MRIの機能画像診断を用いた臨床研究に卓越した医師やその他の医療従事者の養成						
修了要件・履修方法	<p><修了要件> 共通科目18単位、腫瘍医学部門の科目6単位以上、分野専門科目6単位以上を含む30単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。なお、腫瘍医学部門の科目においては、腫瘍専門科目（北信がんプロ科目）との読み代えにより、修了要件の単位数に算入する。</p> <p><履修方法> e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><共通科目> 医科学基礎総論（4単位）、実験基礎演習（2単位）ほか2科目 <選択科目> 臨床腫瘍学特論（4単位）、臨床腫瘍学演習Ⅰ（2単位）、臨床腫瘍学演習Ⅱ（4単位）、機能画像医学特論Ⅱ（2単位）、機能画像医学演習（4単位）、新設する北信がんプロ科目（5科目：各1単位） 全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来の統合先進医学専攻 先端応用医学コース 腫瘍医学部門の科目及び北信がんプロ養成プログラムの科目を履修すると共に本学医科学コースの機能画像医学部門（高エネルギー医学研究センター担当）の科目を履修することにより、画像診断能力の知識を修得する。						
指導体制	福井大学腫瘍病態治療学講座及び福井大学の教職員が対応する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	研修の修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部附属病院						
教育プログラム・コース名	在宅栄養管理コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	栄養学は全ての医療の基本であり、在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や、脳血管障害その他の慢性疾患で在宅医療を行う場合にも地域の医療資源として在宅栄養管理を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する必要がある。在宅医療においても、経口摂取の維持、経管栄養、静脈栄養など患者の状態に最も適した栄養法を安全に行う事が求められる。そのためには在宅栄養パスの効率的な利用も必要である。この研修は、日本静脈経腸栄養学会NST専門療法師資格取得にも繋がる。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目（e-learning）3単位を履修し、試験に合格すること。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設にて20時間以上の研修又は以下の研修を持ってこれに代えることができる。医師にあっては、日本静脈経腸栄養学会の開催するTNT研修会または医師セミナーを受講。医師以外のスタッフは、日本静脈経腸栄養学会の開催するNST専門療法師資格セミナーを受講。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>臨床栄養、在宅緩和ケア、在宅栄養（各1単位）</p> <p><選択科目>以下のいずれかを演習として履修する。NST実習（20時間）</p> <p>医師：日本静脈経腸栄養学会の開催するTNT研修会または医師セミナーを受講。</p> <p>医師以外のスタッフ：日本静脈経腸栄養学会の開催するNST専門療法師セミナーを受講。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	在宅緩和医療を推進する上で最も重要な技術は栄養管理である。がんにかかわらず全ての慢性疾患で終末期のQOLを高く維持するためには一定以上の技術の習得を要する。拠点病院と在宅のスタッフがこのインテンシブコースを履修することで、在宅栄養管理パスが機能し、シームレスな在宅移行が可能となる。また、地域の各職種の栄養管理技術がレベルアップすることで、安全かつ満足度の高い在宅医療が実現できる。						
指導体制	福井大学医学部附属病院をはじめ、各大学病院の栄養サポートチームが中心となる。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設の研修サポートを受ける事ができる。日本静脈経腸栄養学会北陸支部会、TNT委員会もサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師ではNSTのチェアマン、地域NSTの指導者として期待される。医師以外のスタッフは、日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法師資格の取得をめざすことができる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		2	2	2	2	8
	医師以外		10	20	20	20	70
	計	0	12	22	22	22	78

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部附属病院						
教育プログラム・コース名	在宅緩和医療コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	緩和は全ての医療の目的であり、特に在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や慢性疾患の終末期を在宅で療養する場合にも地域の医療資源として緩和医療を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する。在宅医、訪問看護師、訪問薬剤師又は地域の調剤薬剤師、その他地域の医療者が対象となる。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目（e-learning）4単位を履修し、試験に合格すること。がんプロキヤンサーボードにおける緩和ケア症例検討会に2回以上参加すること。又は国の定める緩和ケア研修会の受講をこれにあてることができる。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目> 緩和医療（1単位）、在宅緩和ケア（1単位）、栄養、在宅栄養（1単位）</p> <p><選択科目> がんプロキヤンサーボードにおける緩和ケア症例検討会に2回以上参加する。又は国の定める緩和ケア研修会の受講。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸地域で用いられている在宅緩和医療パスを用いて、病院から在宅へのシームレスな連携を行うための医療者を養成する。在宅栄養にも重点をおく。						
指導体制	北陸信州の大学緩和ケアチームと緩和医療学会専門医、認定医、暫定指導医が中心に教育を行う。緩和医療学会緩和ケア研修会が研修をサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		4	4	4	4	16
	医師以外のスタッフ		20	20	20	20	80
	計	0	24	24	24	24	96

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース						
対象者	医学研究科生命医科学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	希少がんを含むがん患者を臓器横断的に診療できる専門家の養成を目指し、がん患者の思いに寄り添い、最新のエビデンスと情報を集めると同時に、患者・家族の希望を叶えられるように努力できる、がん専門医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>博士課程に4年以上在学し、所定の単位数以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査に合格することで博士（医学）を授与する。専門医養成コースの授業科目のうち必修科目12単位を含む15単位を修得したのものには北陸がんプロフェッショナル認定医の申請資格を授与する。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）ほか9科目</p> <p><選択科目>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論、臨床統計学演習、分子生物学入門 がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、老年医療学特論、がんライフステージ演習、北信がんプロ科目（5科目）（各1単位）</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	金沢医科大学再生医療センターにおける希少がん等対象の免疫療法・再生医療、金沢医科大学病院集学的医療部遺伝子医療センターにおける遺伝カウンセリングにおける独自の教育内容を有する。また金沢医科大大学院医学研究科腫瘍内科学/金沢医科大学病院腫瘍内科では肉腫・神経内分泌腫瘍・原発不明癌などの臓器横断的分野の診療・教育・研究を行っている。						
指導体制	腫瘍内科学：元雄 良治、安本和生、再生医療学：下平 滋隆、先進呼吸器外科学：浦本 秀隆、消化器外科治療学：小坂 健夫、遺伝子医療センター：新井田 要、をはじめとする本施設の教育スタッフが指導を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本教育コースの修了者は、各専門分野の専門医・認定医等の資格を取得し、その後は地域を問わず広く教育職・研究職・第一線の診療医として活躍できる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん集学的治療医養成コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	富山県西部能登南部連合地域および能登北部地区を重点にがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療などに造詣の深い医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びカンサーボードへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、TV会議システムを利用したカンサーボード又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当施設が実地医療を担当している地域のがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療の教育機会を提供する点に新規性がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがん集学的治療のエキスパートであるスタッフが、様々ながん種に対する集学的治療を行うために必要なスキルをe-learning又はシンポジウムで講義する（e-learningやシンポジウム参加、TV会議で受講）。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できるがん集学的治療のリーダーとして、地域基幹病院におけるがん医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	1	2	2	2	2	9
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程）看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフステージコース						
対象者	看護専門看護師コース大学院学生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目的として、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける痛みに関する知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師。さらに、総合的な判断能力と組織的な問題解決力を持ち、専門領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず、教育や政策の課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能できる看護師。						
修了要件・履修方法	共通科目と各専門看護分野の専門科目から38単位の他に「がんライフステージ演習」を履修すること。「がんライフステージ演習」は、各大学のTV会議システムからの参加でも可能とする。						
履修科目等	<必修科目>看護科学論（2単位）、看護研究（2単位）、フィジカルアセスメント（2単位）、病態生理学（2単位）、臨床薬理学（2単位）、特別研究（6単位）、成人看護学特論（2単位）、がん看護援助論（2単位）、がん病態治療学特論（2単位）、緩和ケア演習Ⅰ（2単位）、がん看護学演習Ⅰ（2単位）、ほか6科目 <選択科目> コンサルテーション論（2単位）、ケアと哲学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、ほか5科目 全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでの「がんライフステージ演習」は、テレビ会議システム等を活用し、がん看護専門看護師養成コースを有する大学（石川県立看護大学、富山大学、福井大学）が提携し、単位互換を可能とする。従来の教育とは異なり、各大学の教授陣の専門を学ぶことが出来る。講師として、がん看護、小児看護、老年看護、リエゾン看護の専門看護師を採用することで、それぞれの専門性の視点から、各ライフステージにおけるがん看護について理解を深めることができる。						
指導体制	北信越におけるがん看護専門看護師、小児看護専門看護師、老人看護専門看護師、精神看護専門看護師を講師に迎え、講義や演習を通してライフステージにおけるがん看護の特徴と支援の在り方を教授する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了には北信がんプロNPO機構より「がんライフステージ・スペシャリスト」の認定を授与する。また、本コース修了生は、北信がんプロのインテンシブコース等で講義、演習を行い、さらに自身のキャリアアップを行う。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程）看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフケアコース（インテンシブ）						
対象者	看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカー等						
修業年限（期間）	6月～1年						
養成すべき人材像	これまでのがん看護経験又はすでに取得している専門看護師が、がん看護、小児看護、老年看護のそれぞれの専門性を活かし、全人的痛みに関する事例やミニレクチャーを通して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける全人的痛みに関する生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師を養成する。						
修了要件・履修方法	＜修了要件＞がんライフステージ演習1単位以上の修得及び公開講演への参加。 ＜履修方法＞TV会議によるセミナー、演習等で履修する。						
履修科目等	＜必修科目＞がんライフステージ演習（1単位）、公開講演への参加。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸3県においてTV会議システムやWeb会議システムを利用して、各専門看護師や薬剤師、医師で、緩和ケア、がんリハビリ、化学療法中の患者への疼痛ケア事例について意見を交換をおこない、各対象に応じた緩和ケアの知識・技術を得ることができる。						
指導体制	北陸3県のがん看護専門看護師と薬学部の学生、薬剤師を中心に、小児専門看護師、老人看護専門看護師、薬剤師、医師、理学療法士がそれぞれの専門的立場からテレビ会議システムを通して、事例検討する。それぞれの専門を互いに共有することで、小児、AYA世代、老年期の特徴を理解すると共に患者の全人的理解とそのケアについて検討していく。がん患者の会などとも連携を取り、事例検討のうち1-2回は、患者会にも参加していただく。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、地域基幹病院のみならず、僻地におけるがん医療に貢献する。また、この経験を生かし、看護師、学部生（看護、薬学、医学）への関わりの中で、次世代のがん医療従事者の育成に関わる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	1	3	3	3	3	13
	看護師以外の多職種	1	2	2	2	2	9
	計	2	5	5	5	5	22

事業の実施体制（担当者一覧）

	氏名	所属(研究科・専攻等)・職名	事業における役割
	(事業責任者)		
1	矢野 聖二	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、がん進展制御研究所教授	事業推進統括コーディネーター、北信がんプロ運営協議会会長、総務委員会
2	山崎 光悦	金沢大学学長	学長連絡協議会会長
3	吉崎 智一	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院研修医・専門医総合教育センター長	広報委員会委員長
4	絹谷 清剛	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院核医学診療科長	プログラム間連携担当
5	中田 光俊	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院脳神経外科診療科長	がんセンターハウス委員会委員長
6	溝上 敦	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院泌尿器科診療科長	教務委員会委員長
7	大島 正伸	金沢大学がん進展制御研究所教授	広報委員会委員長
8	村山 敏典	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院臨床開発部長	北信地域がんセンターハウス担当 (コアメンバー)
9	土屋 弘行	金沢大学医薬保健研究域医学系教授、附属病院整形外科主任教授	北信地域がんセンターハウス担当 (コアメンバー)
10	衣斐 寛倫	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻准教授、がん進展制御研究所准教授	北信地域がんセンターハウス担当 (コアメンバー)
11	堀 修	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科長	医学系内の調整
12	原田 憲一	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授	教育カリキュラム開発・編成担当
13	蒲田 敏文	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院病院長	実習総括
14	谷本 梓	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻助教、がん進展制御研究所助教	実習コーディネーター担当（医学総括）
15	稲垣 美智子	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻長	北信がんプロ運営協議会委員、保健学系内の調整
16	武村 哲治	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授	保健学系内の調整
17	松下 良	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻教授	北信がんプロ運営協議会

18	菅 幸生	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻助教	教育カリキュラム開発・編成担当
19	松永 司	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻教授	薬学系内の調整
20	国嶋 崇隆	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻長	薬学系内の調整
21	玉井 郁巳	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻長	薬学専攻内の調整
22	濱田 州博	信州大学長	事業総括・学長連絡協議会委員
23	田中 栄司	信州大学学術研究院医学系教授、大学院医学系研究科長	事業総括
24	小泉 知展	信州大学学術研究院医学系教授（包括的がん治療学教室）	事業推進プロジェクトリーダー、事業推進委員会委員長、教育プログラム責任者
25	中沢 洋三	信州大学学術研究院医学系教授（小児科学教室）	教育カリキュラム開発・編成担当
26	伊藤 研一	信州大学学術研究院医学系教授（外科学第二教室）	事業推進委員会委員
27	塩沢 丹里	信州大学学術研究院医学系教授（産婦人科教室）	事業推進委員会委員
28	古庄 知己	信州大学学術研究院医学系准教授（遺伝子医療研究センター）	事業推進委員会委員
29	本田 孝行	信州大学学術研究院医学系教授、医学部附属病院長	事業推進委員会委員
30	遠藤 俊郎	富山大学長	事業総括
31	齋藤 滋	富山大学附属病院長	事業推進プロジェクトリーダー
32	林 龍二	富山大学附属病院臨床腫瘍部教授	教育カリキュラム開発・編成担当（総括）
33	長田 拓哉	富山大学附属病院集学的がん診療センター人材育成部門長	広報戦略担当
34	北村 寛	富山大学大学院医学薬学研究部泌尿器科教授	教育カリキュラム開発・編成担当
35	関根 道和	富山大学大学院医学薬学研究部疫学・健康政策学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
36	梶浦 新也	富山大学附属病院集学的がん診療センター緩和ケア部門長	実習コーディネーター担当（総括）
37	牧野 輝彦	富山大学大学院医学薬学研究部皮膚科准教授	実習コーディネーター担当
38	新田 淳美	富山大学大学院医学薬学研究部・薬物治療学研究室教授	富山地域での薬学関連事業の総括、金沢大学や他大学病院との連携担当
39	藤 秀人	富山大学大学院医学薬学研究部・医療薬学研究室教授	地域医療に対する実習・演習担当
40	櫻井 宏明	富山大学大学院医学薬学研究部・がん細胞生物学教授	ゲノム医療に関する講義実施の総括
41	眞弓 光文	福井大学長	事業総括・学長連絡協議会委員
42	片山 寛次	福井大学大学院医学領域附属病院部がん診療推進センター長	総務委員会委員、教務委員会委員、広報・ICT委員会委員、キャンサースポード運営委員会委員

43	谷澤 昭彦	福井大学大学院医学領域 がん専門医育成推進講座教授	総務委員会委員、カンサポード運営委員会委員、備品調達委員会委員
44	上野 栄一	福井大学大学院看護学領域 基礎看護学分野教授	広報・ICT委員会委員、看護保健系会議委員
45	磯見 智恵	福井大学大学院看護学領域成人・老年看護分野教授	総務委員会委員、教務委員会委員
46	小林 基弘	福井大学大学院医学領域腫瘍 病理学分野教授	教務委員会委員
47	山下 芳範	福井大学大学院医学領域附属 病院部医療情報部准教授	備品調達委員会委員
48	繁田 里美	福井大学大学院看護学領域成人・老年看護分野准教授	看護保健系会議委員
49	神田 享勉	金沢医科大学学長	事業総括・学長連絡協議会委員
50	元雄 良治	金沢医科大学腫瘍内科学教授	金沢医科大学コーディネータ、教育カリキュラム開発・編成担当
51	安本 和生	金沢医科大学腫瘍内科学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
52	下平 滋隆	金沢医科大学再生医療学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
53	浦本 秀隆	金沢医科大学呼吸器外科学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
54	小坂 健夫	金沢医科大学消化器外科学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
55	新井田 要	金沢医科大学総合医学研究所 准教授	教育カリキュラム開発・編成担当
56	石垣 和子	石川県立看護大学（看護学・ 地域看護）学長	事業総括・学長連絡協議会委員
57	牧野 智恵	石川県立看護大学（看護学研究科・がん看護）研究科長	事業推進プロジェクトリーダー、事業推進委員会委員長、教育プログラム責任者
58	川島 和代	石川県立看護大学（看護学研究科・老年看護）教授	がん看護教育カリキュラム開発
59	西村 真実子	石川県立看護大学（看護学研究科・小児看護）教授	がん看護教育カリキュラム開発
60	岩城 直子	石川県立看護大学（看護学研究科・がん看護）准教授	事業推進委員

申請資格の適合状況

以下に記載の i) から vii) の各指標について、該当する場合は<該当する>欄に○を、該当しない場合は<該当しない>欄に○を記入してください。

	該当する	該当しない
(組織運営関係)		
i) 学生募集停止中の大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
iv) 平成28年度に実施した再推費の事後評価の結果において、「事業目的が達成できなかった」と評価された大学（対象プログラムは別紙1のとおり。）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
v) 申請時点において、再推費のプログラムの中間評価で、「中止することが必要」と評価された大学（対象プログラムは別紙1のとおり。）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
(設置関係)		
vi) 設置計画履行状況等調査において、「警告」が付されている大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
vii) 大学、大学院、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第1条第3号の要件を満たしていない大学又は第2条第1号若しくは第2号のいずれかに該当する者が設置する大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

上記の回答について、間違いありません。

事業責任者職名・氏名 金沢大学がん進展制御研究所教授 矢野 聖二

申請の基礎となる教育改革の取組状況

設置計画履行状況等調査への対応状況

【指標への対応状況】対応済又は未対応に○。未対応の場合は対応予定時期を記入。

対応済	○	未対応		(全学での対応完了時期)
-----	---	-----	--	--------------

【実施計画】

--

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン
取組の概要と推進委員会からのコメント

整理番号

5

申請担当大学 (連携大学)	金沢大学(計6大学) (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学)
プログラム名	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
事業推進責任者	矢野 聖二(金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科学教授)
取組の概要	
<p>本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンシブ9)を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。</p>	
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>	
<p>○北信地域は超少子高齢化地域であり、本地域でのがん医療の進め方は、今後、他地域や都市圏でのがん医療のモデルとして評価できる。</p> <p>○各大学の役割分担に具体性があり、かつ連携のメリットが明示されている点が評価できる。</p> <p>○相互補完的教育プログラムの追加と導入は、本事業活性化の点で評価できる。</p> <p>○地区医師会や患者会を含めた運営協議会を設置し、意思決定や運営を行うこと点は先進的な取組であり評価できる。</p> <p>●取組継続に関して、各大学の学長のガバナンスにおいて予算確保の継続は評価するが、中長期的戦略も必要であり、公的資金以外にも資金確保の工夫を期待したい。</p> <p>●事業計画の進捗管理・改善や北信地域がんデータベースの構築に関する方法論、実施体制等が提示されていない。</p> <p>●少子高齢化と小児・AYA世代のがん医療についてどのような問題点があり、どのように解決していくのか明確となっていない。</p> <p>●外部評価は隔年施行予定とあるが、アドバイスの、監査的要素も入れて毎年関与されるシステムの構築が望ましい。</p> <p>●北信地域の特徴は記してあるが、遠隔教育システムやデータベースを新たに構築する以外、その特徴に対して、具体的な教育・研究活動が明瞭に示されていない。</p> <p>●各大学の得意な領域を活用する趣旨は評価できるが、他大学の院生がどのような形でその恩恵に与えるのか具体策が不明確である。</p> <p>●人材養成モデルの情報発信の方法が不明確である。単なる教員、院生の研究成果の発表にとどまらないよう考慮する必要がある。</p>	

外部評価結果（総括）

【評価結果】

■問題や不十分な点はない。

□一部問題や不十分な点がある。

□全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

今年度は新型コロナ禍にもかかわらず、工夫しながら1年間、可能な範囲で最大限、がんプロ事業に尽力されたと評価します。特に、がんプロ本科生、インテンシブコース履修生ともに、全体として目標を達成されたことは特筆すべき所です。E-ラーニング教材のさらなる充実、英語化などの教育内容の工夫も見られました。一般市民向けの講演会などの活動、ホームページやメディアを用いた情報発信にも務められました。

一方で、がんプロ本来の目的である人材養成に関する教育内容や成果についての広報、情報発信も心がけて頂きたいと思います。また、がんプロは6大学の連携事業なので、大学間の交流、さらには職種間・学生間、教員・学生の交流もさらに進めて、北信地域全体のがん医療向上を図って頂くようにお願いします。

第3期がんプロも残す所あと1年になりましたが、最後までしっかりと事業を継続して、優秀な医療人材の養成を推進して頂くことを期待申し上げます。

(優れた点)

・がんプロ大学院生（本科正コース）およびインテンシブコース履修生が、受入れ目標数をクリアしている点。

・コロナ禍にもかかわらず、医療者向け・一般市民向けのセミナー・講演会を工夫しながら開催した点。

・e-ラーニング教材として新たな追加があり、さらに充実したラインナップになった点

・教材の英語化を進めた点、国際化の観点から大変重要と思います

・文科省の中間評価に迅速に適切に対応した点

(改善を要する点)

・がんプロによる人材養成について、教育内容、履修状況およびがんプロ教育のアウトカムとして養成された人材についての調査や情報発信も必要です。

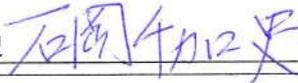
・大学間の連携、学生・職種間や教員・学生間の交流は不十分で、新型コロナ禍で致し方ないという考えもあるが、工夫して前向きに努力頂きたいとあえて申し上げます。

・イベントについてはがんプロの教育との関連性を頭に置いて、進めて頂きたいと思います。

・イベントはできるだけアンケートを取って、参加者の反応・意見を集めて、反省するとともに、次につなげて頂きたいと思います。

・ホームページによる発信は大変重要なので、さらなる充実を期待します。イベントについては告知だけではなく、活動や成果報告の発信が望まれます。一部、古い記載や準備中のものがあるので、可能な限りバージョンアップをお願いします。一般市民向けの視点からもう一工夫欲しい所です。特に第3期がんプロのメインテーマであるゲノム医療、緩和ケア、小児・AYA世代の問題点なども、積極的な発信をして頂ければと思います。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員：石岡千加史  (自筆)

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

北信がんプロ全体で、目標を上回る履修生（本科コースおよびインテンシブコース共に）を確保した点は高く評価できる。また、国際化を見据えて教材の英語化を図るなど、教育内容に工夫が見られる。さらに、がんプロの取り組みに関連したデータベース事業により研究へと展開している点はユニークであり、今後の成果が期待される。

（優れた点）

1. 目標を上回る履修生（本科コースおよびインテンシブコース共に）を確保した点
2. 国際化を見据えて教材の英語化

（改善を要する点）

1. 教員と学生の交流、学生間の交流、連携大学間の交流に関して、不十分な点があるが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいため、今年度はやむを得ない状況であったと理解できる。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員：


[Handwritten signature]

（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

- ・北信がんプロの活動に参加している6大学が、それぞれの強みや特徴を生かしながら、相互補完的ながん医療人材の育成に積極的に取り組んでいることは、評価できます。
- ・コロナ禍でも、e-learning、北信オンコロジーセミナー、ライフステージ事例研究会、海外視察者のFD報告会などの活動を遠隔教育システムを利用しながら活発に行ったことは評価できます。

（優れた点）

- ・テレビ会議システムを用いての、特徴のある症例の検討や先端がん治療に関するオンラインセミナーの開催などは、がん治療に関わる医療従事者に大変役に立つものと思われます。
- ・北信がんプロ独自のe-learning教材は年ごとに拡充されてきており、大学の枠を超えて受講でき単位取得できること、また自分が学びたいことを自分の都合で何度でも視聴できる非常に有益なプログラムだと評価できます。またe-learning教材の英文化に取り組んでいることも有意義であります。

（改善を要する点）

- ・北信がんプロでの研究結果や活動成果をWEBやテレビ会議を使用しながら、他の大学や医療関係者に情報発信し、本事業を全国的に普及・促進させる取り組みをしていただきたい。
- ・がんの予防・検診をして早期発見、早期治療することにより、早期に職場復帰することや健康寿命を延ばせることが出来ることなどを市民講座や新聞等を通じてもっと啓蒙することは、人生100年時代を迎えている現在のクオリティ・オブ・ライフの見地からも大切なことだと思います。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 松浦 代昭 （自筆）

【評価結果】

問題や不十分な点はない。

一部問題や不十分な点がある。

全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

新型コロナ禍にもかかわらず、第3期がんプロ4年目として、北信6大学がそれぞれの特徴を出しながら、がんプロ事業を実践したことを評価します。人材養成事業であるがんプロにまず問われるものは大学院生・受講生の確保ですが、6大学がすべてのコースに大学院生・受講生の受入れ実績をあげておられることに最大級の賛辞を贈らせて頂きます。がんプロ教育を支えるeラーニングはさらに充実しましたし、ICTを用いたオンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会もこれまで同様に、充実した内容でよい教育環境を提供していると評価されます。北信がんプロでは大学間の連携、職種間の交流をする機会が多くないので、オンコロジーセミナー・ライフステージ事例検討会では、できるだけがんプロ生の参加を中心にして、教育効果を考えながら実施して頂きたいと強く希望します。ホームページはフェイスブック・ツイッターも併用して、広報に努められ、また以前に指摘した各大学のホームページもそれぞれわかりやすく整備頂きました。広報は重要ですので、少し改善すべき点に記しましたが、さらによいものにして頂きたいと思います。

（優れた点）

・がんプロ大学院生（本科正コース）の2020年度の受入れ人数は29名、インテンシブコースが91名と、受入れ目標数をクリアしている点。今年度は受入れ人数0が2コースあったが、全体としては各大学において、大部分のコースに学生が入っており、大きなばらつきなく、おおむね目標を達成しているのはすばらしいと評価します。

・オンコロジーセミナーはコロナ禍にもかかわらず今年度も4回実施、平均147名（11-13回の3回平均）が参加した点。（第14回も参加人数が知りたいです）

・ライフステージ事例検討会は9回実施で平均125名と昨年の平均97名よりも多数の参加

者を集めた点。また、参加内訳では多職種、特に医師の参加が増加した点。検討会の内容も素晴らしいと高く評価します。

・コロナ禍にもかかわらず、医療者向け・一般市民向けのセミナー・講演会を工夫しながら開催した点。

- ・e-ラーニング教材として新たな追加があり、さらに充実したラインナップになった点
- ・教材の英語化を進めた点、国際化の観点から大変重要と思います
- ・文科省の中間評価に迅速に適切に対応した点
- ・各大学についてのコメント

(信州大) 2つのがんプロ教育コースで目標をクリアした点(インテンシブコースは今年度は減少が残念)。がんプロ教育としてがんゲノム外来の見学・研鑽やエキスパートパネルに参加させて、実践を学ばせている点も評価できる。

(富山大) 高齢がん患者対策コース、高齢化に関する2つのインテンシブコースで目標をクリアした点(個別化医療薬剤師コース、在宅緩和リハのインテンシブコースは0が残念)。がんプロ主催で「がん治療を受ける子どもの力を引き出す支援」のセミナーを実施した点。

(福井大) 本科生コース、インテンシブコースすべての目標をクリアした点。医療者向けに北信がんプロ看護セミナー、がん医療スキルアップセミナーを、一般向けに県民公開シンポジウム、AYA世代のがん体験者の支援に関する公開講座など、精力的に開催した点。ホームページや新聞などから情報発信を行った点。

(金沢医大) 本科生コース、インテンシブコースとも目標をクリアした点。履修状況を把握している点。医療者向けFDセミナーを2回開催し、市民向けの公開講座も開催した点。ホームページからの情報発信。

(石川県立看護大) 本科生コース、インテンシブコースとも目標をクリアした点。これまで養成した人材を勤務先とともに把握している点。石川県立看護大が中心で行ってきたライフステージ事例検討会は素晴らしい取り組みと高く評価できる。また、CNS関係者による事例検討会もよい取り組みであり、リンパ浮腫セミナー2回、市民公開講座を開催し、アンケートを取ってきちんと振り返りを行っている点も評価できる。

(金沢大) 本科生コース、インテンシブコースとも目標をおおむねクリアした点。エキスパートパネルをがんプロ教育に役立てている具体例を記載した点。ホームページによる情報発信を積極的に行った点。

(改善を要する点)

・このような形の報告では、どうしてもイベントが中心になるのはやむを得ないのですが、がんプロは人材養成事業なので、どのような教育をしているかの中身とどういう人材が養成できたかというアウトカムが最も重要と思います。一部のその点に言及している大学もありますが、もう少し教育内容や履修状況などについて、報告が欲しいです。

・イベントについてはがんプロが主体に行ったものか、他の事業を共催したものか、区別して頂きたいと思います。イベントにはがん拠点病院事業と重複する所があることは理解しますが、がんプロの人材育成の目的やがんプロの成果の広報のイベントも考慮頂ければ幸いです。

・がんプロによる人材養成の成果として、専門資格取得人数の報告も欲しいですし、彼らの卒業後の活躍も知りたい所です（その意味で石川県立看護大の報告は優れていると思います）。

・海外研修、人材交流はコロナ禍で実施できなかったのは残念です。コロナ禍でできなかったという事情はわかりますが、工夫して開催することも考えていただきたいとあえて申し上げます。

・市民公開講座やセミナーはできるだけアンケートを取って、参加者の反応・意見を集めて、反省するとともに、次につなげて頂きたいと思います（実施している大学もありましたが）。

(北信がんプロホームページについて)

・様々なイベントについては、お知らせで告知されていますが、活動や成果の報告が少ないように思います。また、がんプロの主目的である人材育成についての成果報告も是非発信して頂きたいと思います。

・新型コロナに関する患者ケア情報を掲載したのは評価できます。

・患者・一般向けの広報をもう一工夫して、充実させて頂ければと思います。専門医リストを掲載したのはよいアイデアですが、2019年5月から更新されていません。

・医療者向けのがん情報も更新されておらず、準備中で放置されているものがあります。国立がんセンターにリンクする形式ですが、準備中の中で小児白血病、小児リンパ腫は国立がんセンターのホームページに掲載されていますし、乳頭部癌、尿路上皮がんは対応するものが記載されています。可能であれば、北信がんプロの皆さんのオリジナルもあればよいと期待します。

・できればあち3期がんプロのメインテーマであるゲノム医療、緩和ケア、小児・AYA世代の問題点なども、積極的な発信をして頂ければと思います。

(各大学へのお願い)

(信州大) 教育の中身の記載が欲しい。過去の報告の記載は紛らわしいし、「小児・AYA世代のがんへの対応」の研修会を今年度2/14に行ったのであれば、去年のポスターではなく、今年のポスターが欲しい。子宮頸がん予防啓発プロジェクトががんプロも共催しているのなら、その旨をポスターに記載して欲しい。

(富山大) 総合がんセンターを創設して、市民に啓発活動を行ったのはよいが、総合がんセンターを是非、がんプロ教育にも生かすという視点が欲しい。ゲノム医療に関する過去の活動(ポスター)を記載するのは紛らわしい、ゲノム拠点病院に選定されたことに改めて敬意を表すが、今年度、どのような活動を行い、がんプロ教育にどう生かしたかの説明が欲しい。

(福井大) がんプロ教育の内容についての記載が欲しい。イベントの開催はできるだけアンケートを取って、振り返って欲しい。第14回オンコロジーセミナーの参加人数を記載して欲しい

(金沢医大) イベントの開催時にはできるだけアンケートを取って、反省をしてほしい。

(金沢大) がんプロの教育内容について報告が欲しい。「石川県がん診療連携協議会(妊孕性温存)研修会」はがんプロ共催なら、その旨をポスターに記載して欲しい。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 真島嘉幸（自筆）

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

【実施状況に関するコメント】

- ・コロナ禍のため制限を受けた1年だった。特に、海外FD、集会、カンサーボードなどは中止、休会になるなど、事業によってはシビアな対応を迫られた年ではあった。事業内容によっては開催方法を変更するなどして、予定通り事業を遂行できたことは評価できる。
- ・本科生、インテンシブコースも目標を上回る数の履修生を確保できたことは評価できる。
- ・信州大学の若年層を対象とした「愛は子宮を救う。ずく出して、子宮頸がん検診に行こう！」キャンペーンは、地域特性と対象群のカルチャーを捉えたクリエイティビティが光る。
- ・富山大学のがんゲノム医療研修会は、日本トップの講師陣を揃えたところは素晴らしい。また、「肉腫・希少がんセンター」を開設したことは、どこへ行けば治療が受けられるのか困っている希少がん患者とその家族にとり最大級の朗報である。
- ・福井大学のコロナの影響を受けないオンラインによる新しい取り組みは評価できる。また、NSCLCと肺癌のような難治癌の最新治療を紹介するオンコロジーセミナーを医療関係者向けに開催できたことは良い。また、本科生、インテンシブコースはそれぞれ予定通り、予定以上の履修生を確保した点は評価できる。
- ・金沢医科大学は、コロナの影響を最小限におさえ、事業を推進された。また、すべてのコースで目標を上回る数の履修生を確保できたことは評価できる。。
- ・石川県立看護大学は、会場での集会は制限されたが、開催方法を変更して予定の事業を開催できたこと、すべてのコースで目標を上回る数の履修生を確保できたことは評価できる。予定回数の事例検討会を実施したことはよい。
- ・金沢大学は、集会活動は制限されたが、それ以外は計画に近い活動を行うことができたこと、本科生、インテンシブコース目標を上回る数の履修生を確保できたこと、担当のオンコロジーセミナーを2回実施できたこと、遺伝子パネル検査を実施し、他大学の大学院生の研究実施に協力したこと、妊孕性温存に関し、研修会とパンフレット配布により情報共有ができたことは評価できる。
- ・各大学では、ホームページを定期的に更新し情報を発信できたことは評価できる。

・患者の立場で言うと、医療関係者のクラスターを避けるために各大学は配慮ある事業展開をされたと思う。少々の遅延があったとしても、非常に考慮された、適切ながんプロ活動だったと思う。コロナ対応自体は、評価項目ではないが、各大学のコロナ対策はがんプロ事業継続には重要なポイントなので評価したい。また、今後の展開に期待したい。

(優れた点)

- ・信州大学の若年層を対象とした「愛は子宮を救う。ずく出して、子宮頸がん検診に行こう！」キャンペーンは、地域特性と対象群のカルチャーを捉えたクリエイティビティが光る。
- ・富山大学のがんゲノム医療研修会の日本トップの講師陣を揃え、最新の情報提供を目指した企画は素晴らしい。また、「肉腫・希少がんセンター」を開設したことは、どこへ行けば治療が受けられるのか困っている希少がん患者とその家族にとり最大級の朗報である。
- ・福井大学は、ハイブリッド版の県民公開シンポジウム「がん診療最前線」を開催し、地元新聞にもダイジェストを掲載し、カバレッジの拡大に努めたことは評価できる。また、ACP「もしバナゲームを通して考えてみよう」、「AYA世代のがん体験談からその支援を考える」、がん医療スキルアップセミナーなど、工夫をこらした企画は評価できる。
- ・金沢医科大学は、「日本のがん医療の近未来」というタイトルで、市民が知る必要のある「がん遺伝子パネル検査」、「家族性腫瘍症候群への対応について」のWeb市民公開講座を開催し、これからのがん医療について、市民に考える機会を与えたことは評価できる。
- ・石川県立看護大学は、北信がんプロのテレビ会議システムを使った事例検討会を毎月開催し、外来化学療法、在宅の患者支援、家族看護などの必要とされる事例を検討したことは評価に値する。また、がん看護事例検討会では、北里大学のがん看護CNSとの実践的なディスカッションが行われた点は評価できる。
- ・金沢大学は、石川県で整備が遅れている妊孕性温存に関し、研修会とパンフレット配布により情報共有ができたことは評価できる。

(改善を要する点)

- ・6大学のオンラインを使用したシームレスなネットワーク化を通し、より費用対効果の高いがんプロ事業の実施、運営、進行管理ができる体制を継続的に構築していただきたい。
- ・がん患者と家族のメディカルリタレシーとコミュニケーション能力向上に向けた教育プログラムも大切なので、Shared Decision Makingを視野に入れた取り組みも検討いただきたい。
- ・ゲノム医療の入り口（がん遺伝子パネル検査、F1CDx、オンコパネル、F1リキッドなど）と出口（遺伝

子変異にマッチした治療法、遺伝カウンセリングなど)に関する情報発信の強化(市民公開講座、勉強会、オンラインセミナー、HPなど)を続けていただきたい。

- ・がん患者の声を吸い上げて、必要とされている情報を社会への積極的に発信してほしい。
- ・補助期間終了後に、患者、市民向けの情報発信も継続できるよう、関連事業の費用対効果を強化していただきたい。

・希少がんのような罹患者数が少ない領域では、各施設間のネットワーク活用によるカンサーボードだけでなく、欧州のEURACANにみられるような、新たに開設された「希少がんセンター」と各施設とがハブとスポークで結ばれ、迅速に個別症例に対応できるシステムの構築も検討いただきたい。

注：希少がんに関する欧州のEURACAN(The European Reference Network(ERN) on Rare Adult Solid Cancers)は、診断、治療へのアクセスを改善し、希少がん患者に高品質の医療を提供することを目的として、医療提供者と高度に専門化された医療をカバーする希少がんセンター(Center of Excellence)を結ぶネットワーク。